

「湯河原町地域福祉計画」をつくるための
町民アンケート調査
報告書

令和8年8月

目次

I	調査概要	1
1	調査目的	1
2	調査対象	1
3	調査内容	1
4	回収状況	1
5	調査結果の表示方法	1
II	調査結果	2
1	あなた自身のことについて	2
(1)	性別	2
(2)	年齢	2
(3)	家族構成	3
(4)	同居家族	3
(5)	居住地区	4
(6)	職業	4
2	福祉について	5
(1)	福祉への関心	5
(2)	障がいなどのあるなしに関係なく、その人らしく生活していける取組に対する 住民の理解...	6
3	福祉の情報について	7
(1)	福祉に関する情報の入手方法	7
(2)	福祉や健康について知りたい情報	10
4	日ごろの悩みや不安について	13
(1)	日ごろ、悩みや不安を感じていること	13
(2)	悩みや不安があったときの相談先	16
(3)	悩みを相談しない理由	19
5	地域におけるふだんの生活について	21
(1)	「地域」と考える範囲	21
(2)	近所の人とのつきあい程度	22
(3)	つきあいがほとんどない理由	23
(4)	地域の方からの協力が必要なこと	25
(5)	具体的に協力が必要なこと	26
(6)	人との関わりについて、自身の考えに近いもの	28
(7)	高齢者等の世帯に対して、協力できること	30

6	居場所について	33
	(1) あてはまると思うこと	33
	(2) 親友の有無	34
	(3) 居場所だと思える場所	35
7	成年後見制度について	37
	(1) 成年後見制度の認知	37
	(2) 成年後見制度を認知してもらうために必要だと思うもの.....	38
	(3) 成年後見制度の利用についての考え	39
	(4) 成年後見制度の利用についての相談先	40
8	地域の福祉活動やボランティア活動について.....	42
	(1) 過去1年間のボランティア活動への参加有無	42
	(2) 参加した活動の分野	43
	(3) 活動の参加頻度	46
	(4) 活動に参加した理由	47
	(5) 活動に参加していない理由	49
	(6) 参加したい地域活動やボランティア活動	51
	(7) 地域における支え合い、助け合い活動を活発化するために重要だと思うこと.....	55
9	民生委員・児童委員の活動について	58
	(1) 地域の「民生委員・児童委員」の認知	58
	(2) 「民生委員・児童委員」を知った方法	59
	(3) 「民生委員・児童委員」の活動内容の認知	61
	(4) 知っている民生委員・児童委員の活動	62
10	地域における災害時の対策について	64
	(1) 「要配慮者」に対する支援制度の認知	64
	(2) 「要配慮者」に対する支援制度を知った方法	65
	(3) 「要配慮者」に対する支援制度の関わり	67
	(4) 災害時に同居家族以外に近所で頼れる人の有無	68
	(5) 災害発生時の備えとして重要だと思うこと	69
11	再犯防止について	72
	(1) 犯罪をした人の立ち直りへの協力意向	72
	(2) 協力したいと思わない理由	73
	(3) 再犯防止のために必要だと思うこと	76
12	今後の地域福祉の取組について	78
	(1) とともに助け合い、支え合う地域づくりを推進するためにできそうなこと.....	78
	(2) 湯河原町が福祉のまちづくりを充実していく上で優先して充実すべき施策.....	79
	(3) まちづくりのために日ごろ感じていること・考えていること.....	82
Ⅲ	調査票	90

I 調査概要

1 調査目的

令和9年度から令和13年度を計画期間とする「湯河原町地域福祉計画」策定にあたり、町内にお住まいの皆様の福祉についての考え方や意見等を把握するために調査を実施しました。

2 調査対象

- (1) 調査地域 湯河原町全域
- (2) 調査対象 18歳以上の湯河原町民
- (3) 抽出人数 1,000人
- (4) 抽出方法 単純無作為抽出
- (5) 調査方法 郵送調査、インターネット調査
- (6) 調査期間 令和8年7月7日～7月21日

3 調査内容

- | | |
|--------------------|------------------------|
| 1 あなた自身のことについて | 7 成年後見制度について |
| 2 福祉について | 8 地域の福祉活動やボランティア活動について |
| 3 福祉の情報について | 9 民生委員・児童委員の活動について |
| 4 日ごろの悩みや不安について | 10 地域における災害時の対策について |
| 5 地域におけるふだんの生活について | 11 再犯防止について |
| 6 居場所について | 12 今後の地域福祉の取組について |

4 回収状況

配布数	有効回収数		有効回収率
		うちWEB回答	
1,000	364	69	36.4%

5 調査結果の表示方法

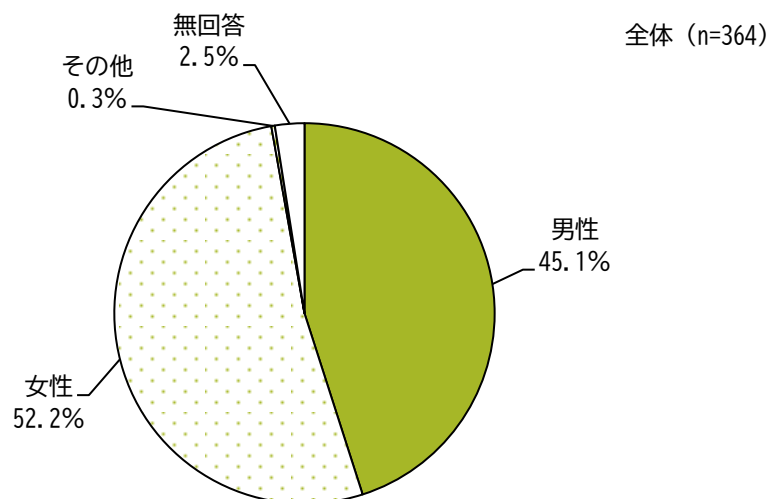
- ・回答は各質問の回答者数（n）を基数とした百分率（％）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答が含まれないため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。
- ・一部のグラフにおいて、回答者がいない項目は数値の掲載を省略しています。
- ・回答者数（n）が10未満の設問については、コメントを掲載していません。

Ⅱ 調査結果

1 あなた自身のことについて

(1) 性別

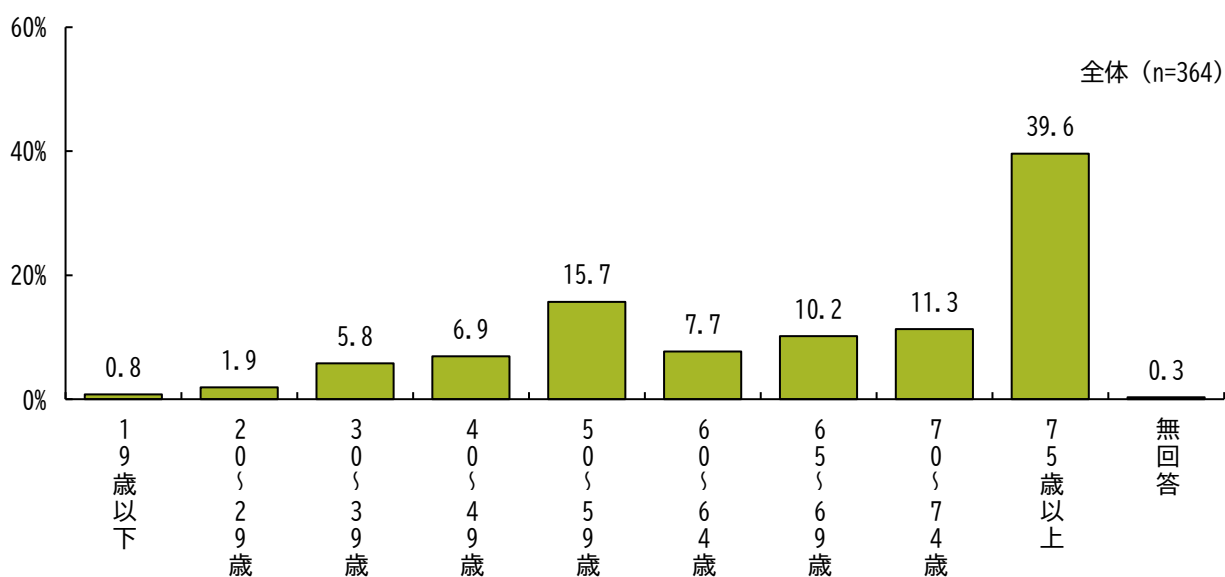
問1 あなたの性別は、どちらですか。(○は1つだけ)



性別では、「男性」が45.1%、「女性」が52.2%、「その他」が0.3%となっています。

(2) 年齢

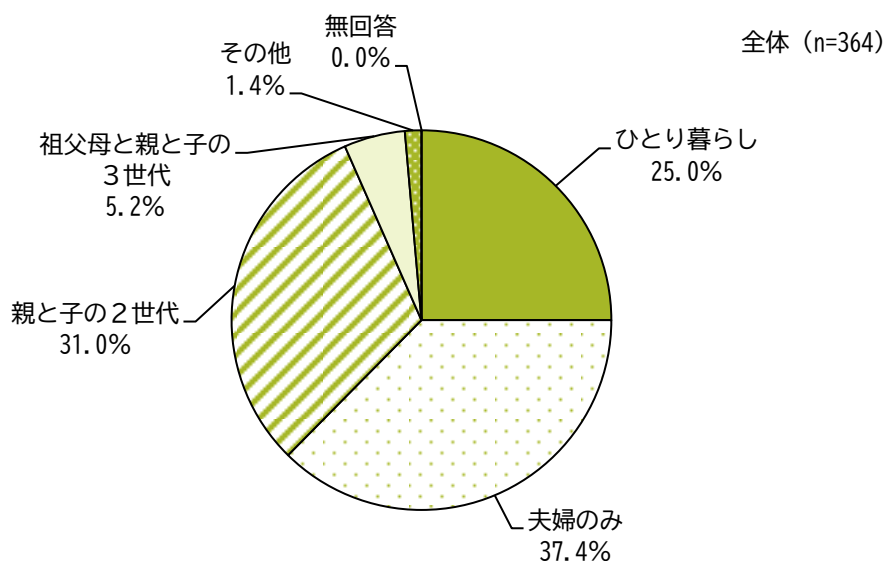
問2 あなたの年齢は次のどれに該当しますか。(○は1つだけ)



年齢では、「75歳以上」が39.6%と最も多く、次いで「50～59歳」が15.7%、「70～74歳」が11.3%などとなっています。

(3) 家族構成

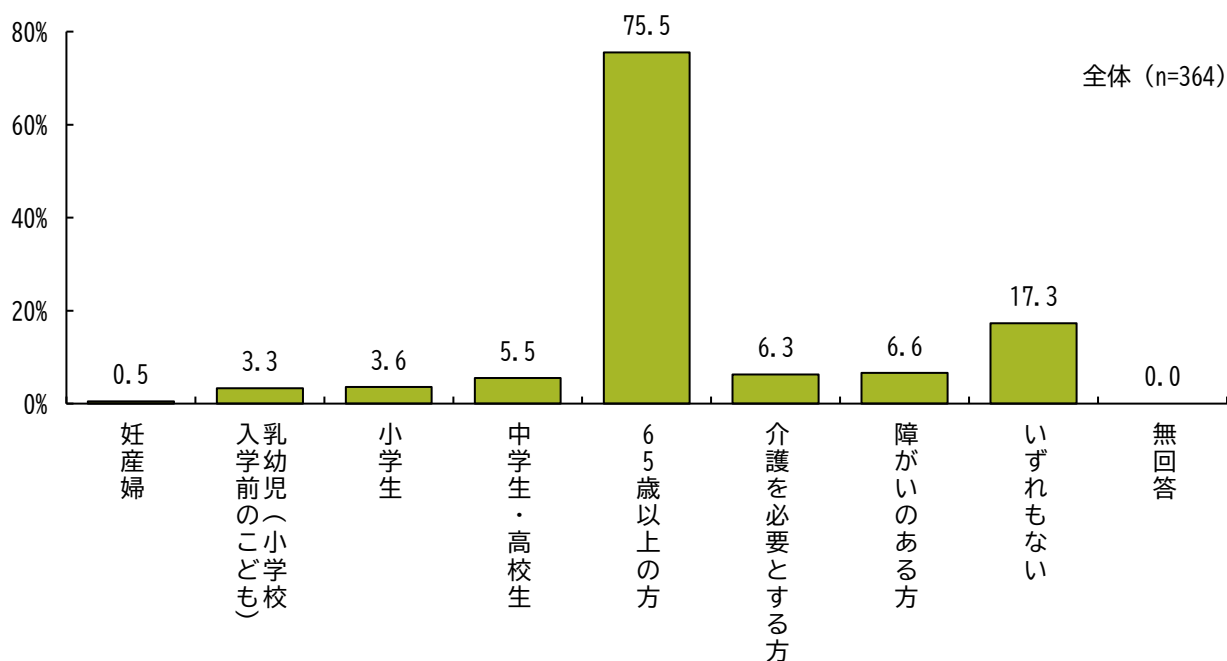
問3 あなたが現在同居されている家族の構成は、次のどれにあたりますか。なお、2世帯住宅の場合は「同居」としてお考えください。(○は1つだけ)



家族構成では、「夫婦のみ」が37.4%と最も多く、次いで「親と子の2世代」が31.0%、「ひとり暮らし」が25.0%などとなっています。

(4) 同居家族

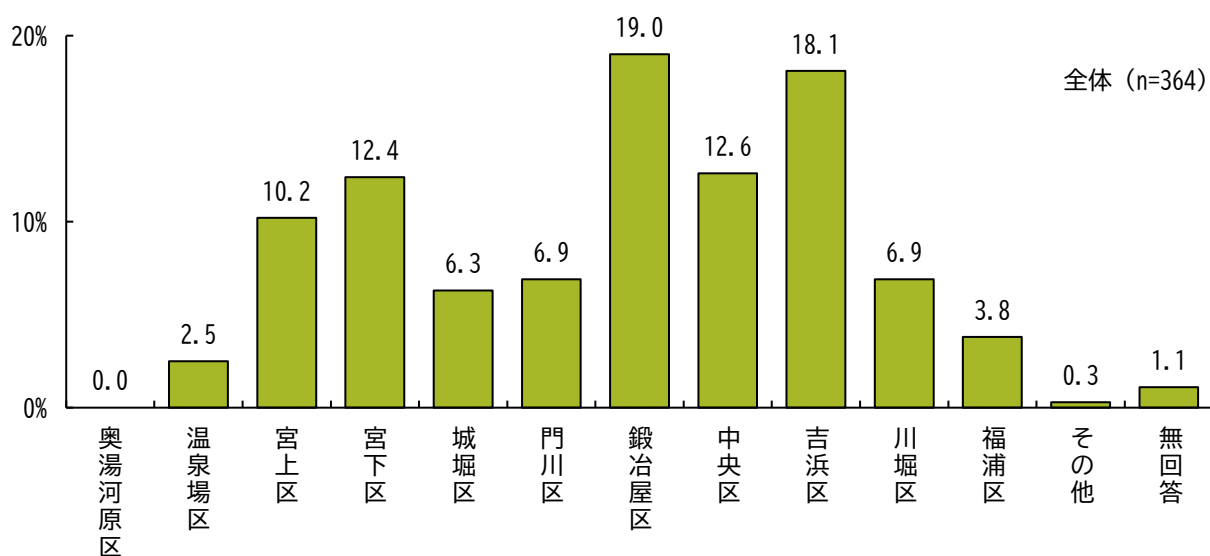
問4 あなた自身、またはあなたが同居している家族の中に、次のような方はいますか。(○はいくつでも)



同居家族では、「65歳以上の方」が75.5%と最も多く、次いで「障がいのある方」が6.6%、「介護を必要とする方」が6.3%などとなっています。また、「いずれもない」が17.3%となっています。

(5) 居住地区

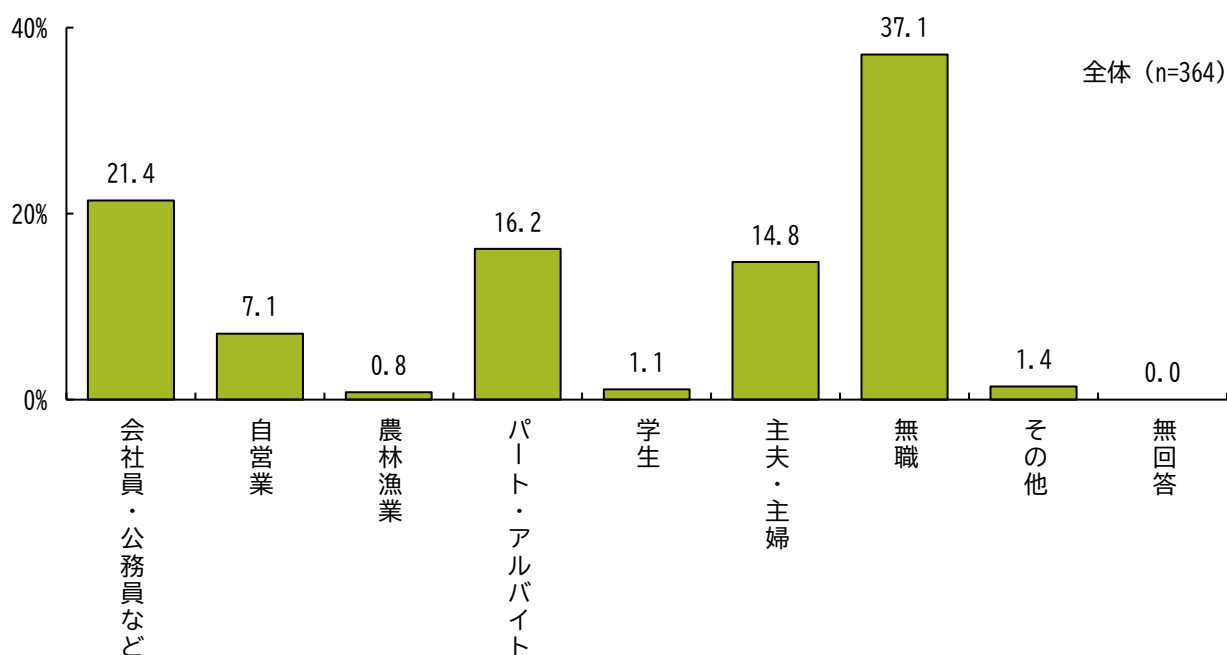
問5 あなたのお住まいになっている区会（自治会）は、次のどれにあたりますか。
（○は1つだけ）



居住地区では、「鍛冶屋区」が19.0%と最も多く、次いで「吉浜区」が18.1%、「中央区」が12.6%などとなっています。

(6) 職業

問6 あなたの主な職業は、次のどれにあたりますか。（○は1つだけ）

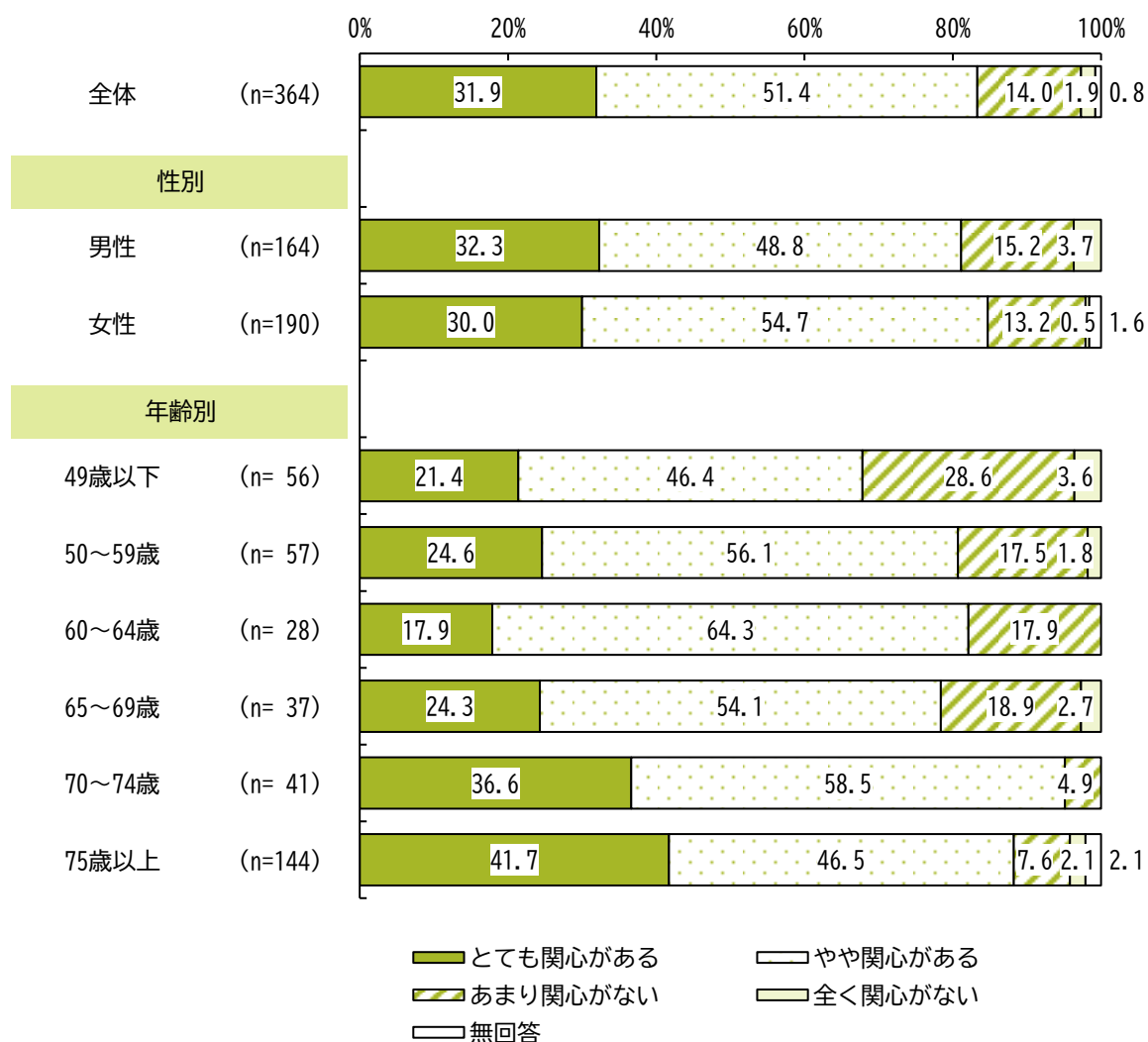


職業では、「無職」が37.1%と最も多く、次いで「会社員・公務員など」が21.4%、「パート・アルバイト」が16.2%などとなっています。

2 福祉について

(1) 福祉への関心

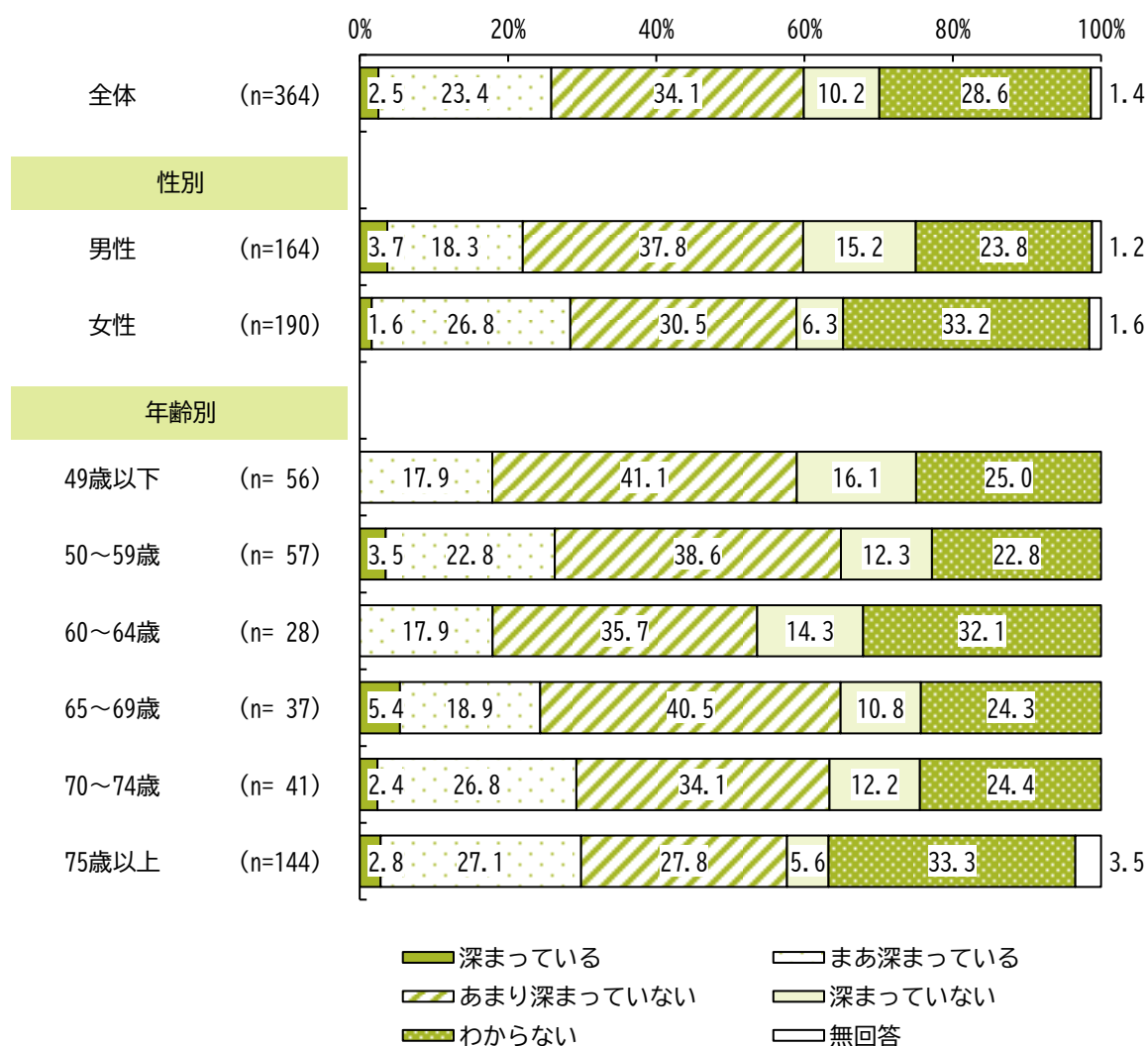
問7 あなたは福祉に関心がありますか。(○は1つだけ)



福祉への関心では、「とても関心がある」が31.9%、「やや関心がある」が51.4%、「あまり関心がない」が14.0%、「全く関心がない」が1.9%となっています。

(2) 障がいなどのあるなしに関係なく、その人らしく生活していける取組に対する住民の理解

問8 湯河原町では、障がいなどのある人もない人も、その人らしくいきいきと生活していけるように取り組んできました。あなたは、このような取組に対する住民の理解は、深まっていると思いますか。(〇は1つだけ)



障がいなどのあるなしに関係なく、その人らしく生活していける取組に対する住民の理解では、「あまり深まっていない」が34.1%と最も多く、次いで「わからない」が28.6%、「まあ深まっている」が23.4%などとなっています。

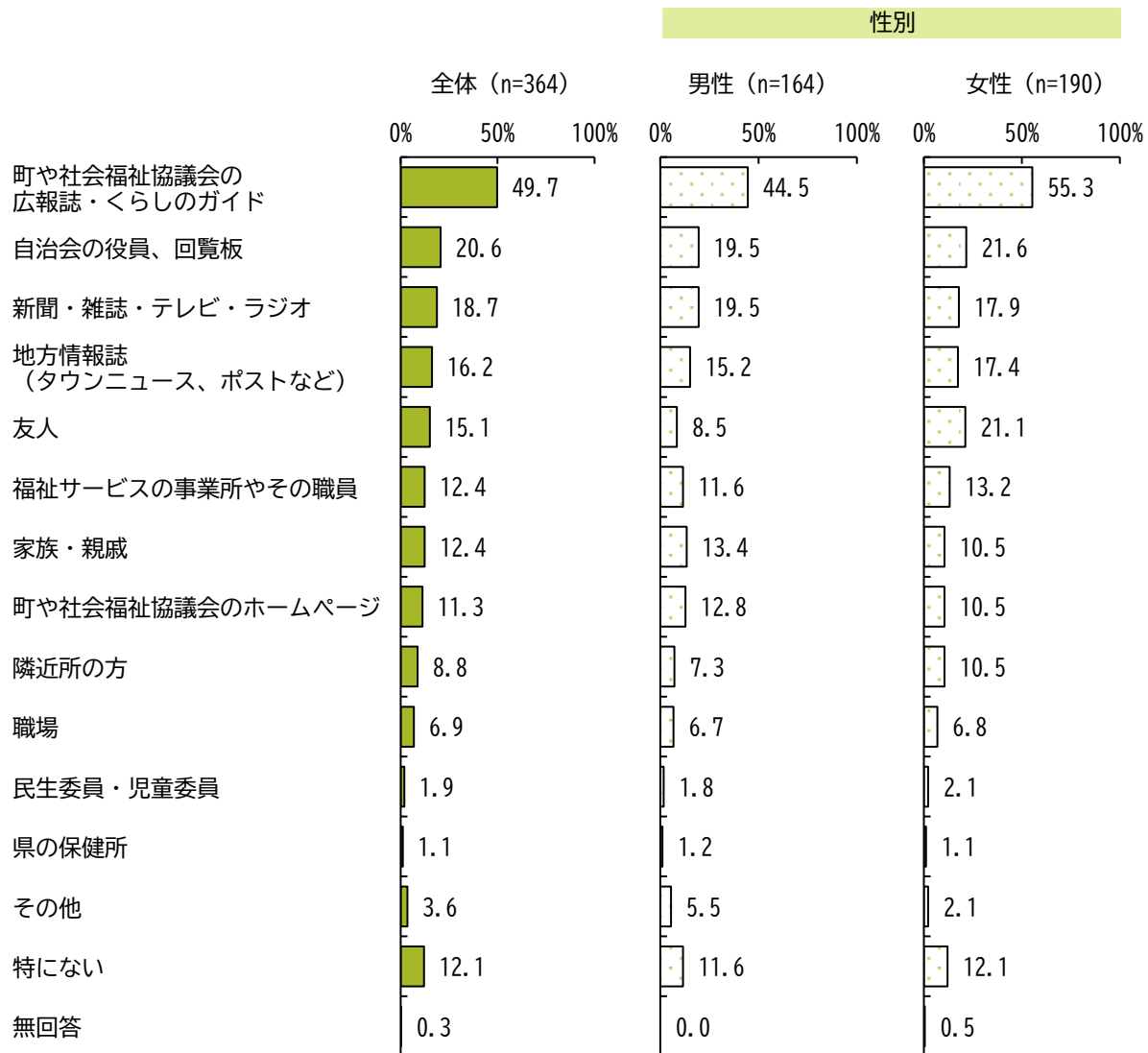
性別でみると、“女性”は「わからない」が33.2%と最も多くなっています。

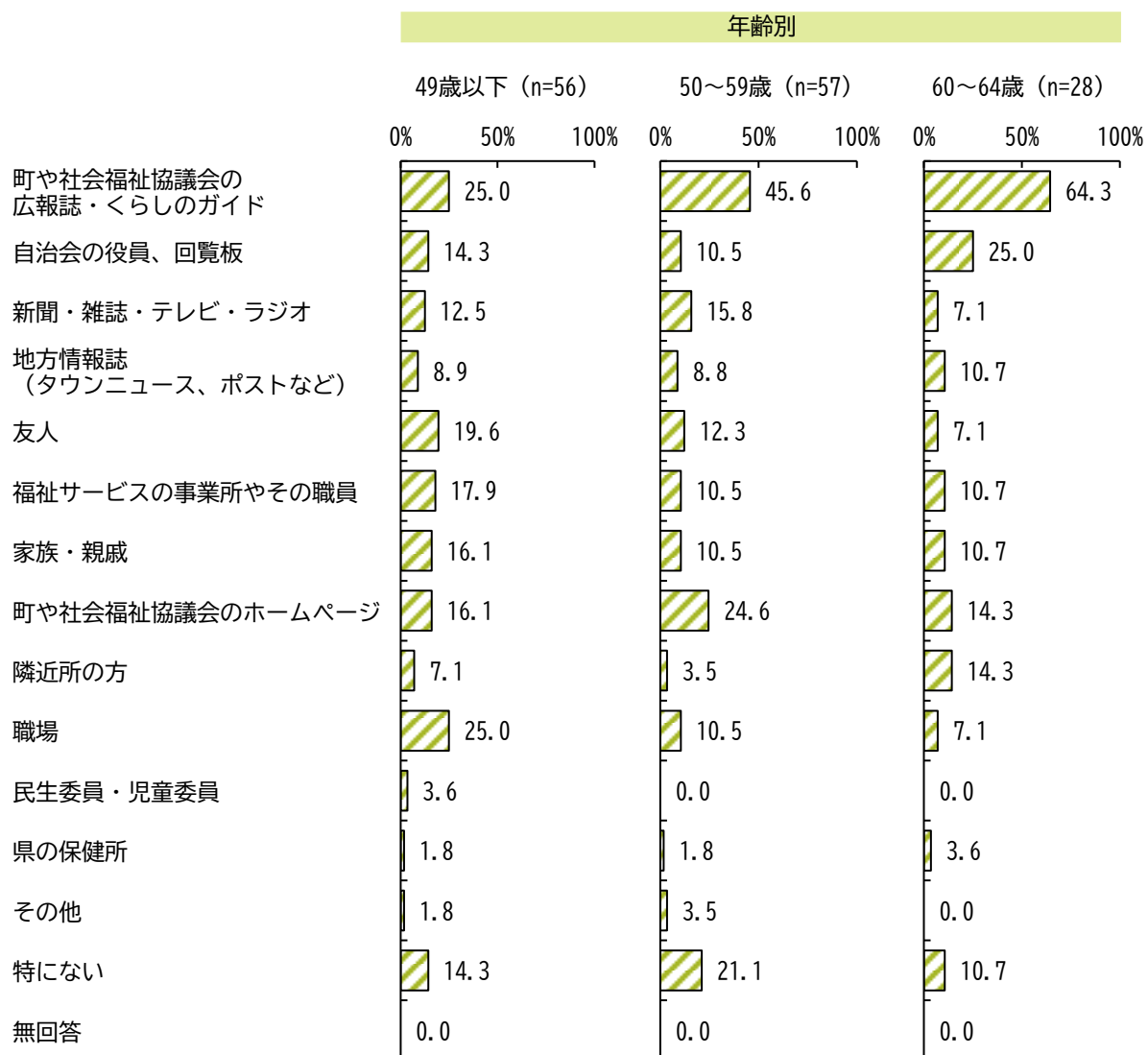
年齢別でみると、“75歳以上”は「わからない」が33.3%と最も多くなっています。

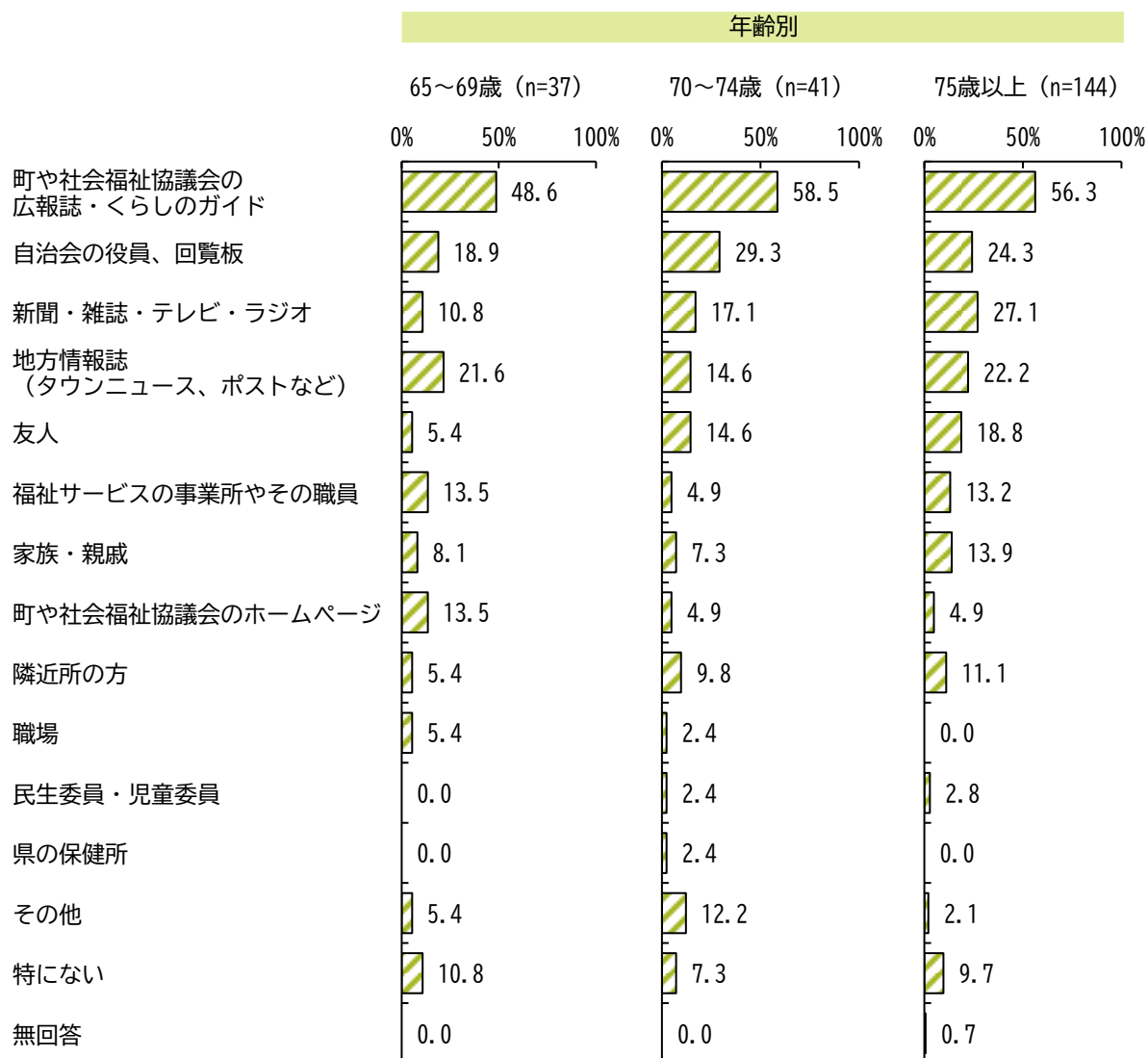
3 福祉の情報について

(1) 福祉に関する情報の入手方法

問9 身の回りには様々な地域や福祉の情報がありますが、あなたはそれらの情報をどこから入手していますか。(〇はいくつでも)





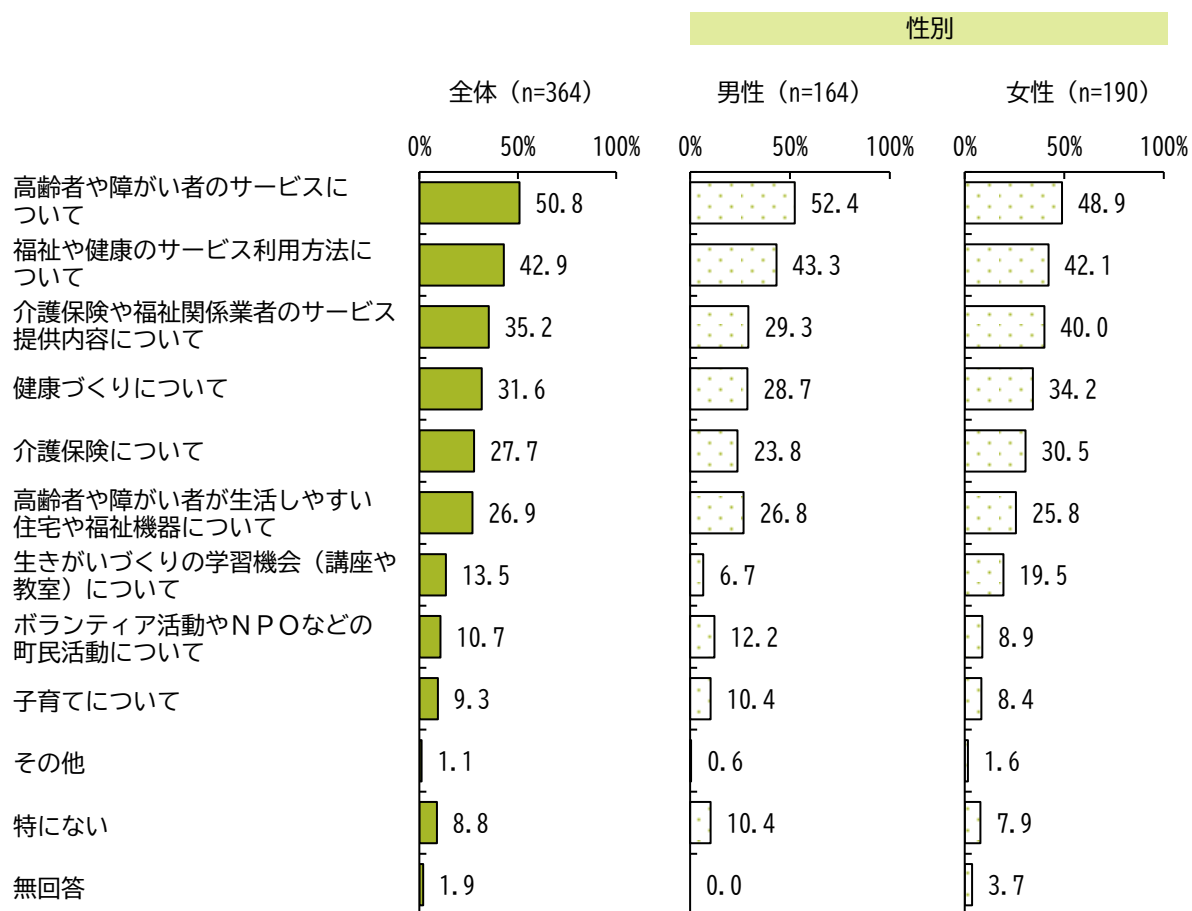


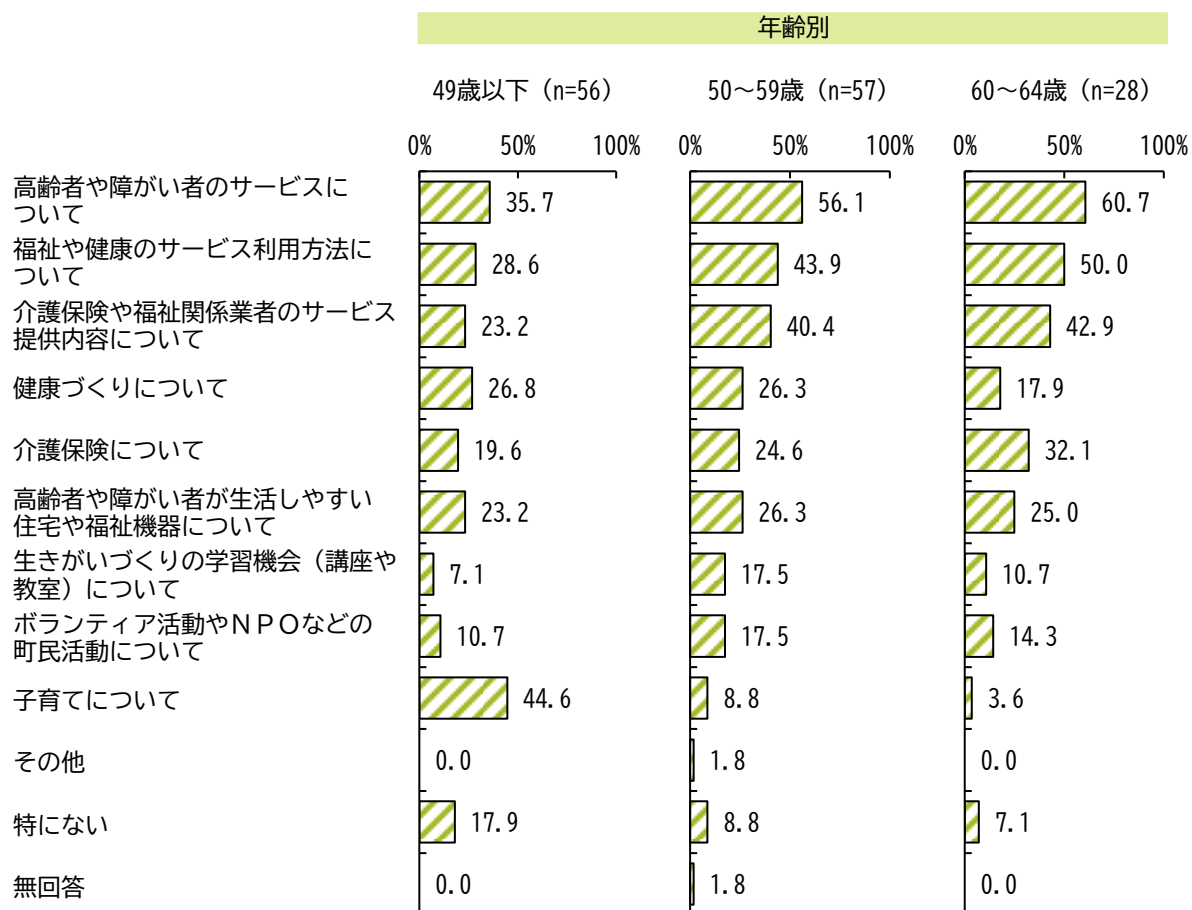
福祉に関する情報の入手方法では、「町や社会福祉協議会の広報誌・くらしのガイド」が49.7%と最も多く、次いで「自治会の役員、回覧板」が20.6%、「新聞・雑誌・テレビ・ラジオ」が18.7%などとなっています。

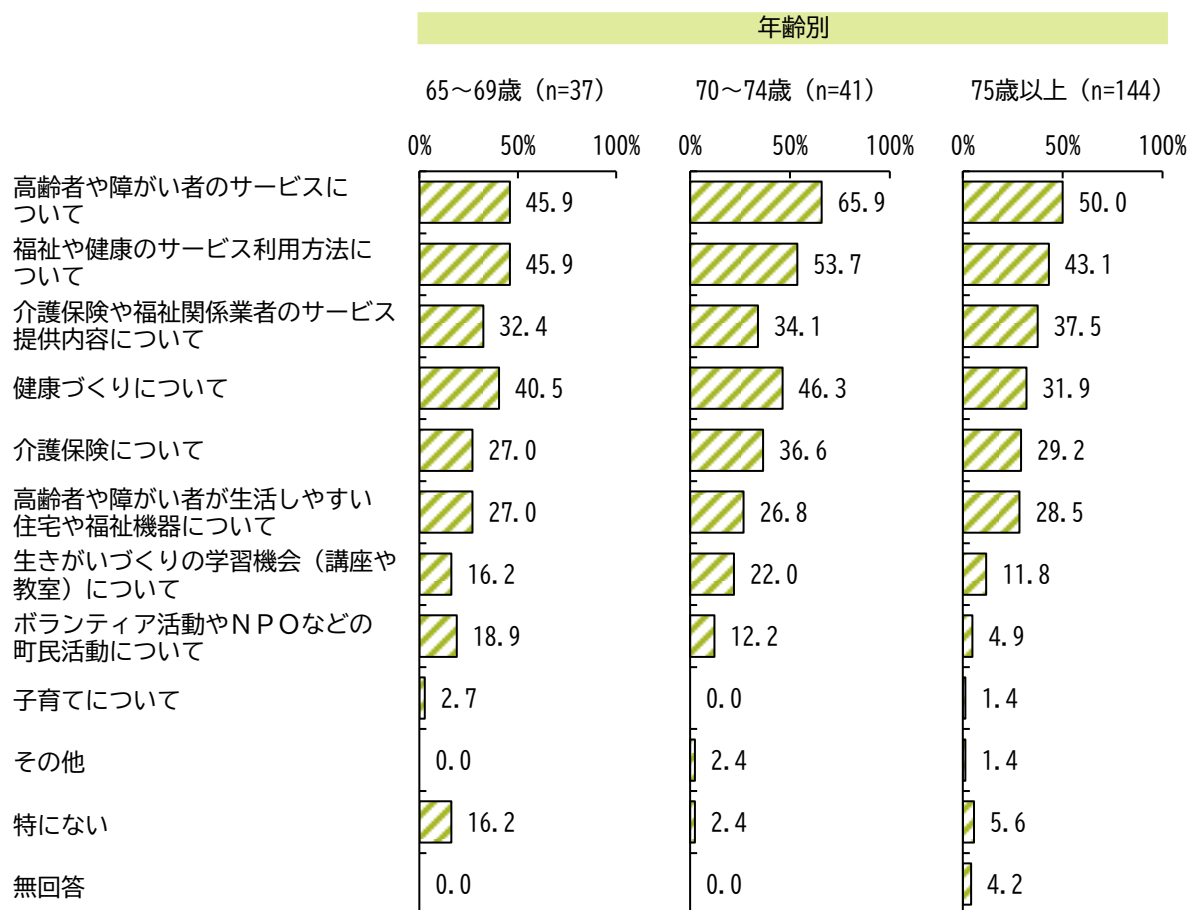
(2) 福祉や健康について知りたい情報

問10 あなたは、福祉や健康についてどのような情報を知りたいと考えていますか。

(○はいくつでも)







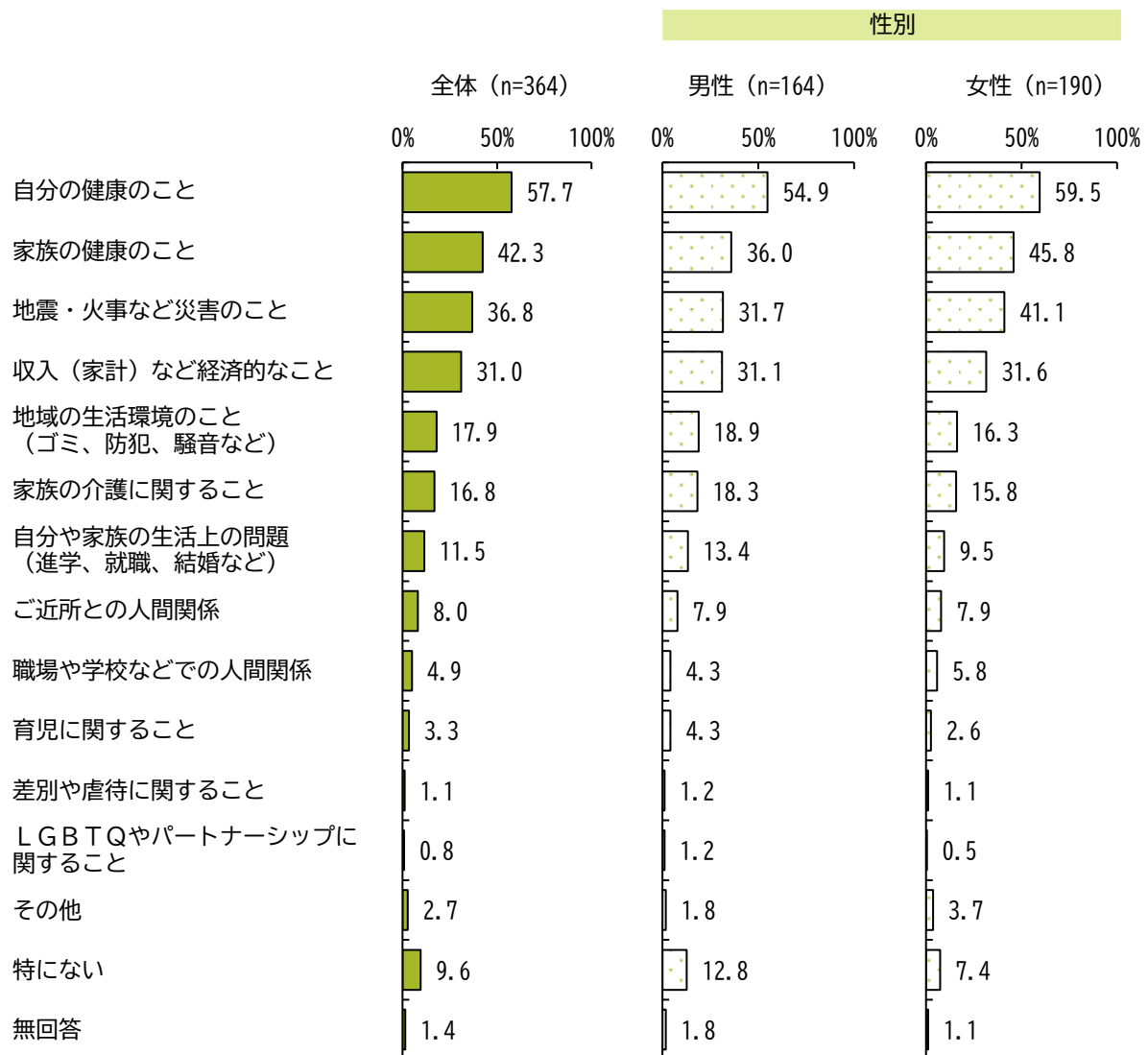
福祉や健康について知りたい情報では、「高齢者や障がい者のサービスについて」が50.8%と最も多く、次いで「福祉や健康のサービス利用方法について」が42.9%、「介護保険や福祉関係業者のサービス提供内容について」が35.2%などとなっています。

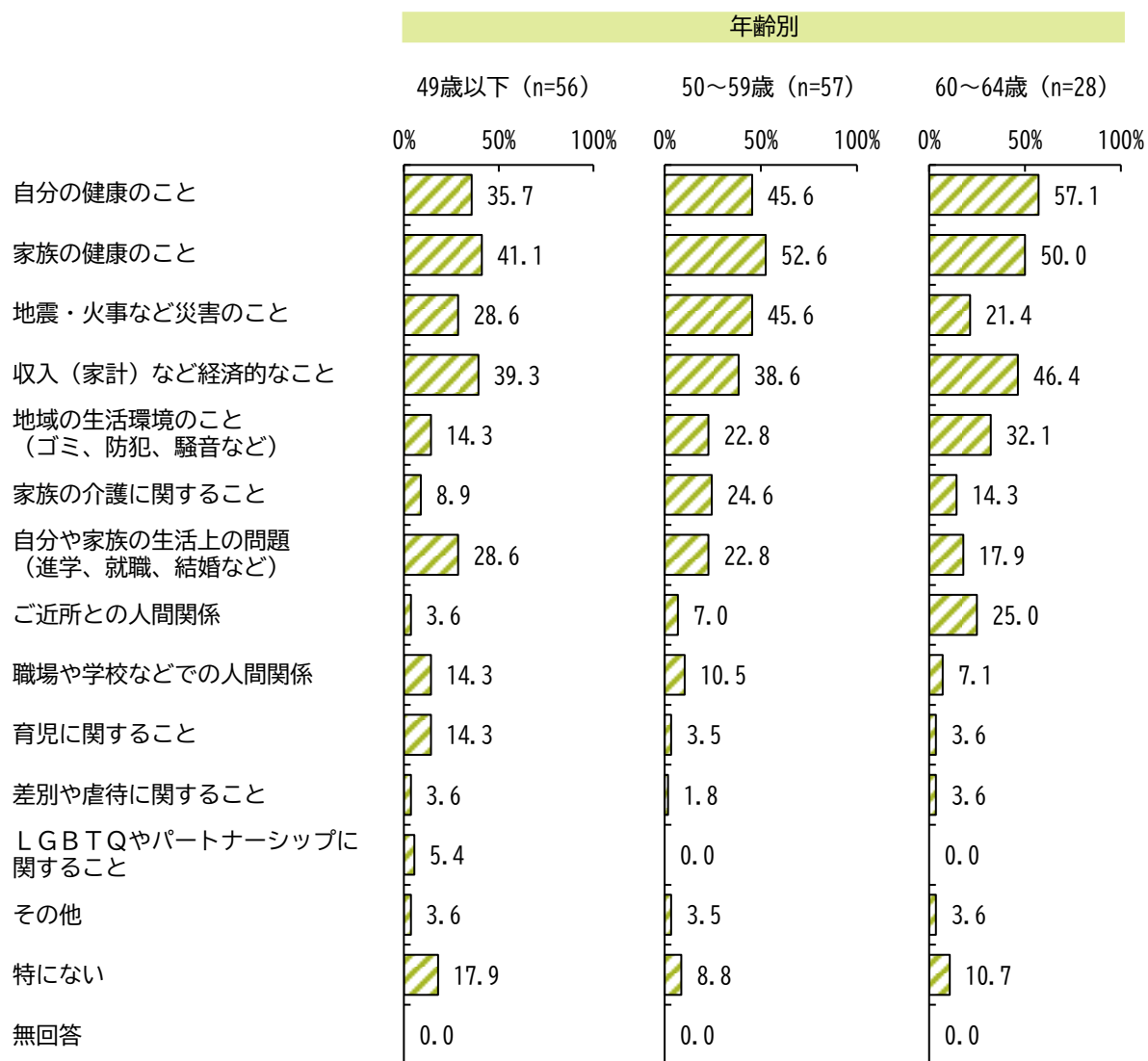
年齢別でみると、“49歳以下”は「子育てについて」が44.6%と最も多くなっています。

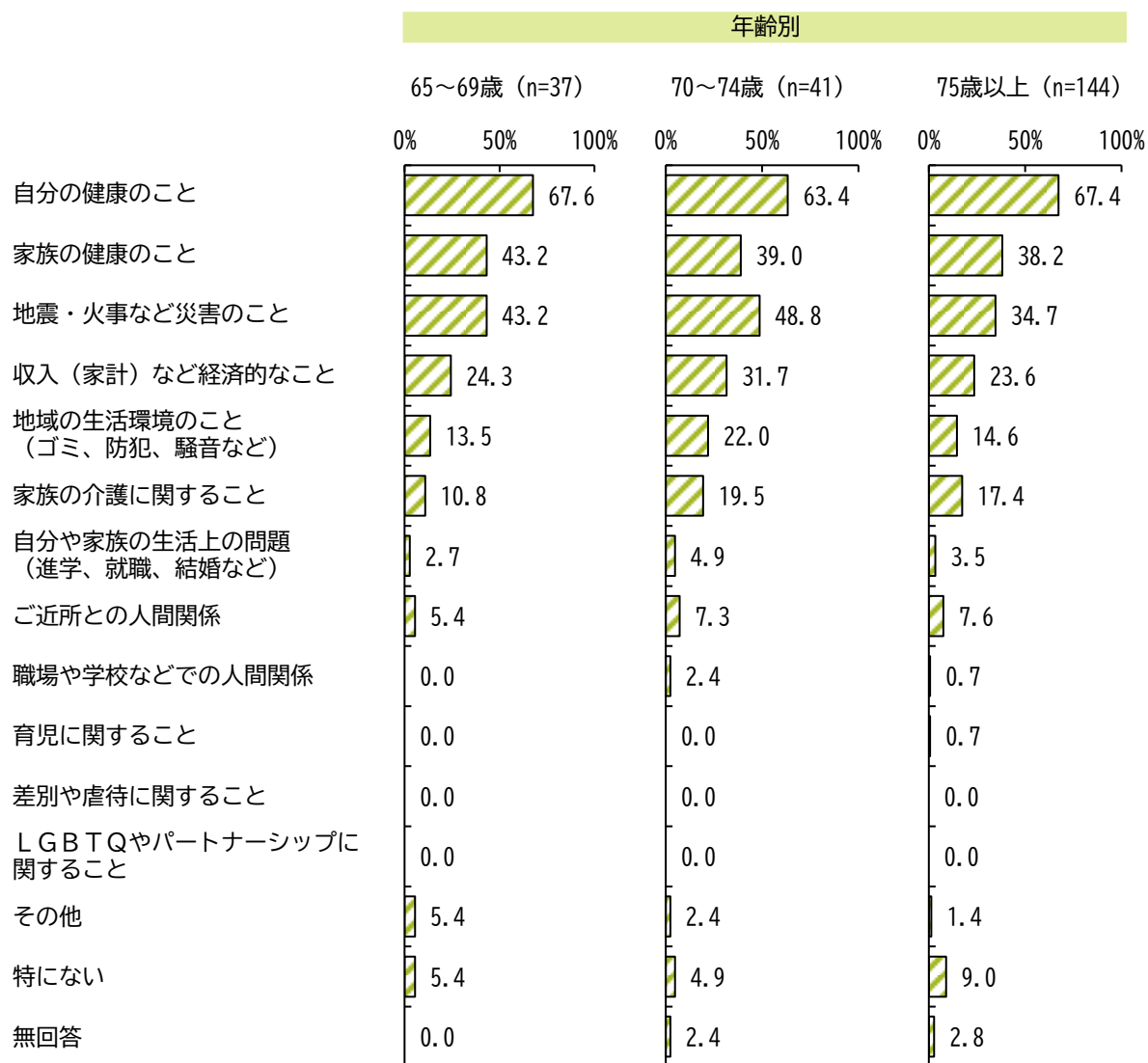
4 日ごろの悩みや不安について

(1) 日ごろ、悩みや不安を感じていること

問11 あなたは日ごろ、どのような悩みや不安を感じていますか。(〇はいくつでも)





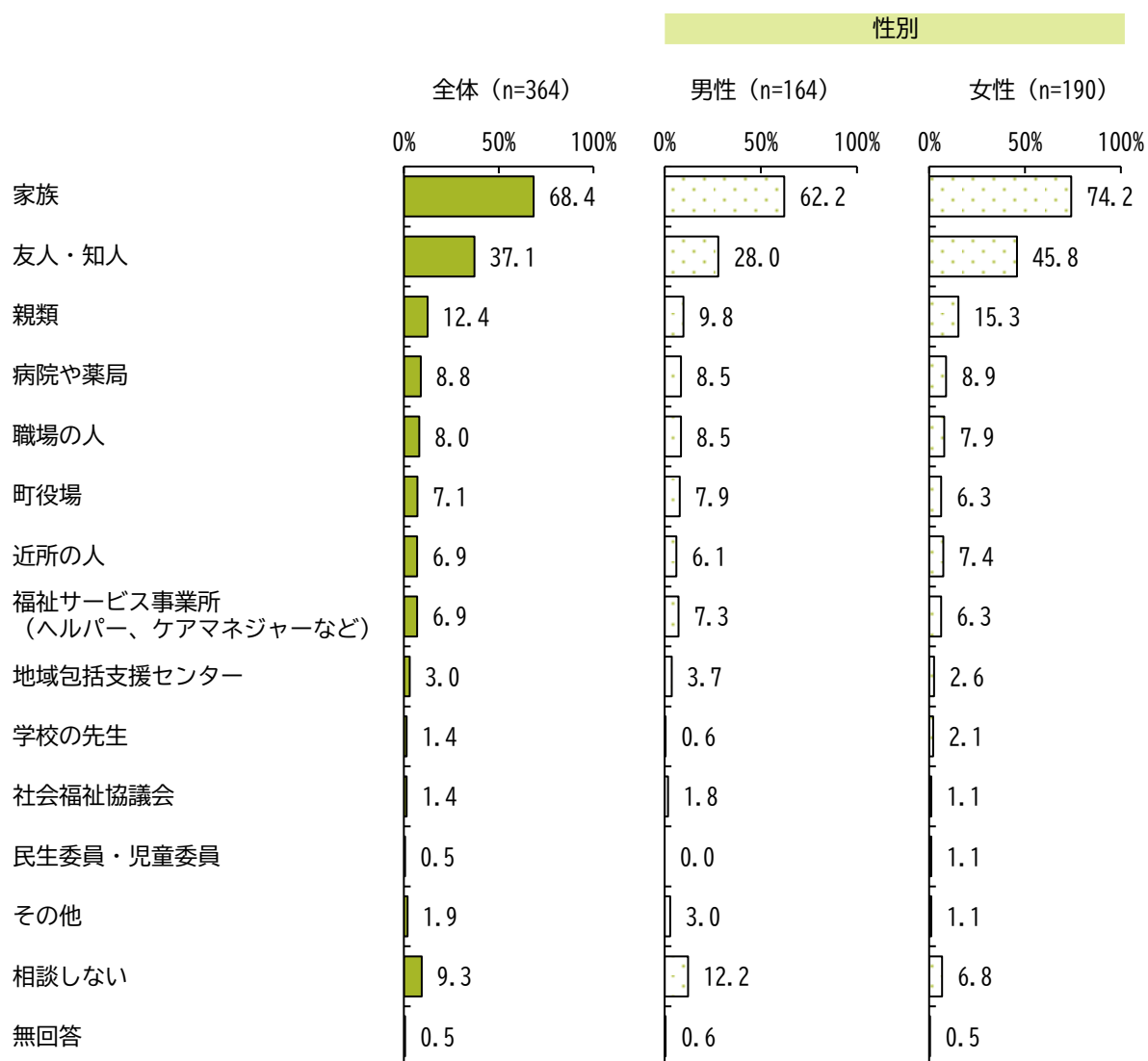


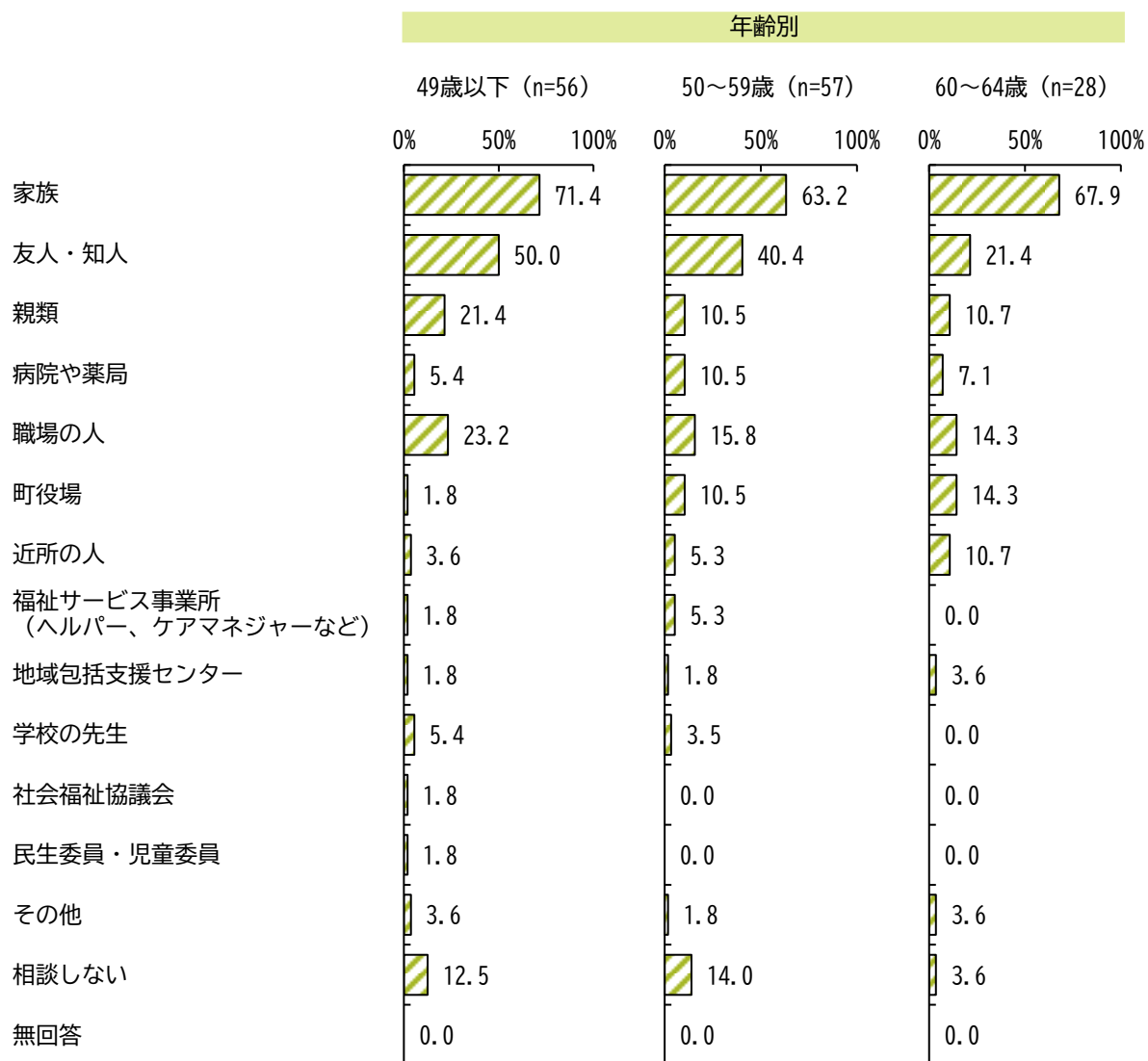
日ごろ、悩みや不安を感じていることでは、「自分の健康のこと」が57.7%と最も多く、次いで「家族の健康のこと」が42.3%、「地震・火事など災害のこと」が36.8%などとなっています。

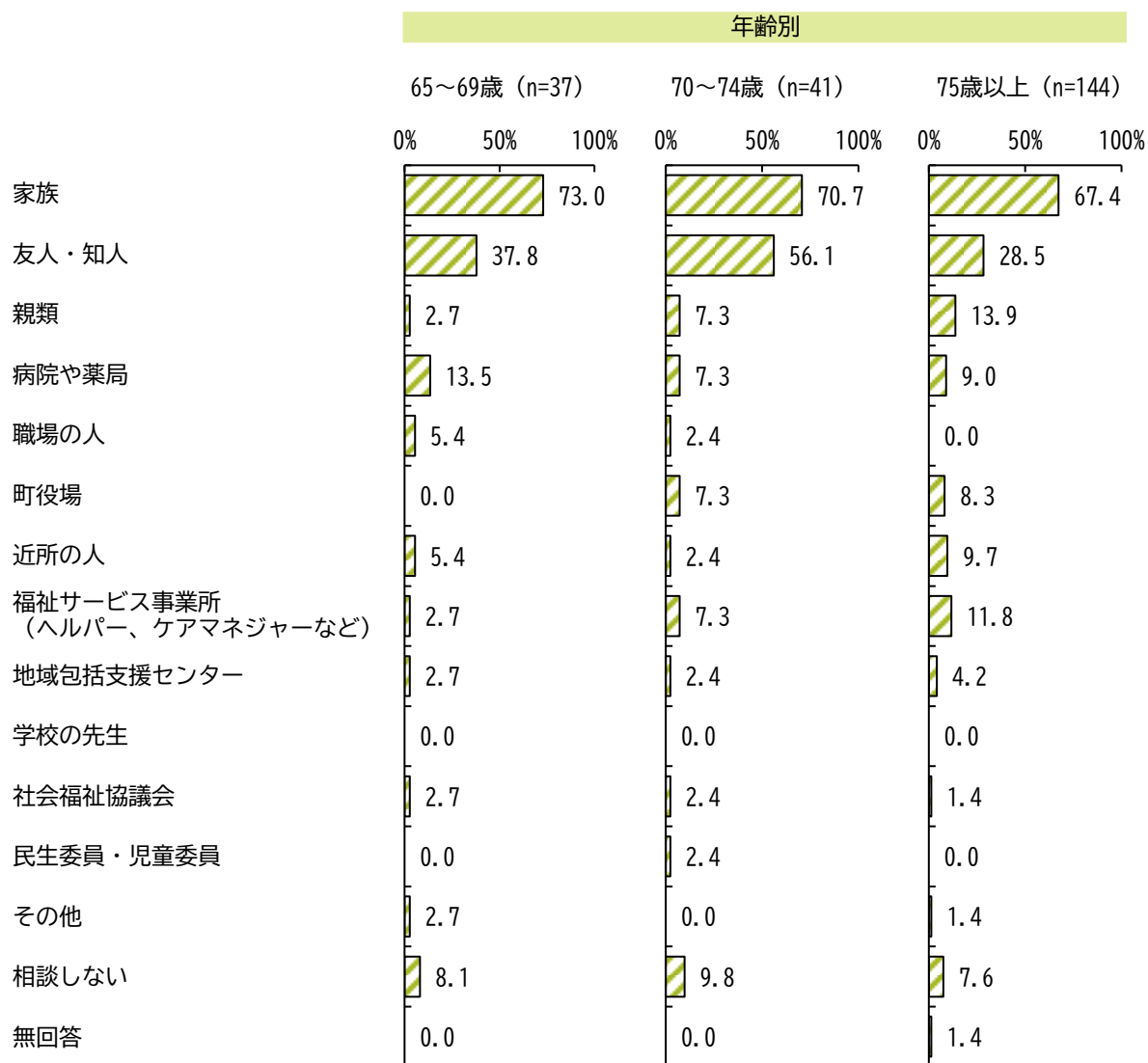
年齢別でみると、“49歳以下”、“50～59歳”は「家族の健康のこと」が最も多くなっています。

(2) 悩みや不安があったときの相談先

問12 悩みや不安があったとき、主に誰に相談しますか。(○はいくつでも)







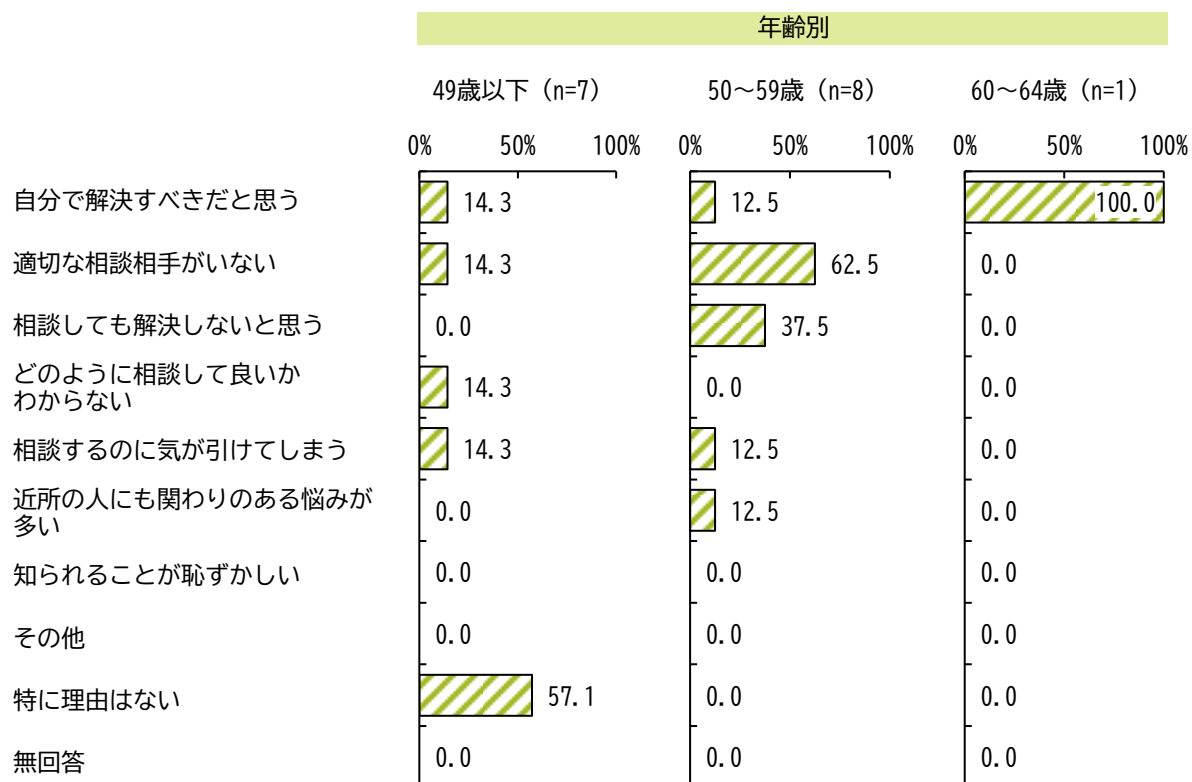
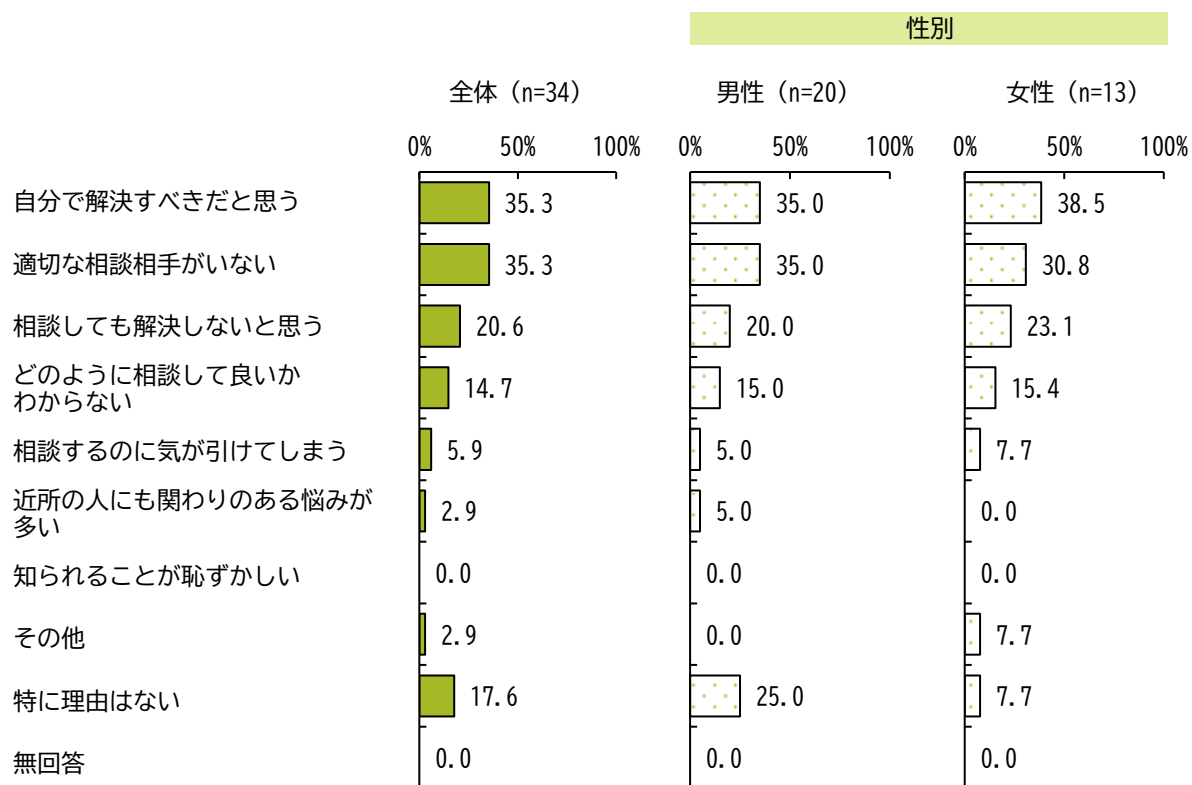
悩みや不安があったときの相談先では、「家族」が68.4%と最も多く、次いで「友人・知人」が37.1%、「親類」が12.4%などとなっています。

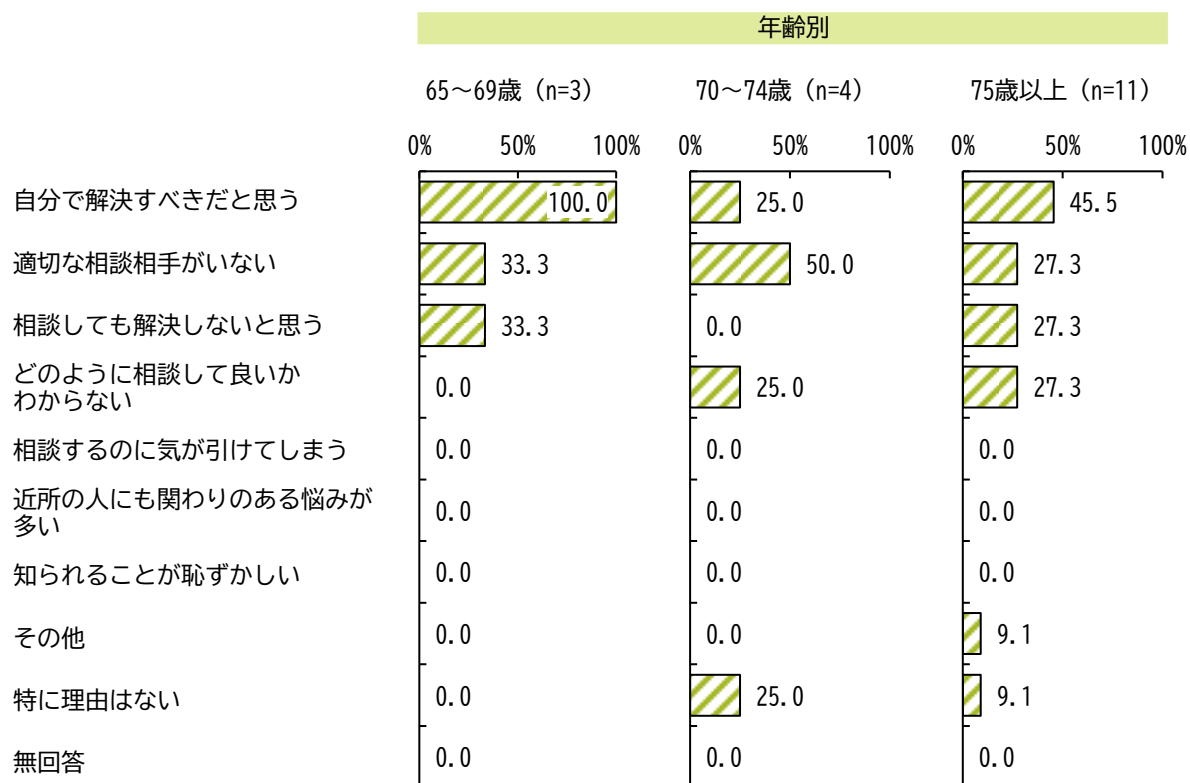
(3) 悩みを相談しない理由

※問12で「14. 相談しない」と答えた方におたずねします。

問12-1 あなたが悩みを相談しない理由として、以下のうちどれがあてはまりますか。

(○はいくつでも)



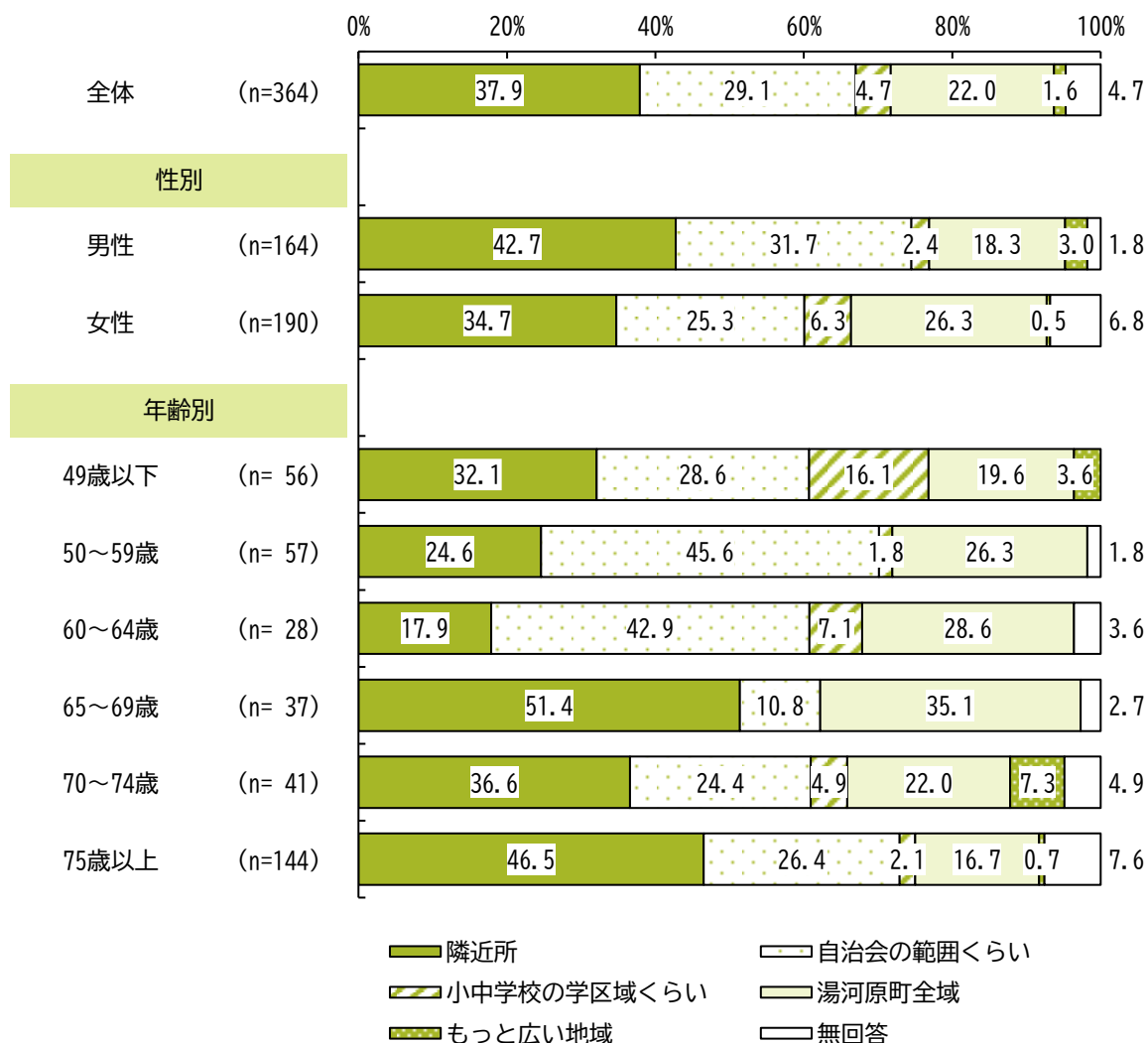


悩みを相談しない理由では、「自分で解決すべきだと思う」と「適切な相談相手がいない」が35.3%と最も多く、次いで「相談しても解決しないと思う」が20.6%、「どのように相談して良いかわからない」が14.7%などとなっています。また、「特に理由はない」が17.6%となっています。

5 地域におけるふだんの生活について

(1)「地域」と考える範囲

問13 日ごろの生活において、「地域で助け合う」ということを意識した場合、あなたの考える「地域」とは、次のどの範囲ですか。(○は1つだけ)

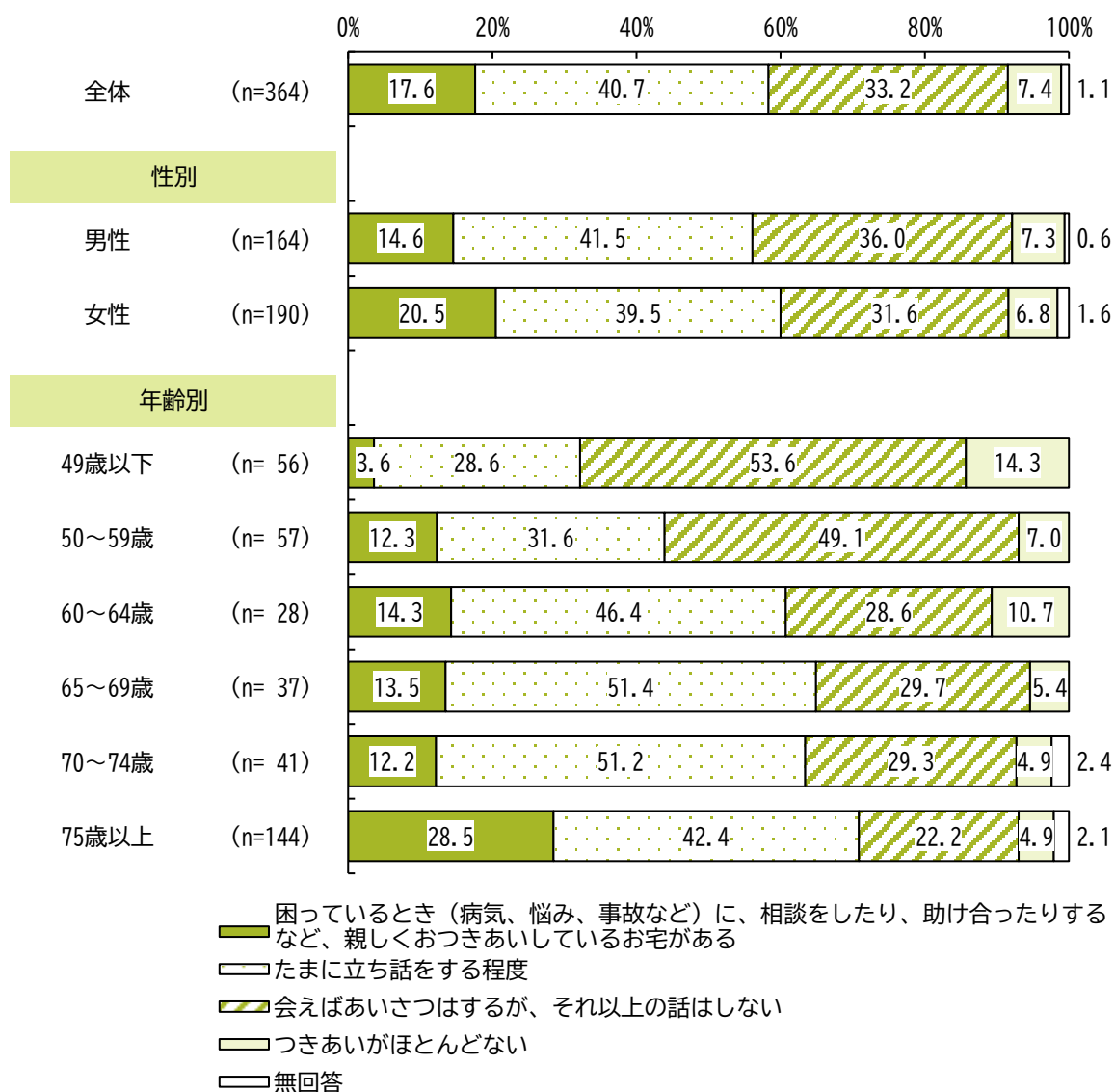


「地域」と考える範囲では、「隣近所」が37.9%と最も多く、次いで「自治会の範囲くらい」が29.1%、「湯河原町全域」が22.0%などとなっています。

年齢別でみると、“50～59歳”、“60～64歳”は「自治会の範囲くらい」が最も多くなっています。

(2) 近所の人とのつきあい程度

問14 あなたは、ふだん近所の人とどの程度つきあいをされていますか。(○は1つだけ)



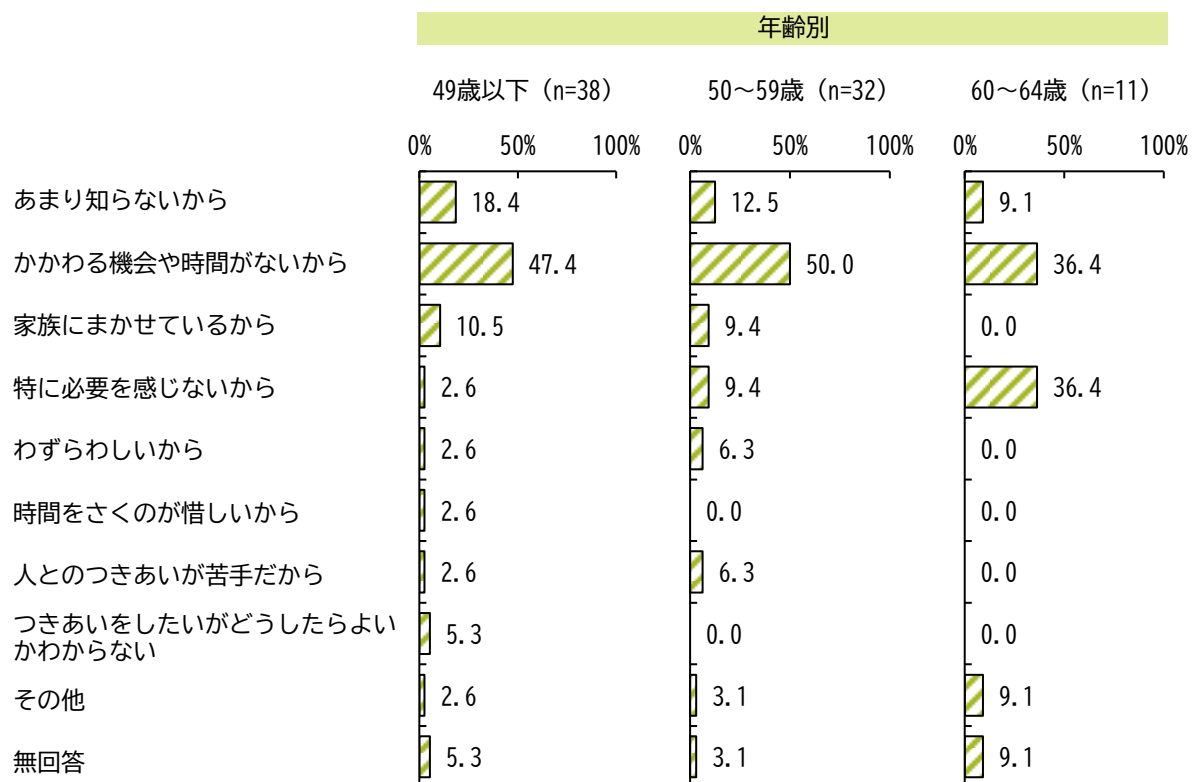
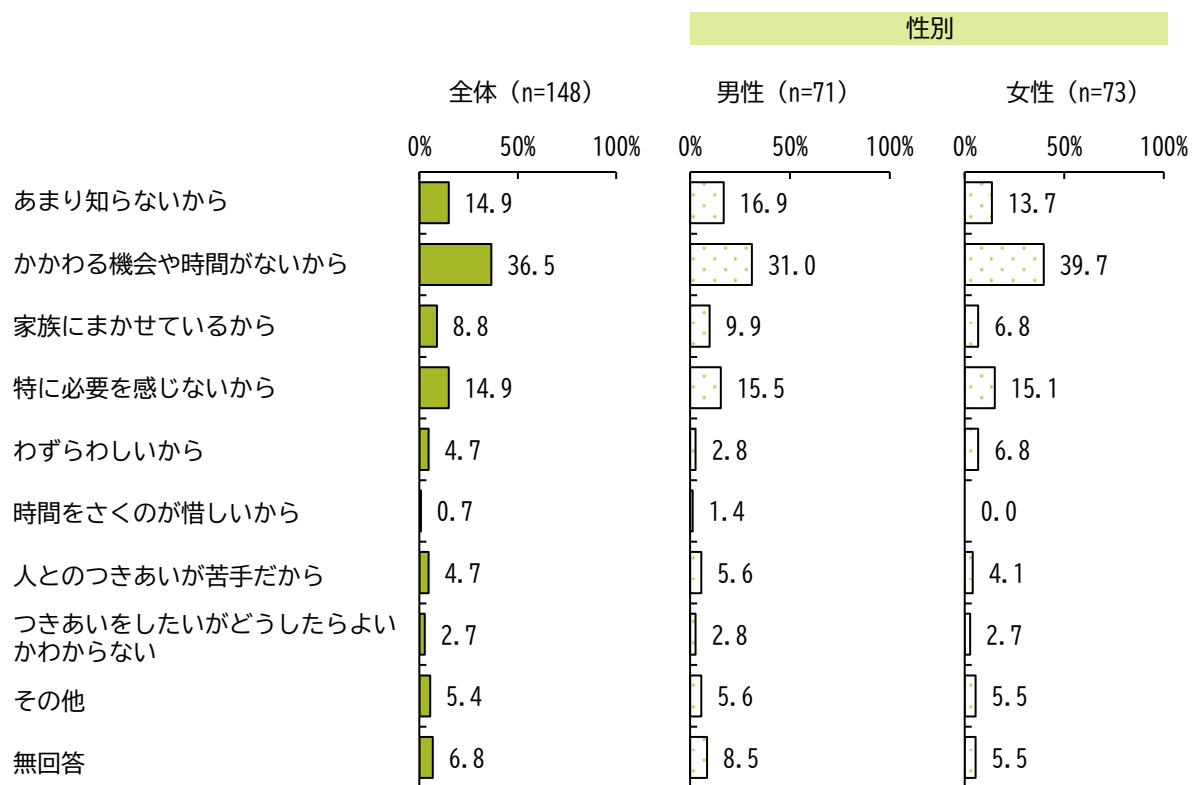
近所の人とのつきあい程度では、「困っているとき（病気、悩み、事故など）に、相談をしたり、助け合ったりするなど、親しくおつきあいしているお宅がある」が17.6%、「たまに立ち話をする程度」が40.7%、「会えばあいさつはするが、それ以上の話はしない」が33.2%、「つきあいがほとんどない」が7.4%となっています。

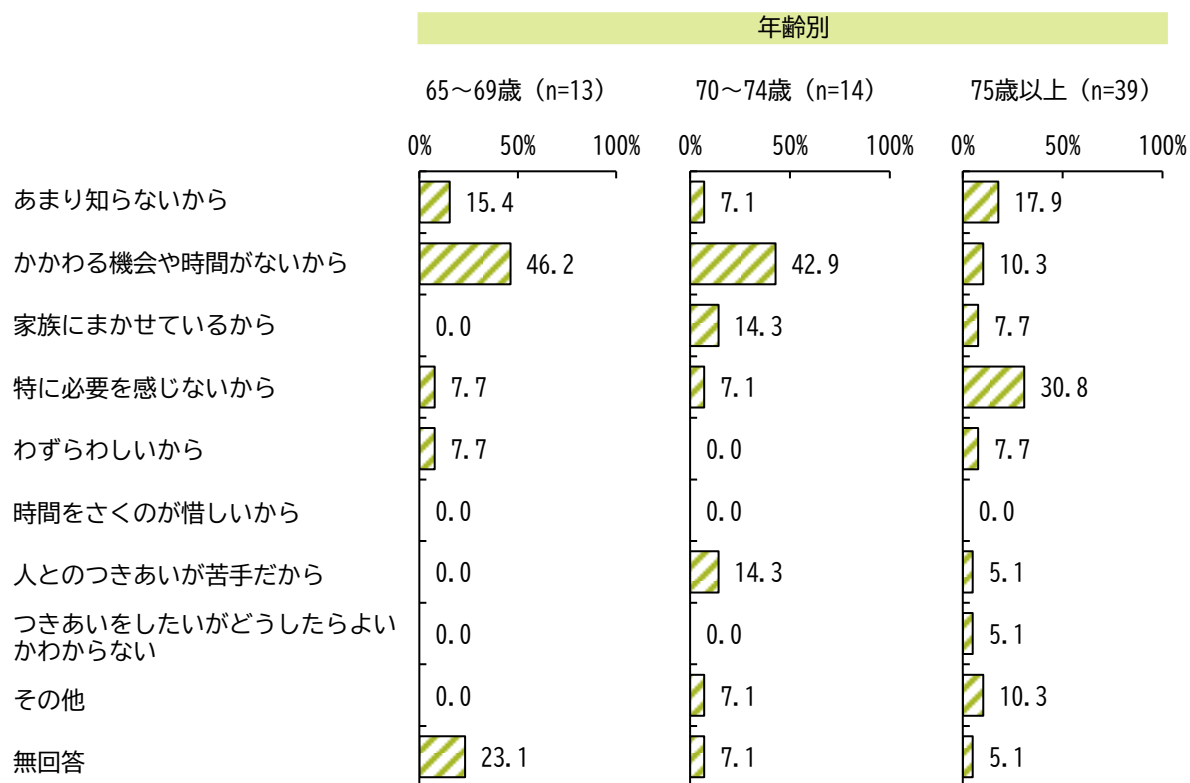
年齢別でみると、“49歳以下”、“50～59歳”は「会えばあいさつはするが、それ以上の話はしない」が最も多くなっています。

(3) つきあいがほとんどない理由

※問14で「3. 会えばあいさつはするが、それ以上の話はしない」「4. つきあいがほとんどない」と答えた方におたずねします。

問14-1 つきあいがほとんどないのはなぜですか。(○は1つだけ)



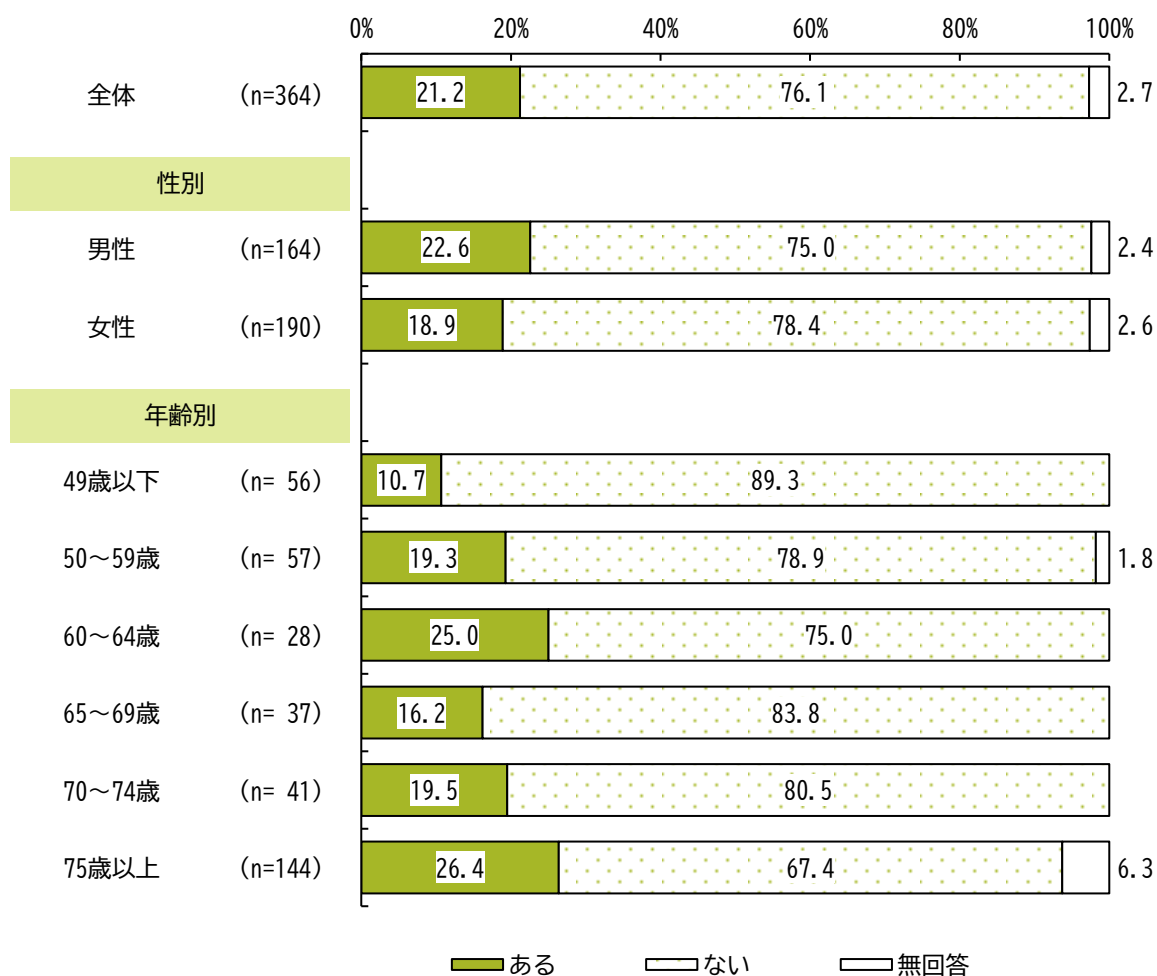


つきあいがほとんどない理由では、「かかわる機会や時間がないから」が36.5%と最も多く、次いで「あまり知らないから」と「特に必要を感じないから」が14.9%、「家族にまかせているから」が8.8%などとなっています。

年齢別でみると、“75歳以上”は「特に必要を感じないから」が30.8%と最も多くなっています。

(4) 地域の方からの協力が必要なこと

問15 あなたは、日ごろの生活でご近所や自治会など地域の方からの協力が必要なことがありますか。(○は1つだけ)

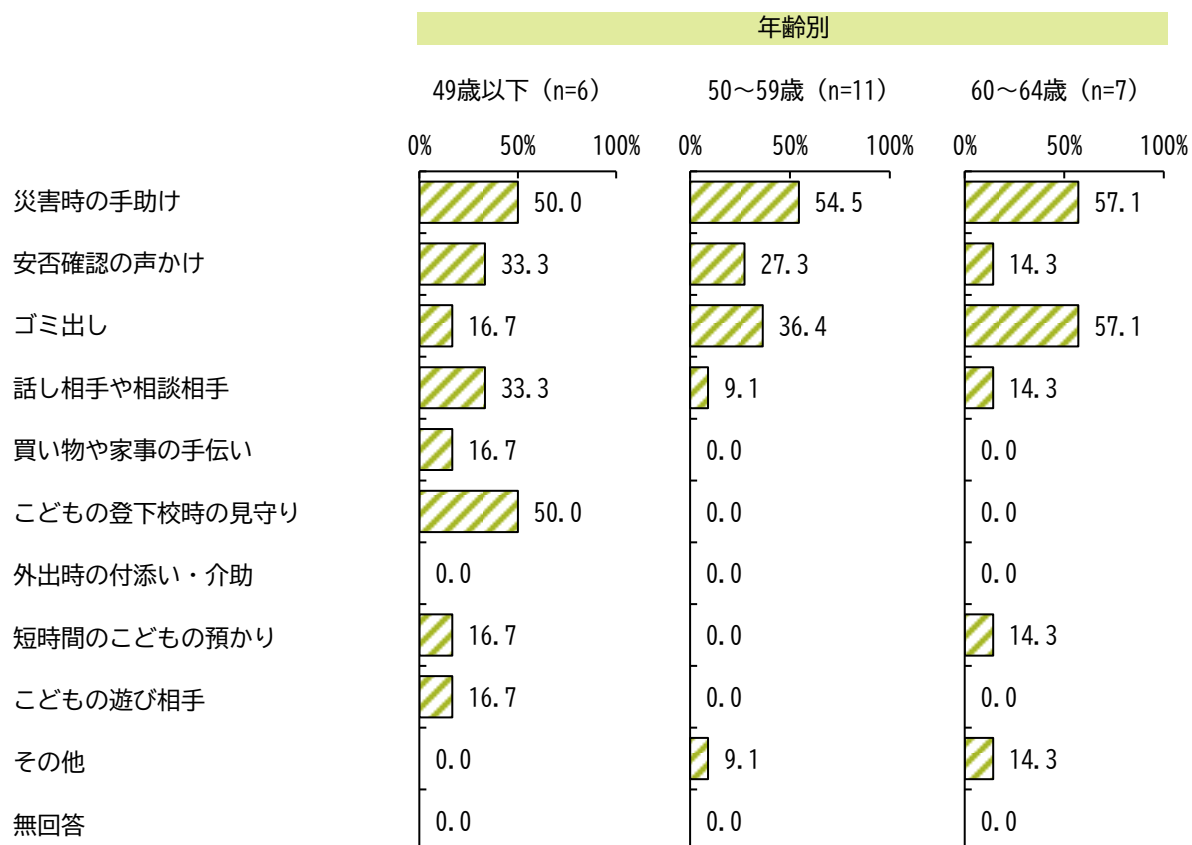
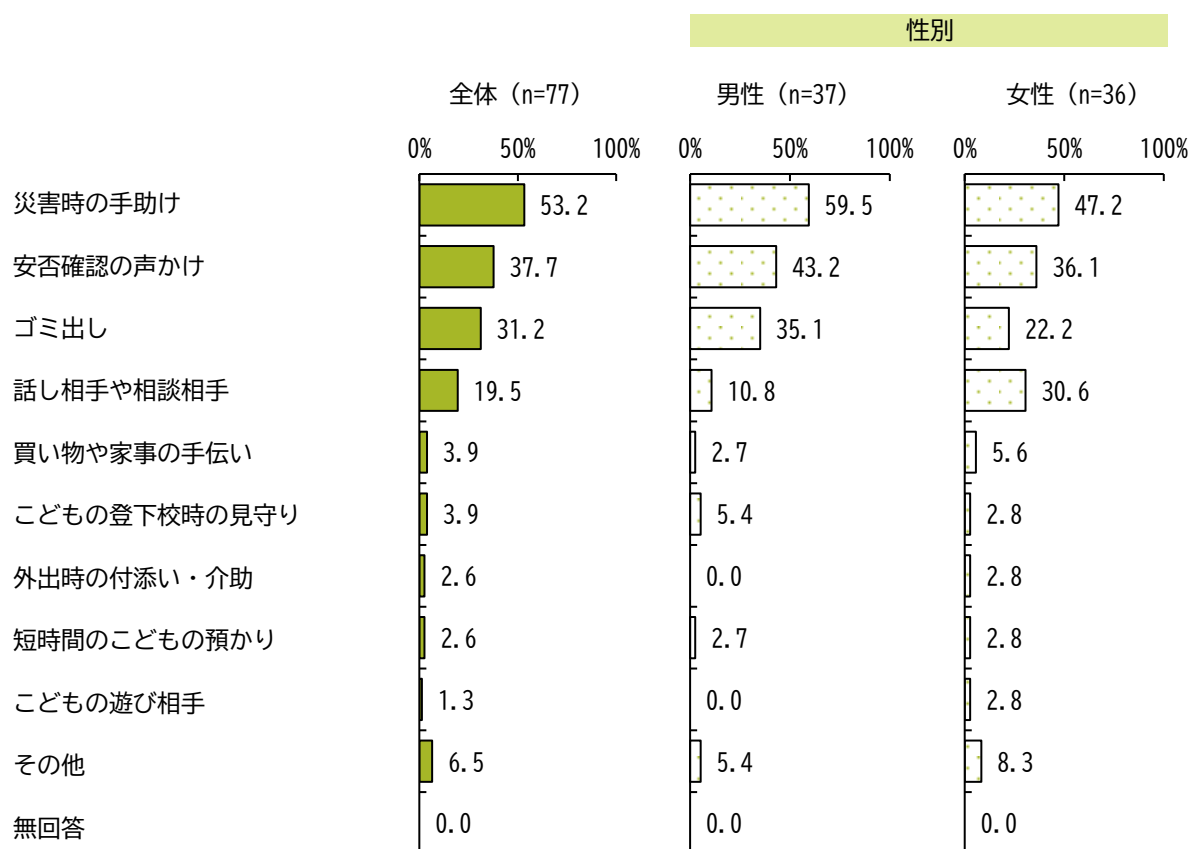


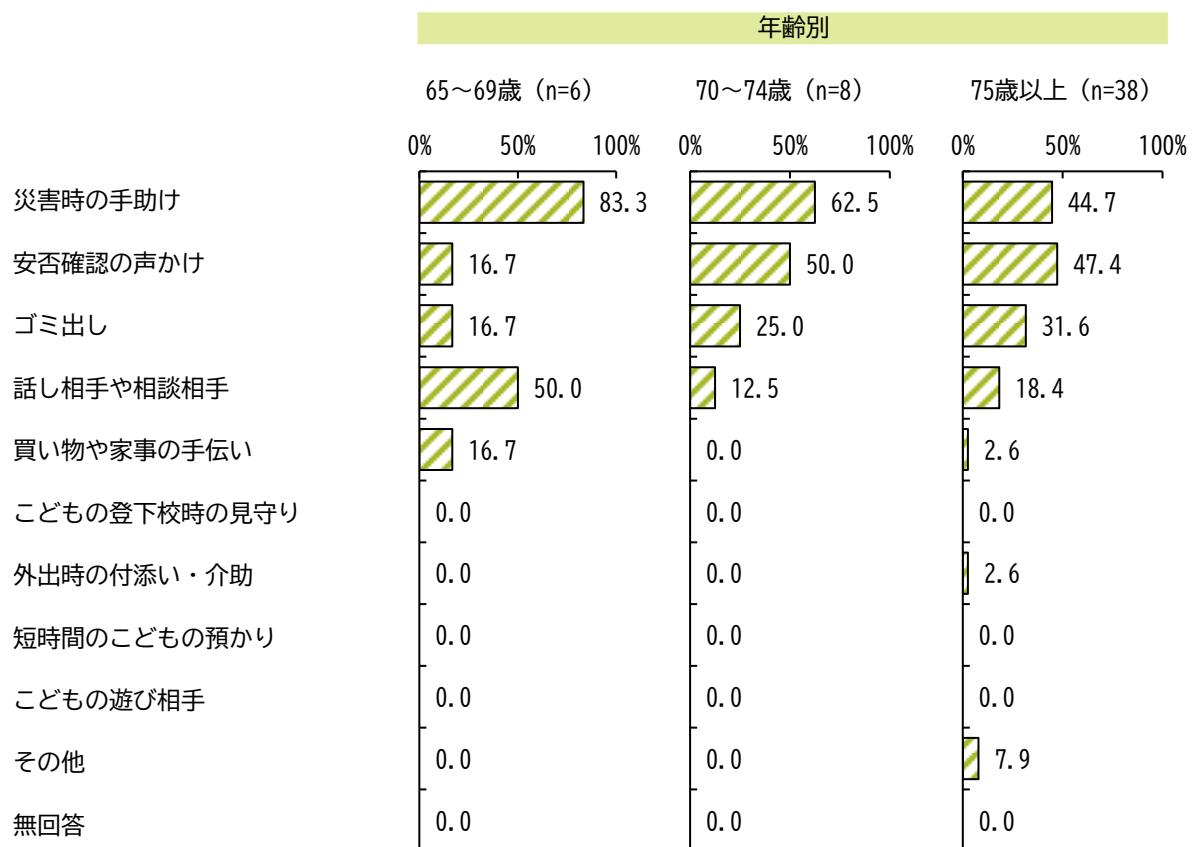
地域の方からの協力が必要なことでは、「ある」が21.2%、「ない」が76.1%となっています。

(5) 具体的に協力が必要なこと

※問15で「1. ある」と答えた方におたずねします。

問15-1 具体的にはどのようなことですか。(〇はいくつでも)





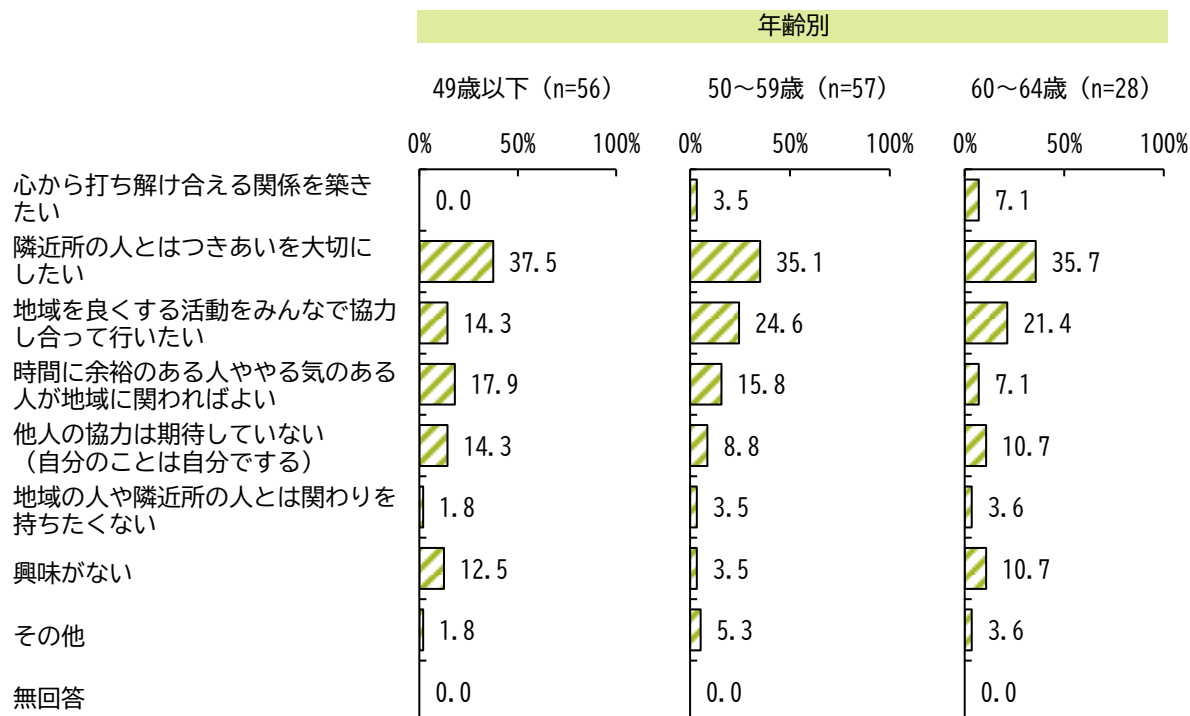
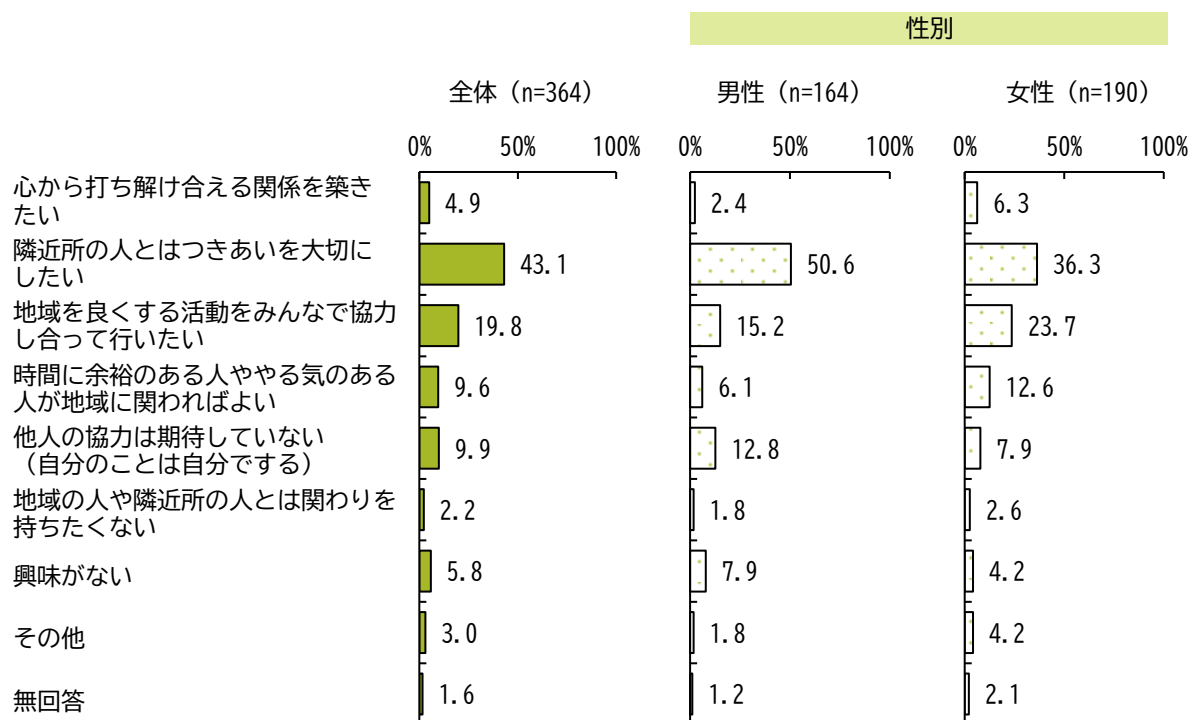
具体的に協力が必要なことでは、「災害時の手助け」が53.2%と最も多く、次いで「安否確認の声かけ」が37.7%、「ゴミ出し」が31.2%などとなっています。

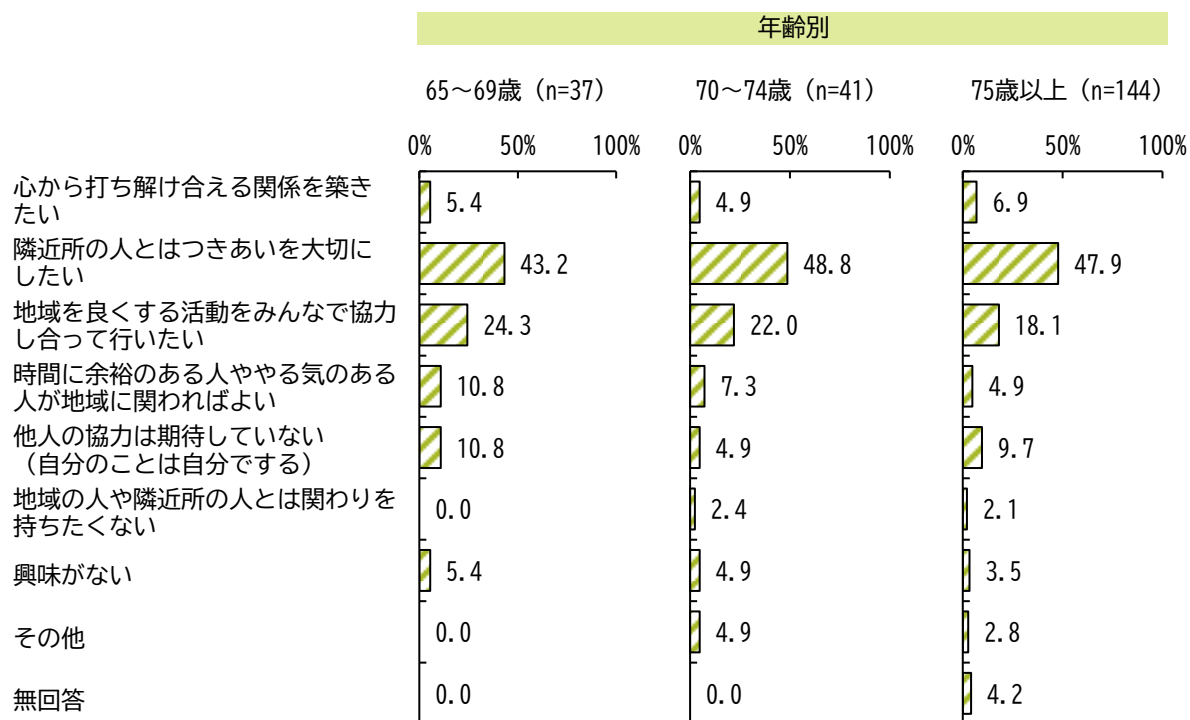
年齢別でみると、“75歳以上”は「安否確認の声かけ」が47.4%と最も多くなっています。

(6) 人との関わりについて、自身の考えに近いもの

問16 地域での人との関わりについて、お考えに近いものをお選びください。

(○は1つだけ)

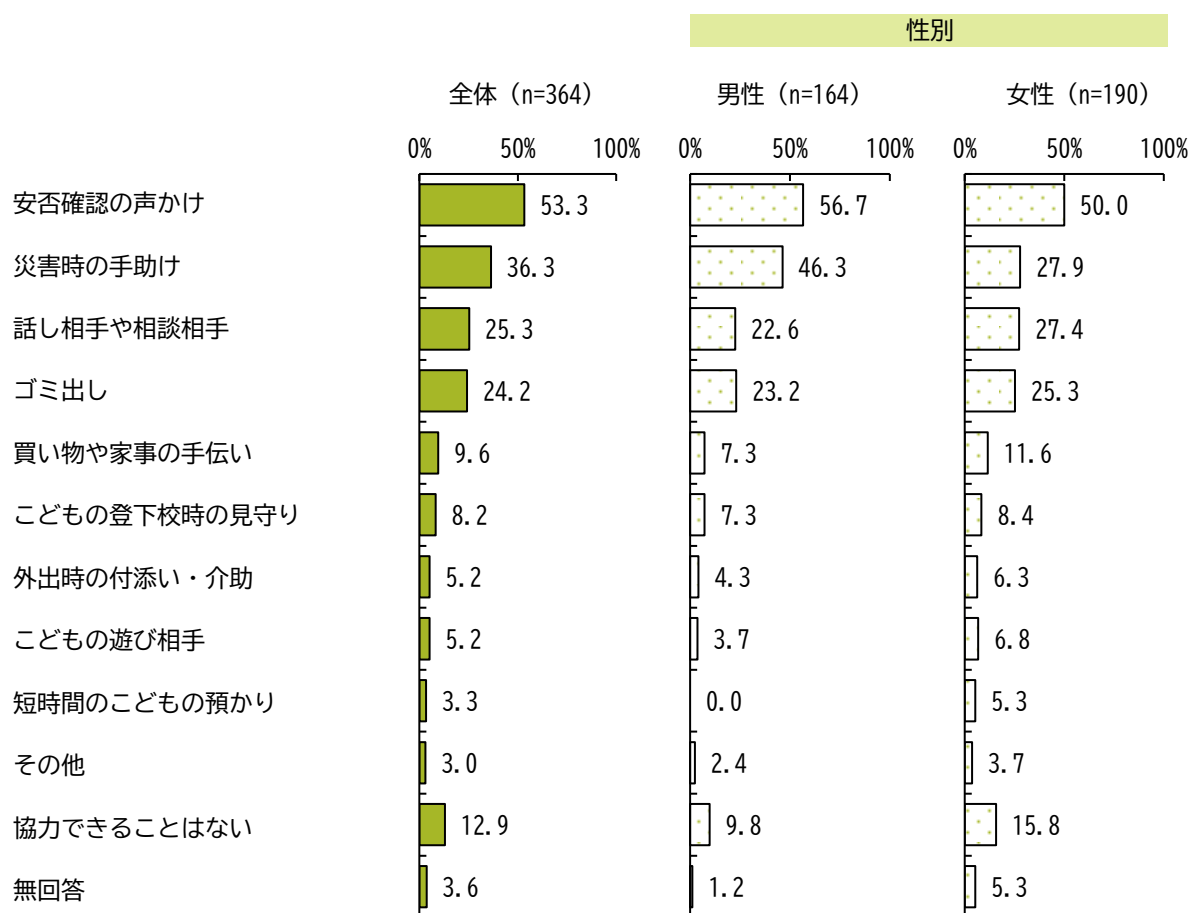


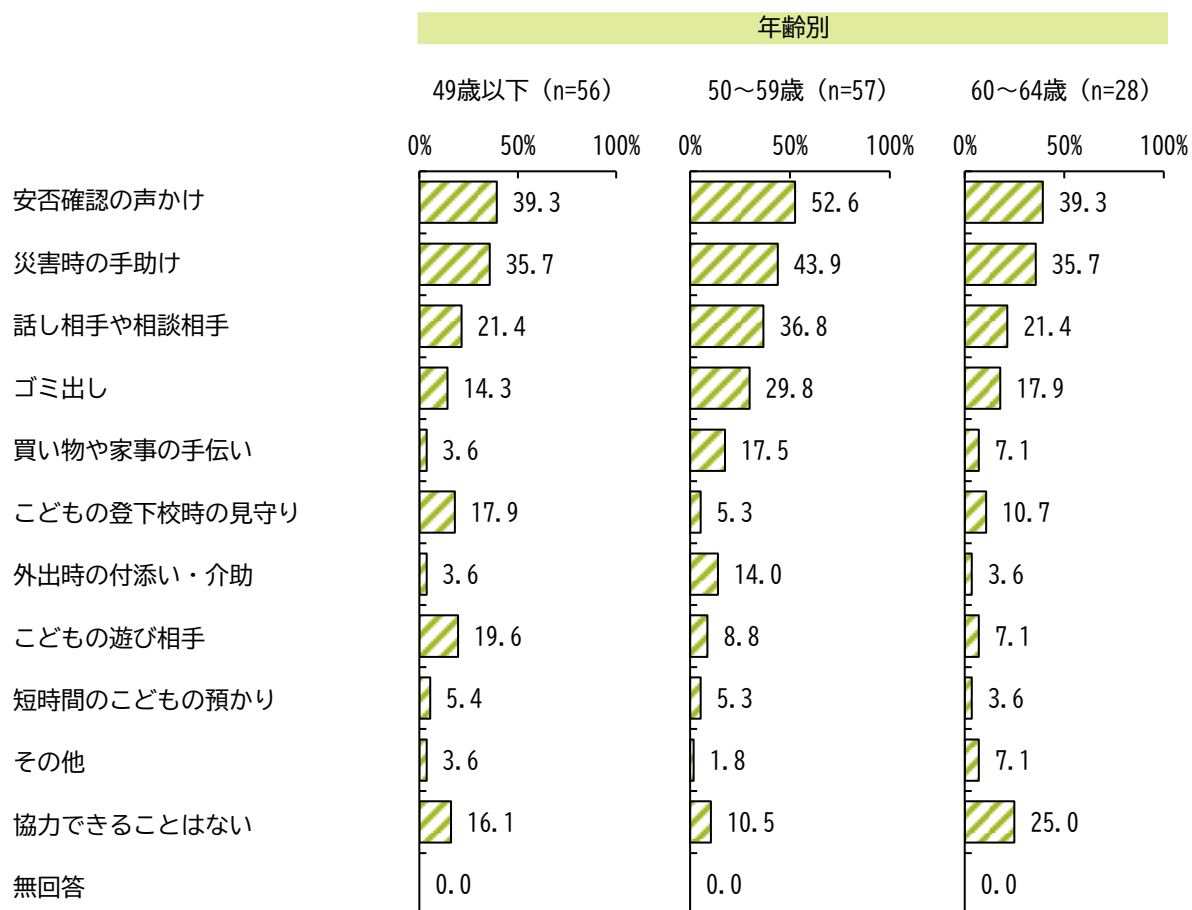


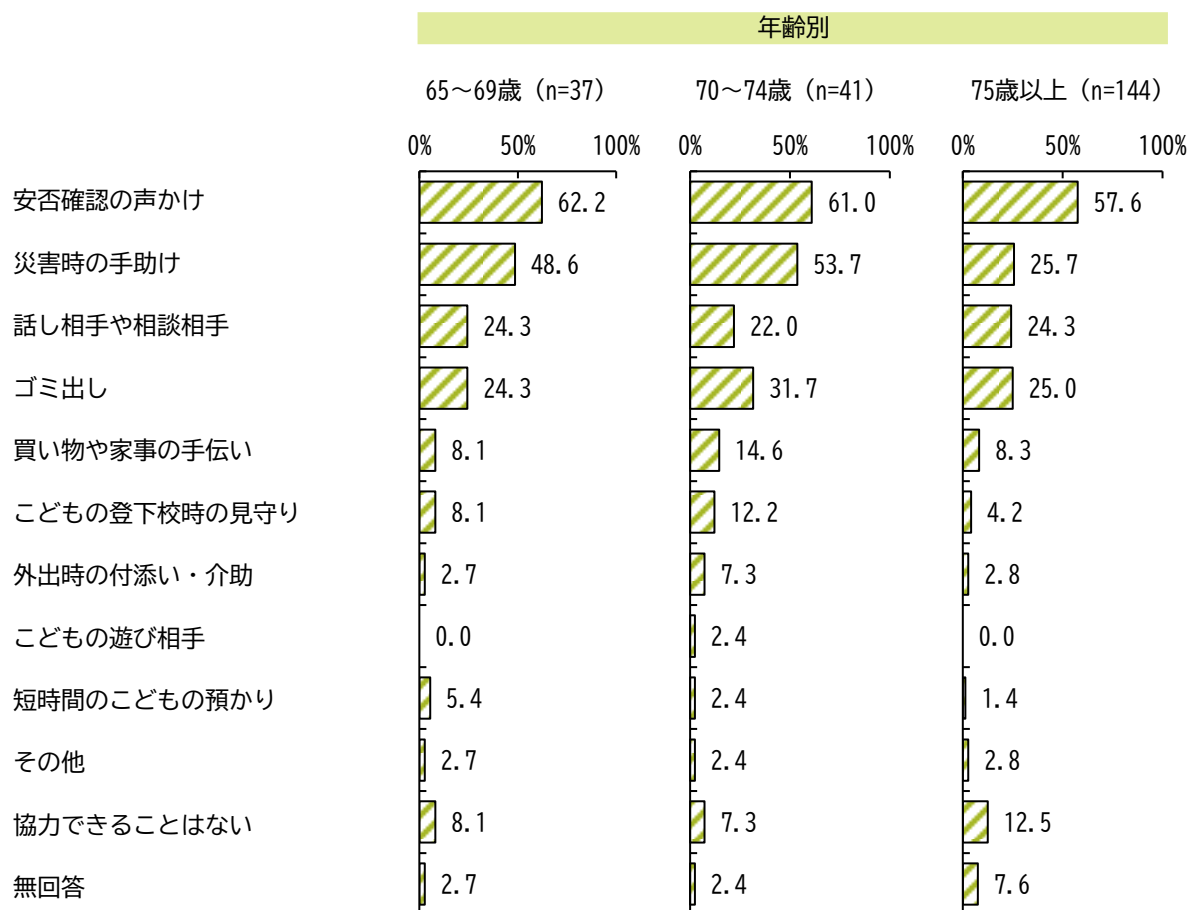
人との関わりについて、自身の考えに近いものでは、「隣近所の人とはつきあいを大切にしたい」が43.1%と最も多く、次いで「地域を良くする活動をみんなで協力し合って行いたい」が19.8%、「他人の協力は期待していない（自分のことは自分です）」が9.9%などとなっています。

(7) 高齢者等の世帯に対して、協力できること

問17 高齢者や障がい者・子どもなどがある世帯に対して、あなたが協力できることは何ですか。(〇はいくつでも)





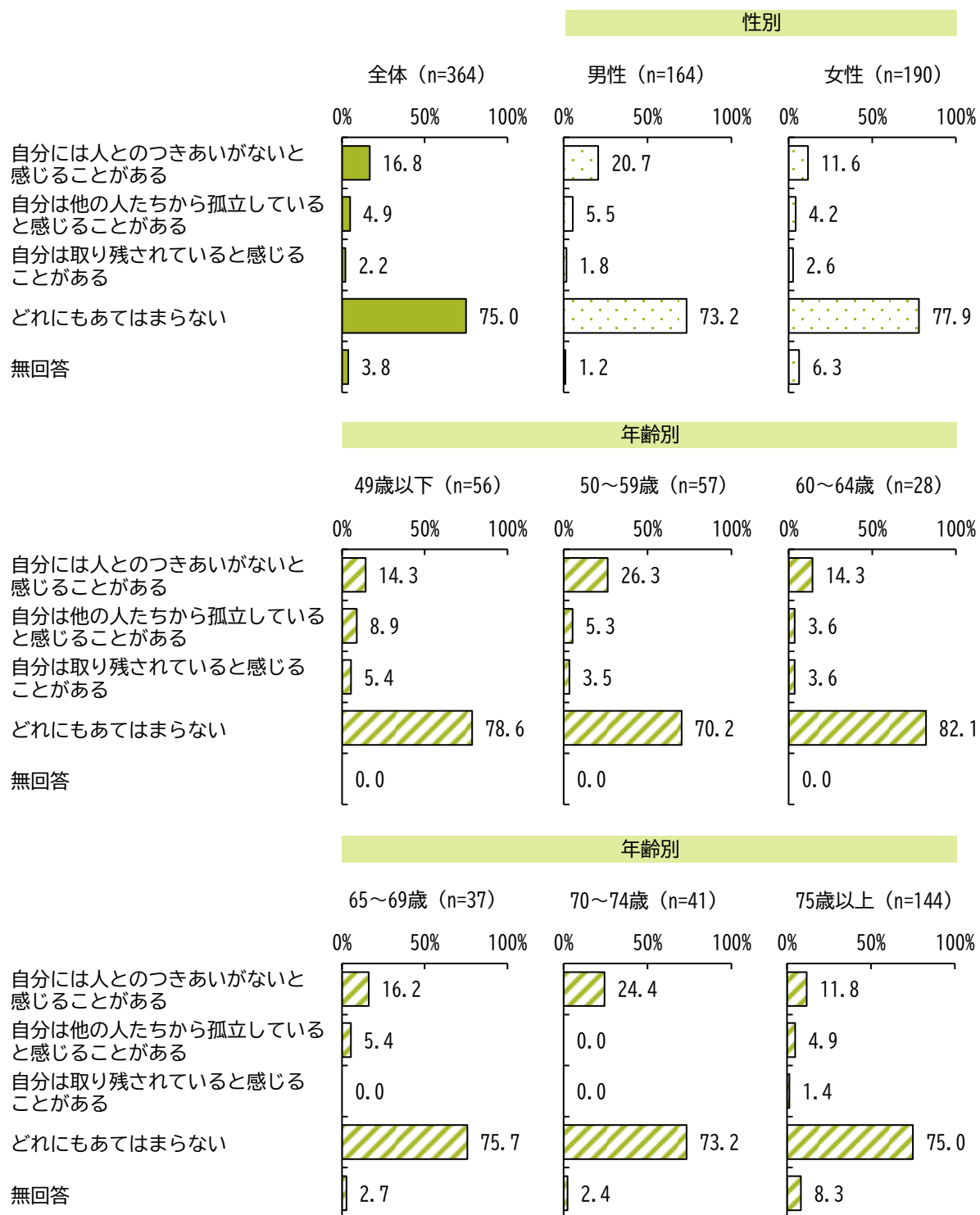


高齢者等の世帯に対して、協力できることでは、「安否確認の声かけ」が53.3%と最も多く、次いで「災害時の手助け」が36.3%、「話し相手や相談相手」が25.3%などとなっています。

6 居場所について

(1) あてはまると思うこと

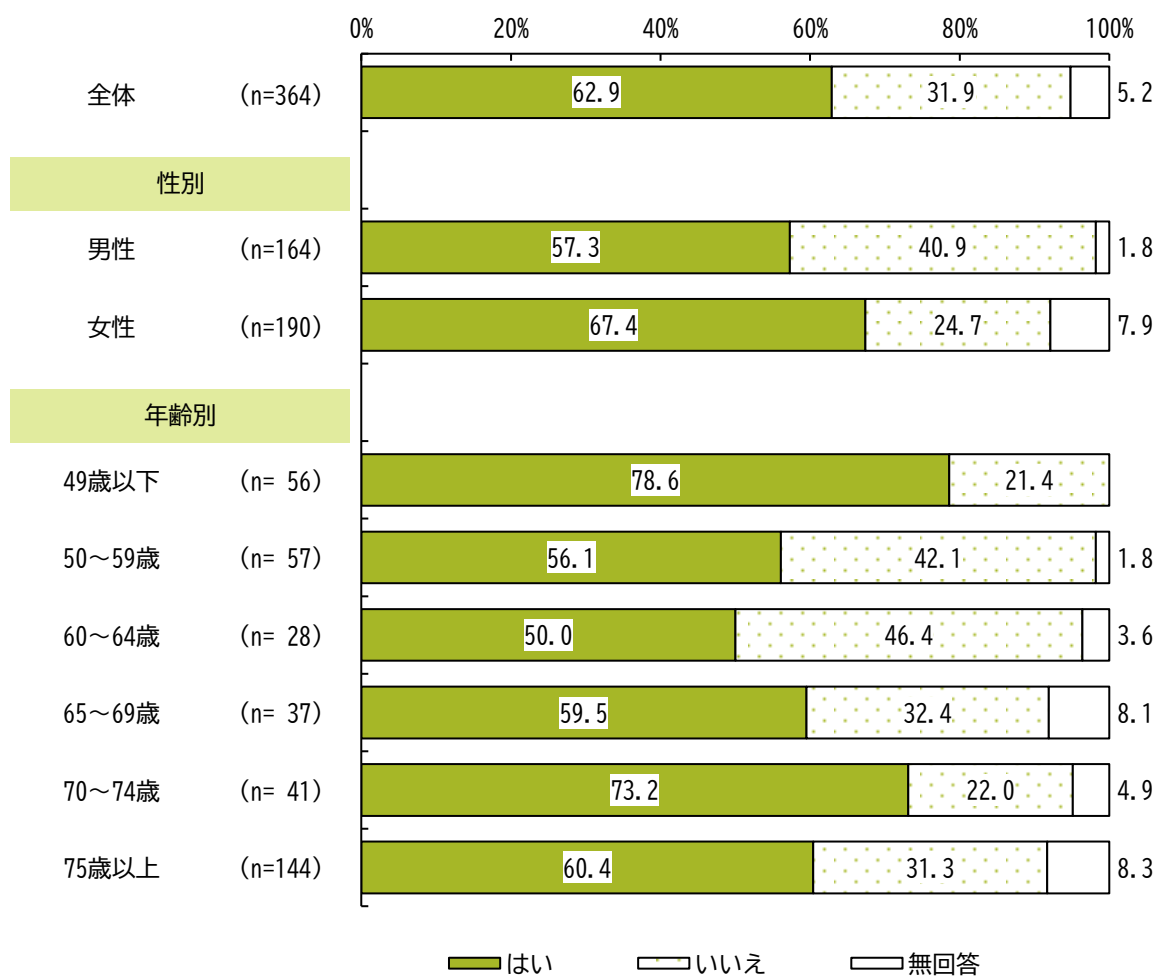
問18 次の項目にあてはまると思うことはありますか。(○はいくつでも)



あてはまると思うことでは、「自分には人とのつきあいがないと感じることがある」が16.8%と最も多く、次いで「自分は他の人たちから孤立していると感じることがある」が4.9%、「自分は取り残されていると感じることがある」が2.2%となっています。また、「どれにもあてはまらない」が75.0%となっています。

(2) 親友の有無

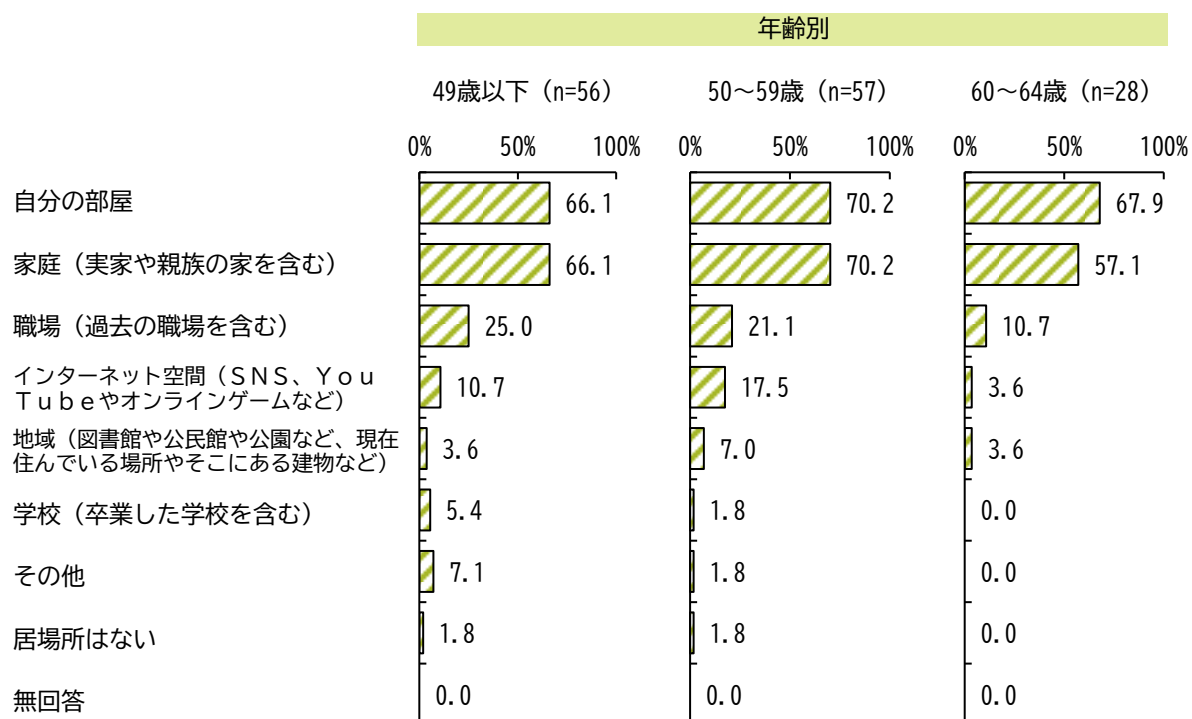
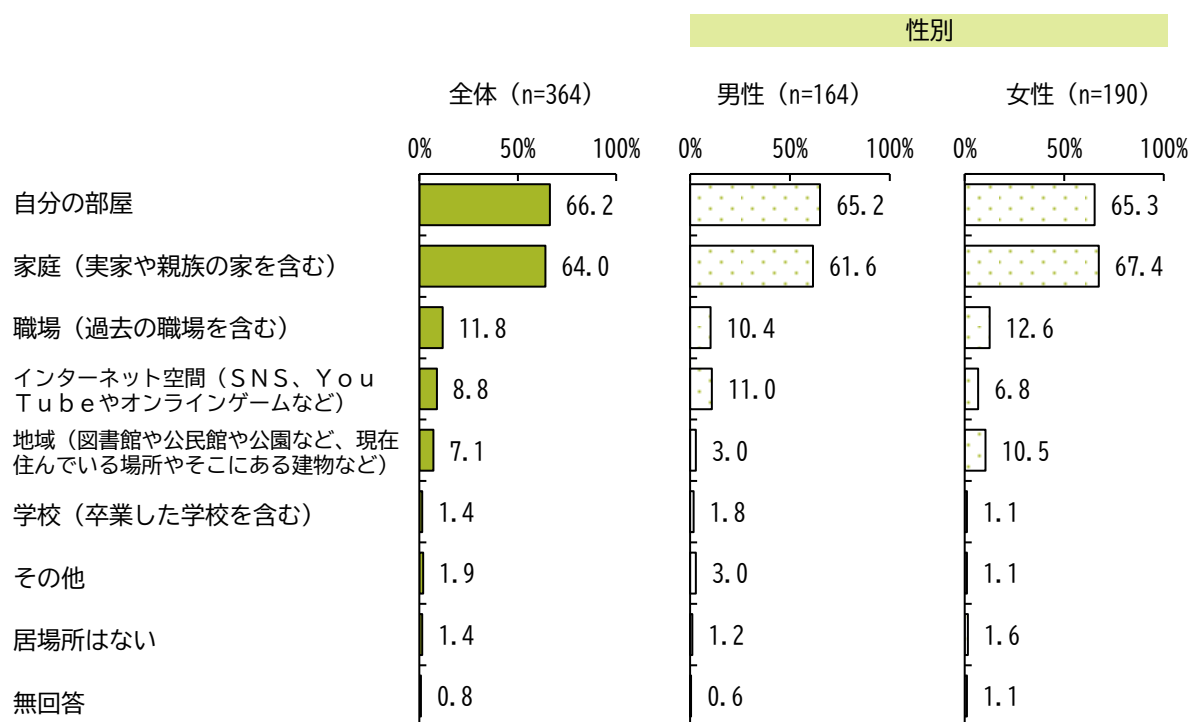
問19 親友といえる友人がいますか。(○は1つだけ)

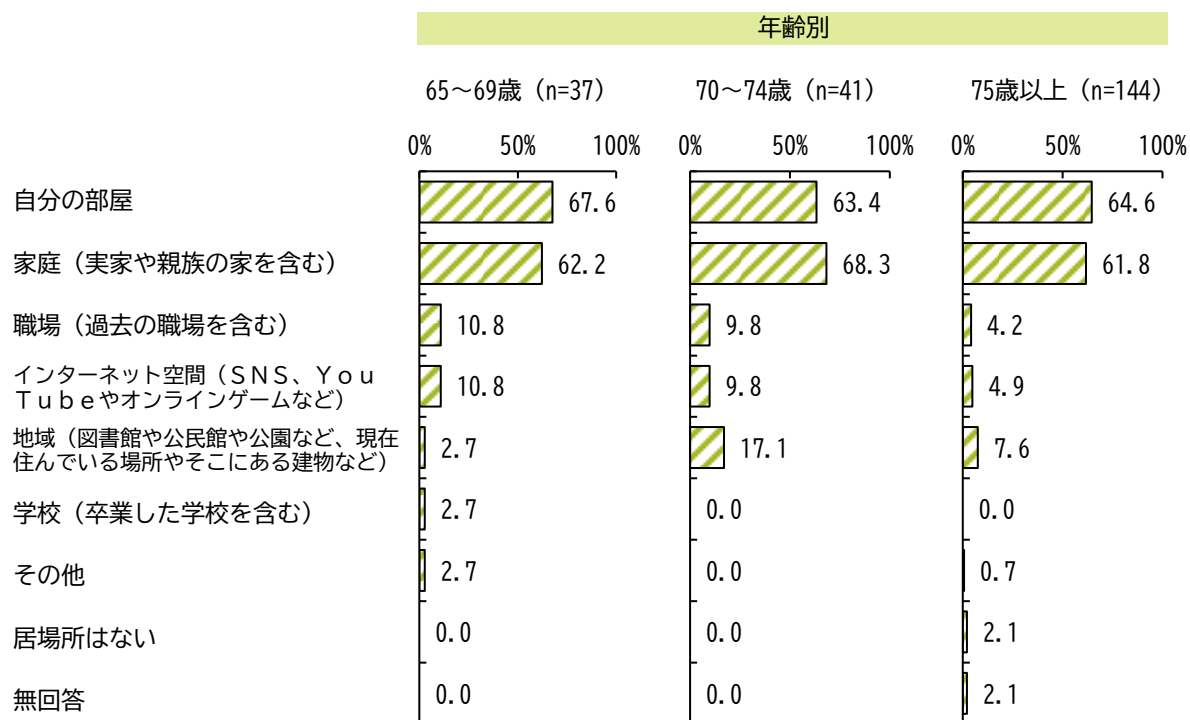


親友の有無では、「はい」が62.9%、「いいえ」が31.9%となっています。

(3) 居場所だと思える場所

問20 次の場所は、今のあなたにとって居場所（ほっとできる場所、居心地のいい場所など）になっていますか。（○はいくつでも）





居場所だと思える場所では、「自分の部屋」が66.2%と最も多く、次いで「家庭（実家や親族の家を含む）」が64.0%、「職場（過去の職場を含む）」が11.8%などとなっています。

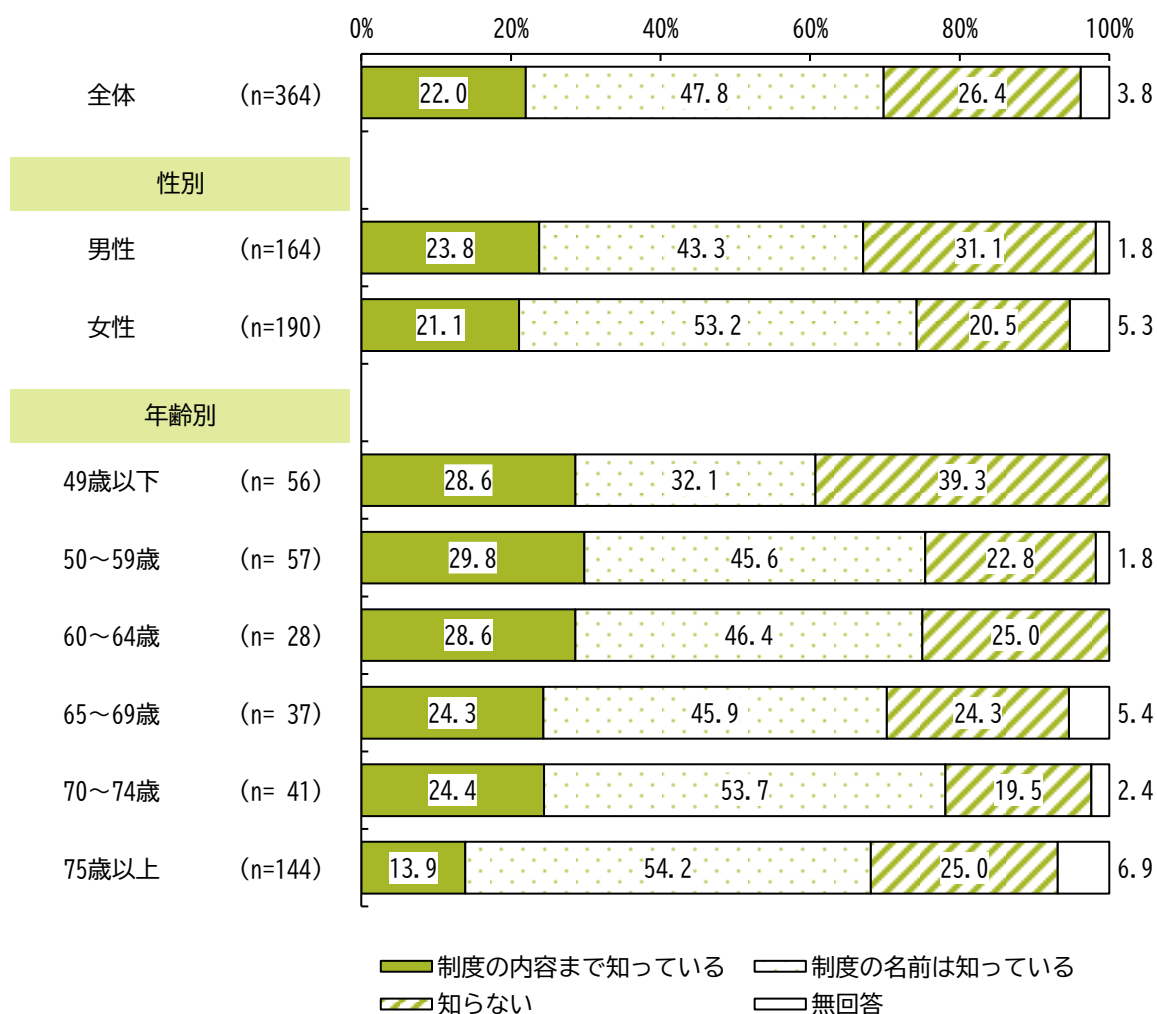
性別でみると、“女性”は「家庭（実家や親族の家を含む）」が67.4%と最も多くなっています。

年齢別でみると、“70～74歳”は「家庭（実家や親族の家を含む）」が68.3%と最も多くなっています。

7 成年後見制度について

(1) 成年後見制度の認知

問21 成年後見制度を知っていますか。(○は1つだけ)



成年後見制度の認知では、「制度の内容まで知っている」が22.0%、「制度の名前は知っている」が47.8%、「知らない」が26.4%となっています。

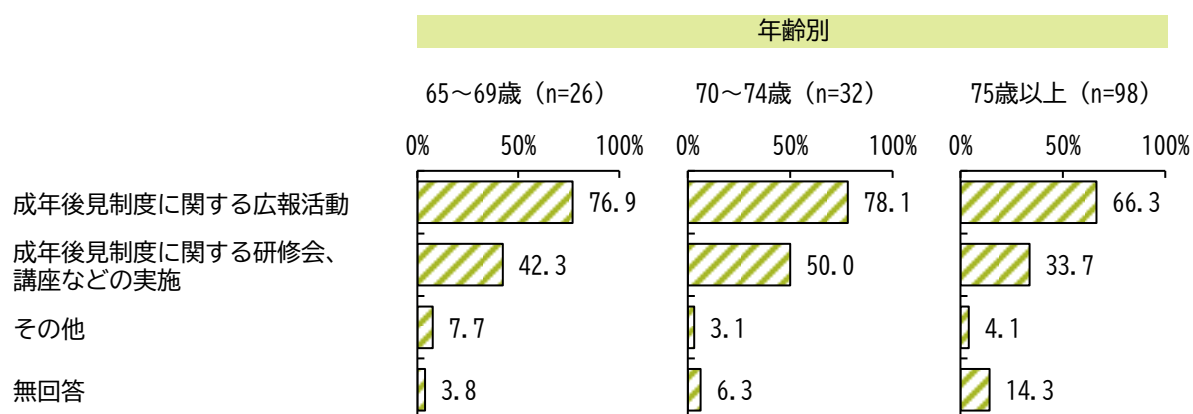
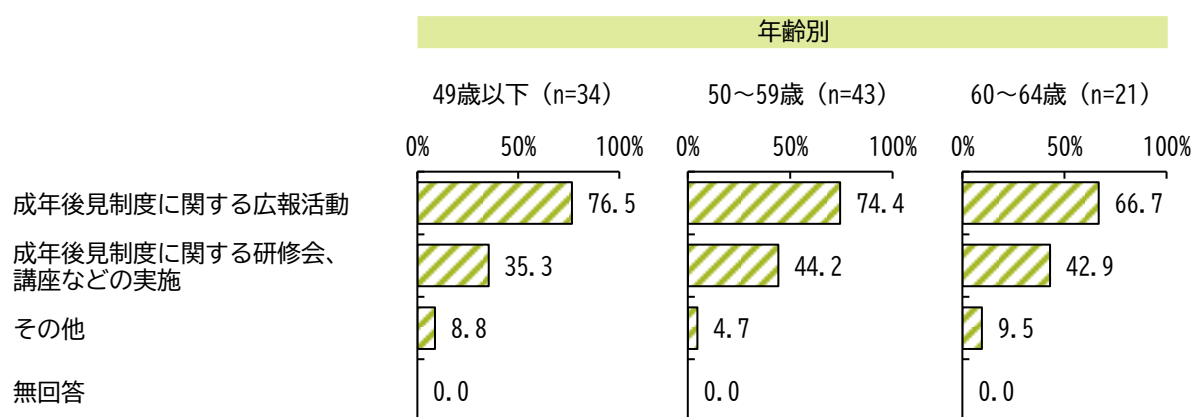
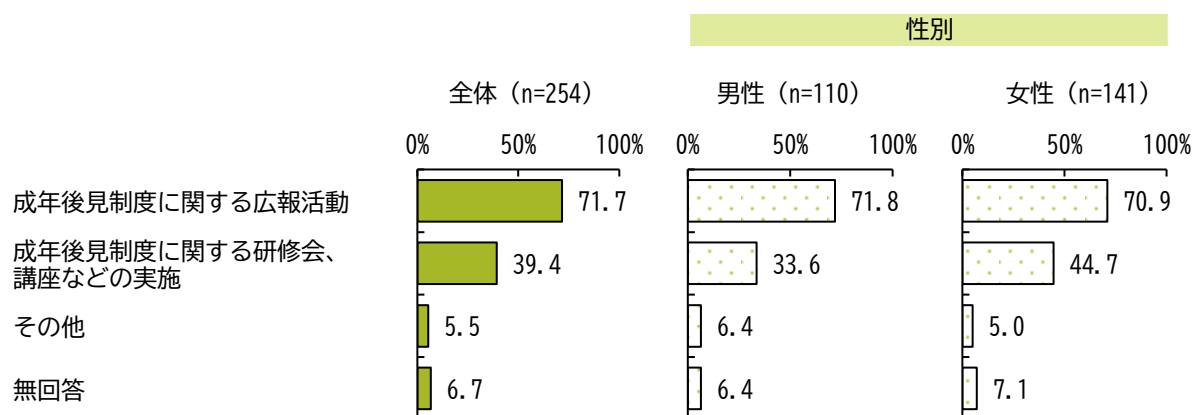
年齢別でみると、“49歳以下”は「知らない」が39.3%と最も多くなっています。

(2) 成年後見制度を認知してもらうために必要だと思うもの

※問21で「1. 制度の内容まで知っている」、「2. 制度の名前は知っている」と答えた方に
おたずねします。

問21-1 成年後見制度を知ってもらうためには、何が必要と考えていますか。

(○はいくつでも)

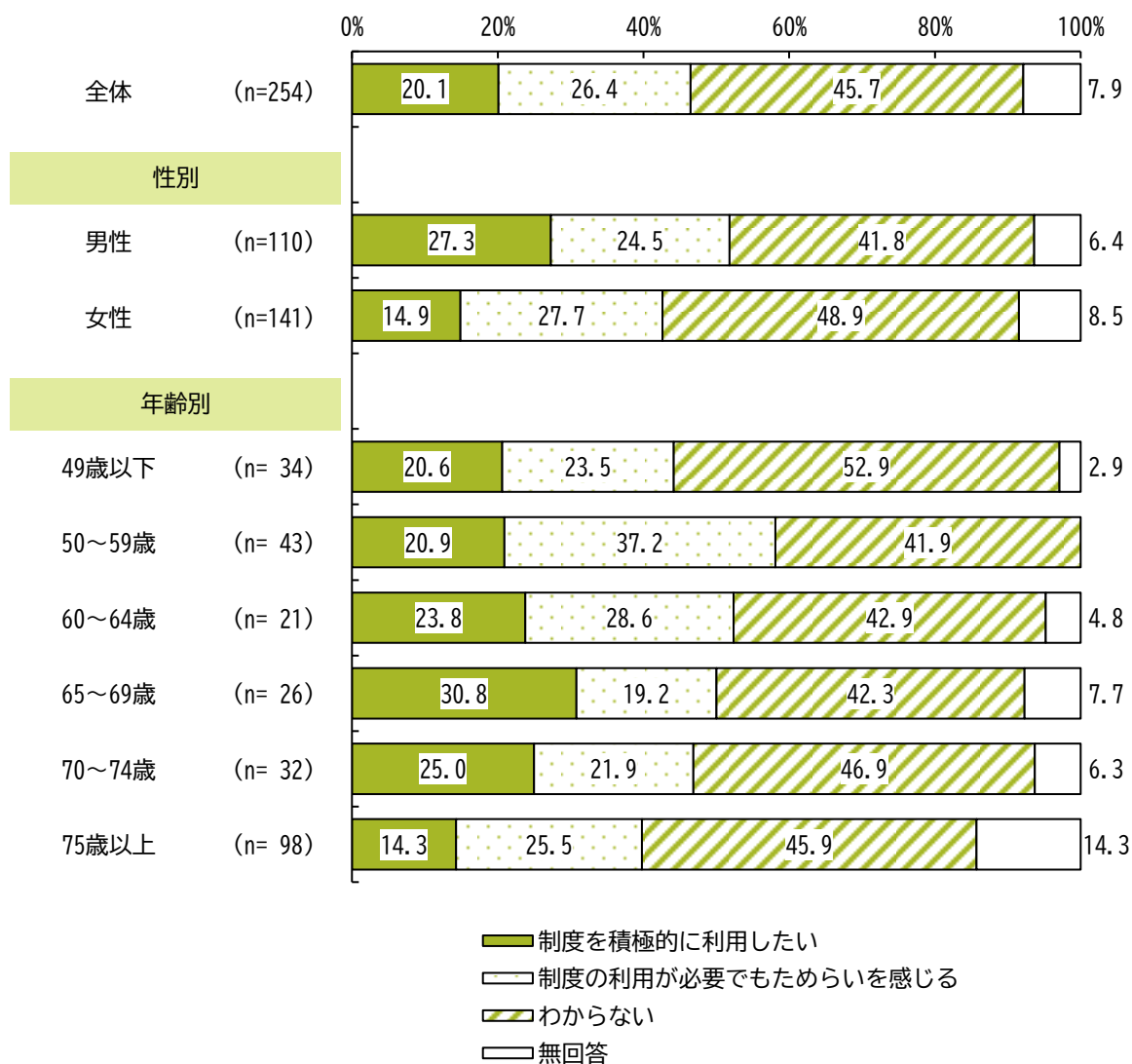


成年後見制度を認知してもらうために必要だと思うものでは、「成年後見制度に関する広報活動」が71.7%と最も多く、次いで「成年後見制度に関する研修会、講座などの実施」が39.4%などとなっています。

(3) 成年後見制度の利用についての考え

※問21で「1. 制度の内容まで知っている」、「2. 制度の名前は知っている」と答えた方におたずねします。

問21-2 ご自身やご家族などが成年後見制度を利用することについてどのように思いますか。(〇は1つだけ)

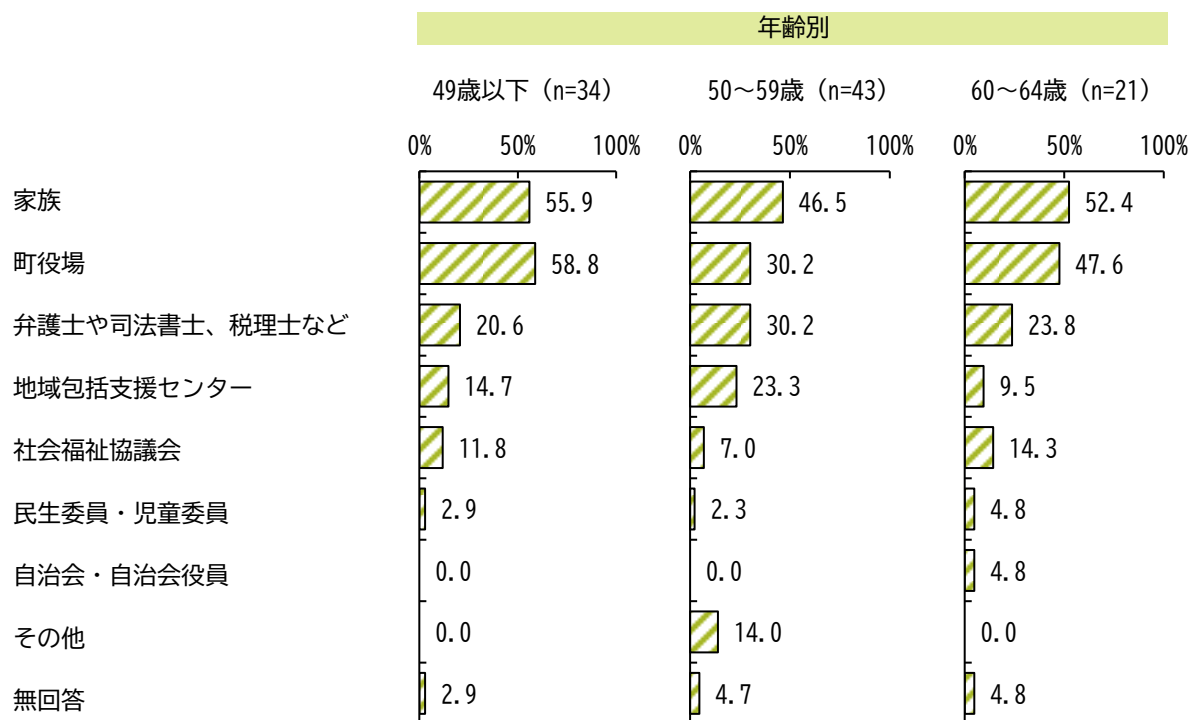
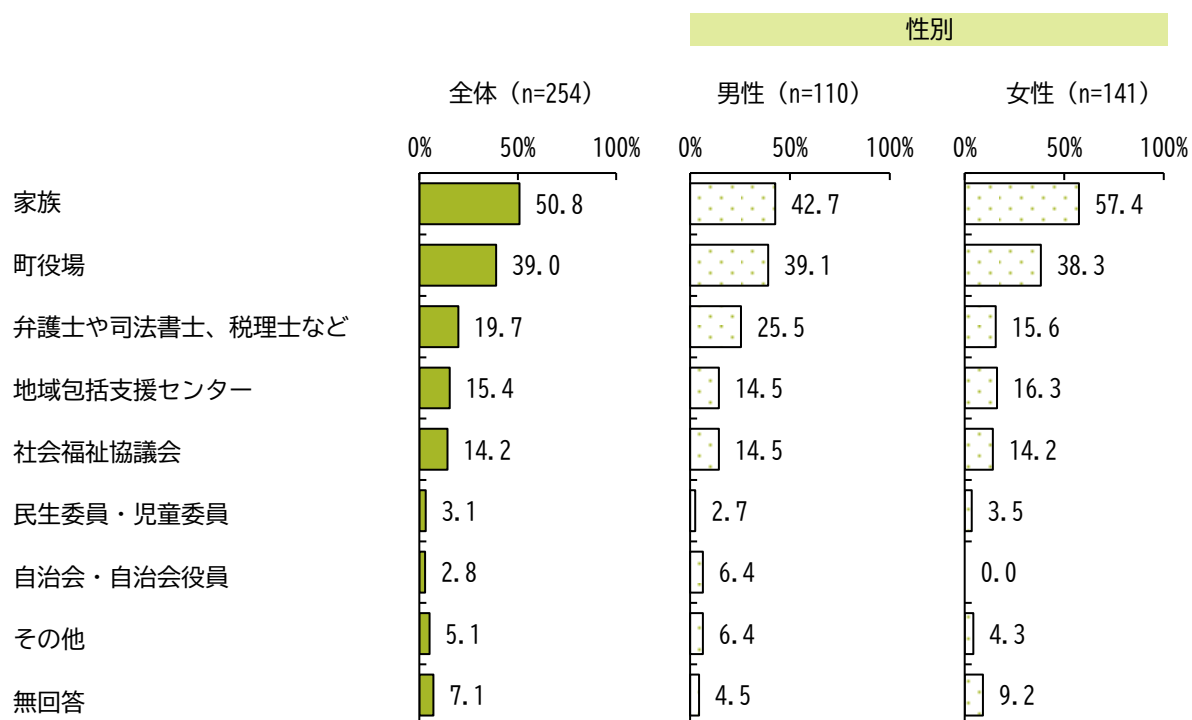


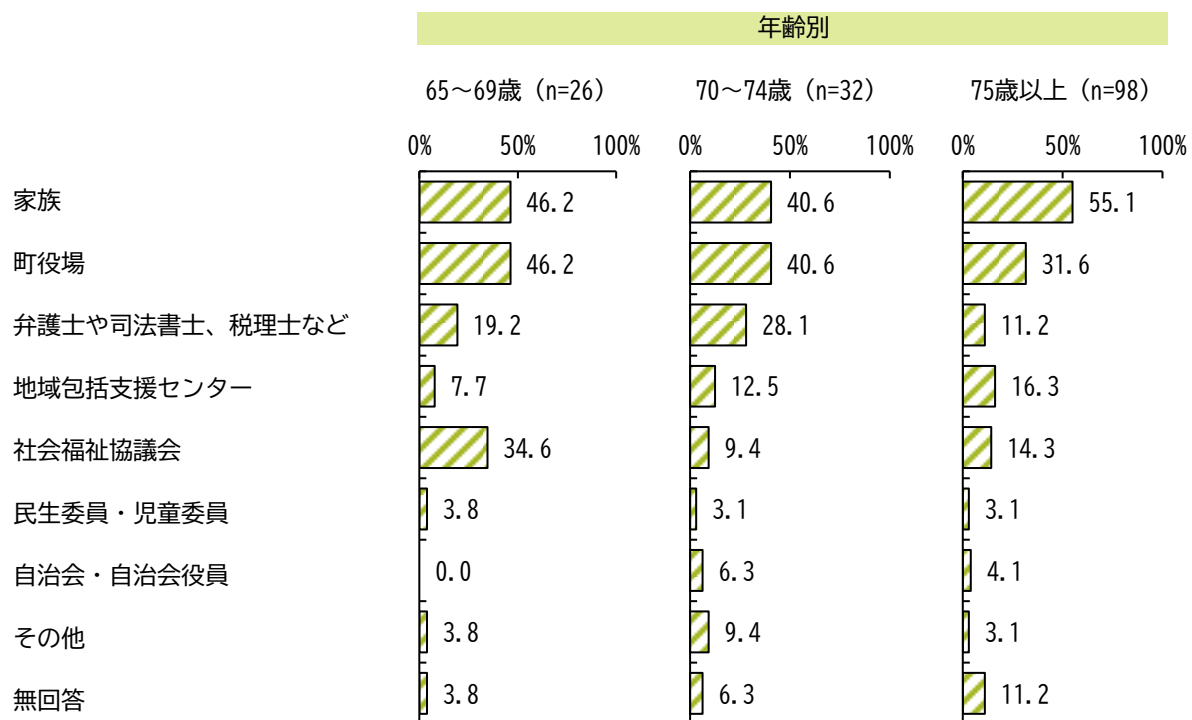
成年後見制度の利用についての考えでは、「制度を積極的に利用したい」が20.1%、「制度の利用が必要でもためらいを感じる」が26.4%、「わからない」が45.7%となっています。

(4) 成年後見制度の利用についての相談先

※問21で「1. 制度の内容まで知っている」、「2. 制度の名前は知っている」と答えた方に
おたずねします。

問21-3 身近な人について成年後見制度を利用すべきかどうか悩んだ際に、あなたが相談する先はどこですか。(〇はいくつでも)





成年後見制度の利用についての相談先では、「家族」が50.8%と最も多く、次いで「町役場」が39.0%、「弁護士や司法書士、税理士など」が19.7%などとなっています。

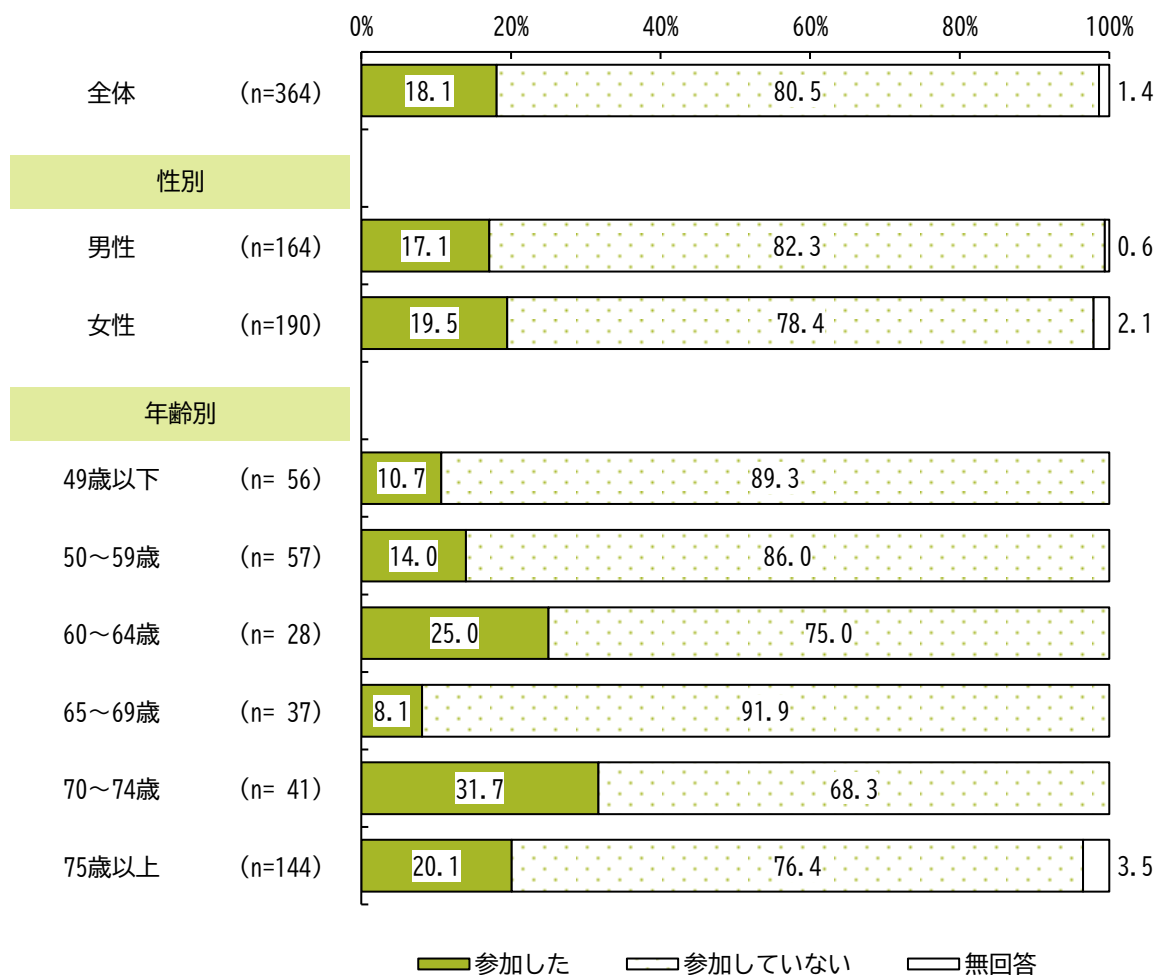
年齢別でみると、“49歳以下”は「町役場」が58.8%と最も多くなっています。

8 地域の福祉活動やボランティア活動について

(1) 過去1年間のボランティア活動への参加有無

問22 あなたはこの1年間に何らかのボランティア活動に参加しましたか。

(○は1つだけ) ※福祉に限らず、まちづくり全体の分野で考えてください。

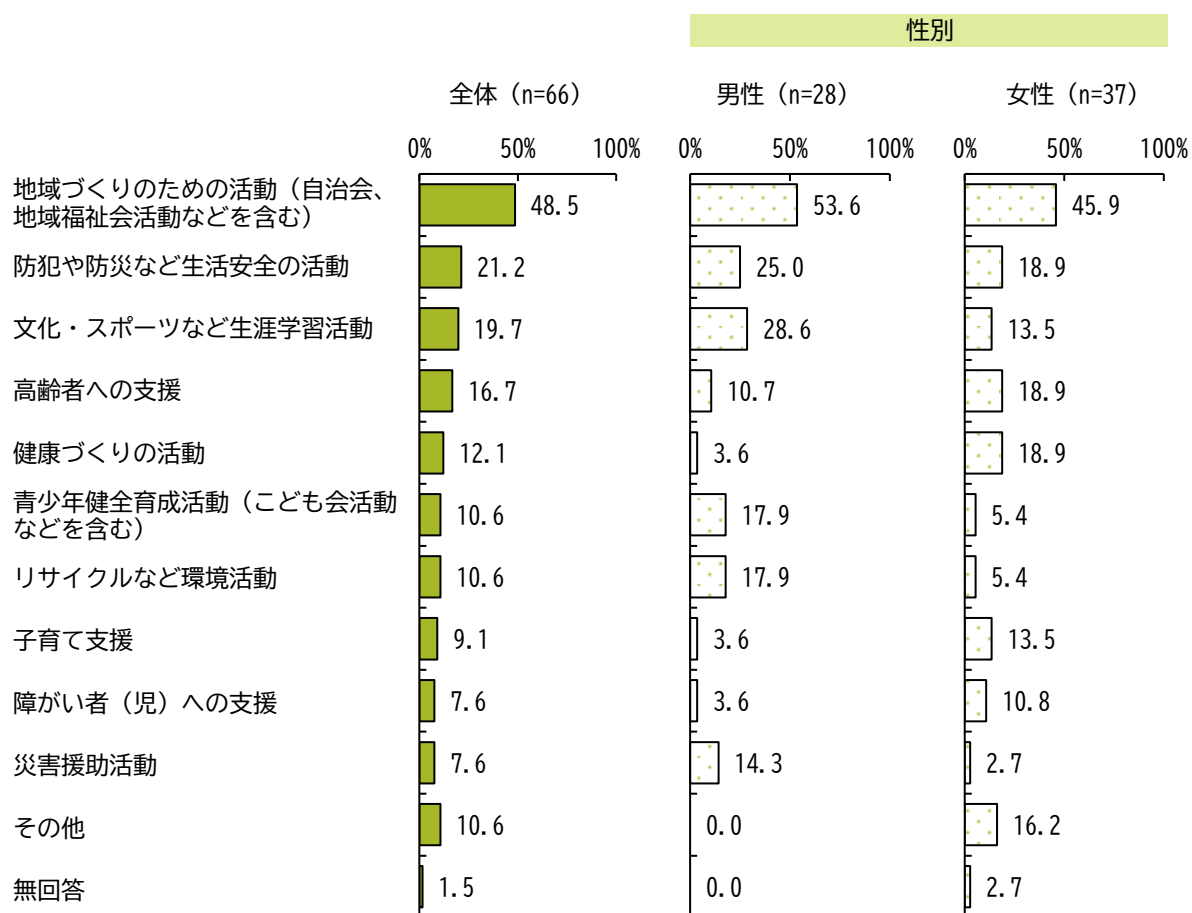


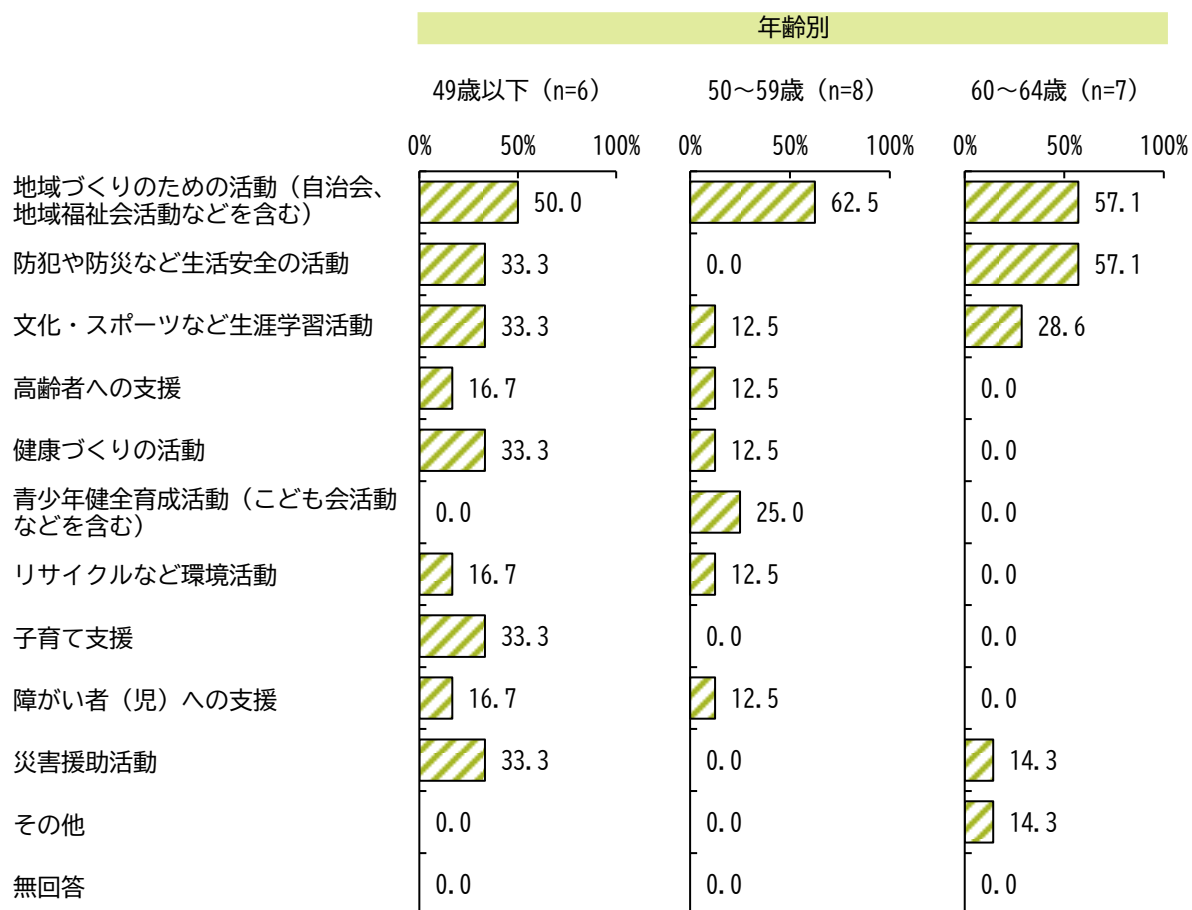
過去1年間のボランティア活動への参加有無では、「参加した」が18.1%、「参加していない」が80.5%となっています。

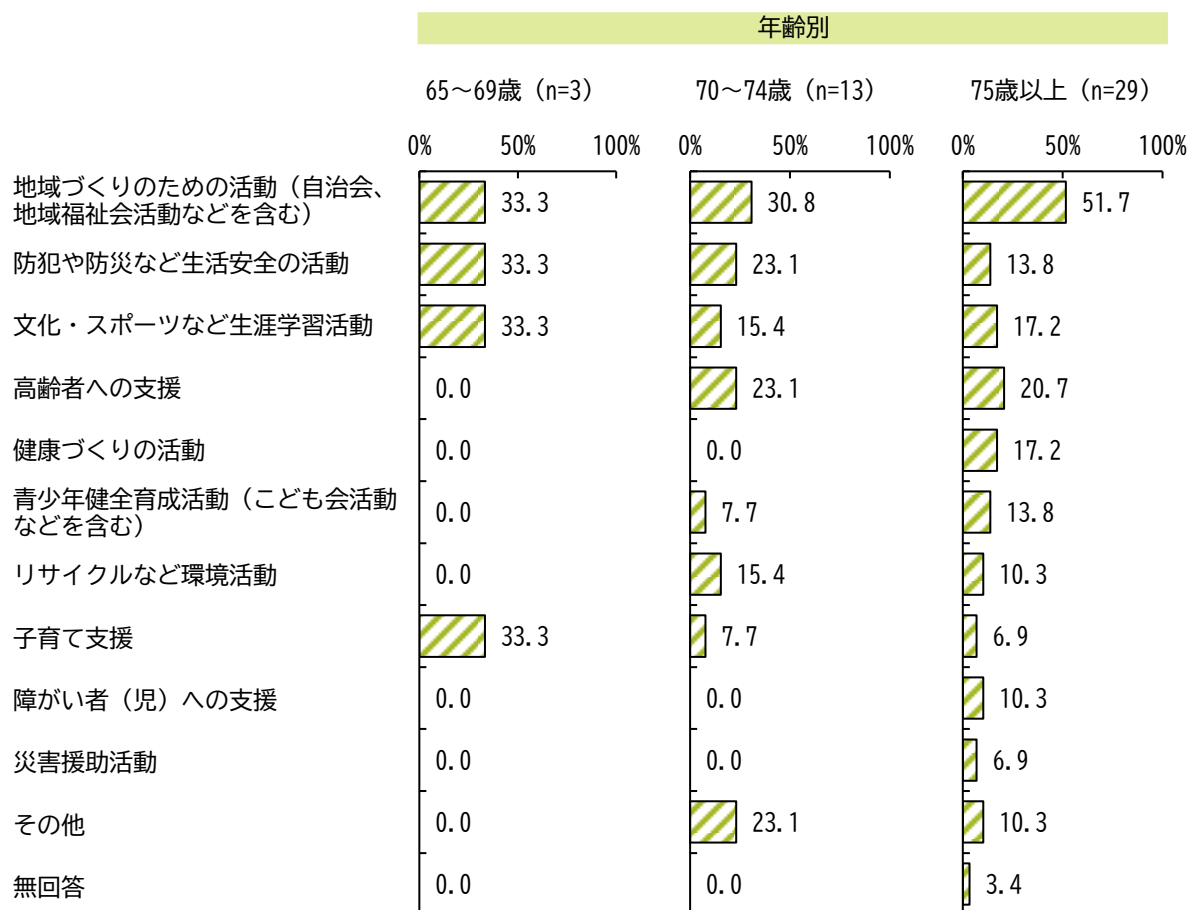
(2) 参加した活動の分野

※問22で「1. 参加した」と答えた方におたずねします。

問22-1 どんな分野の活動に参加しましたか。(〇はいくつでも)





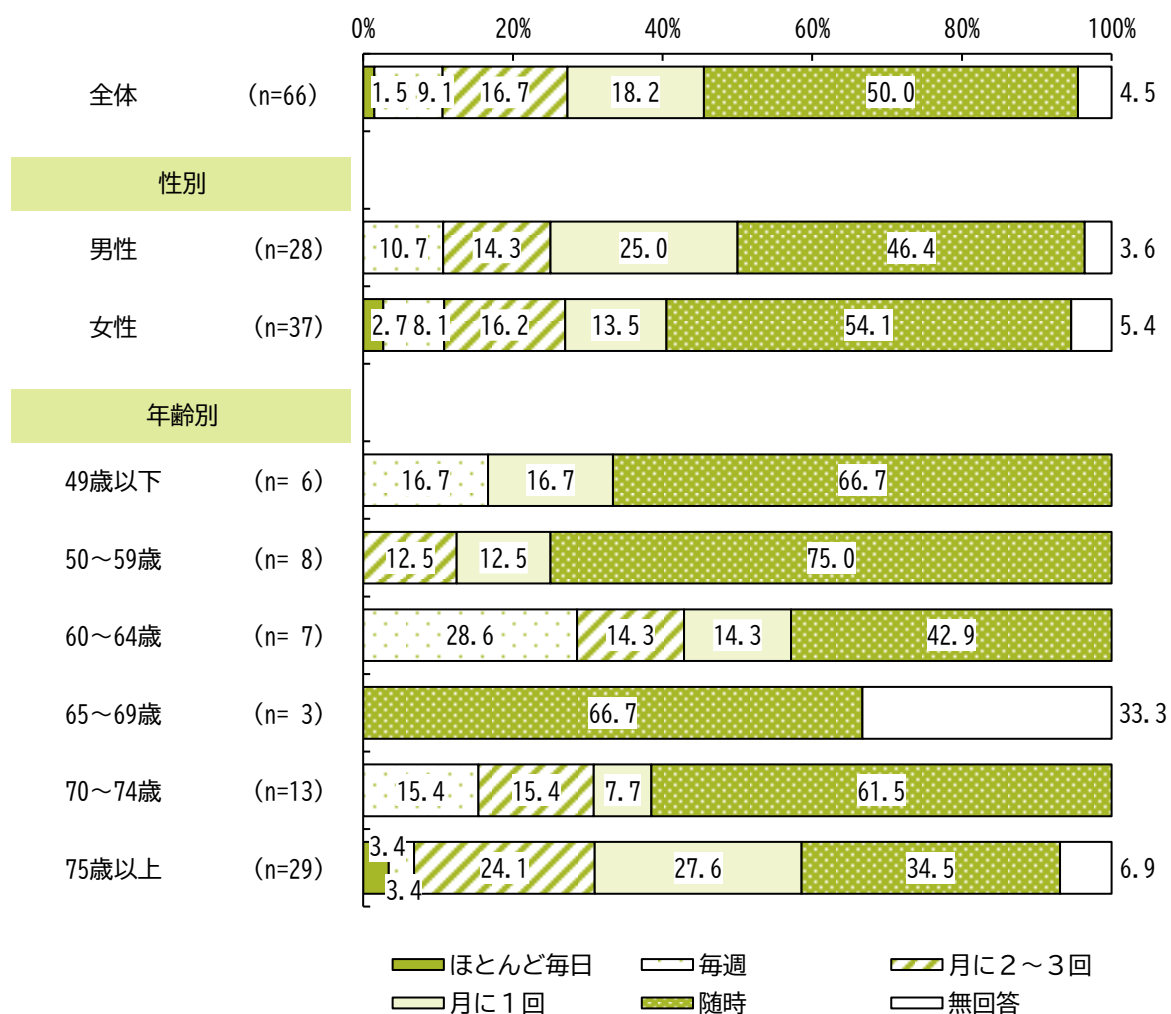


参加した活動の分野では、「地域づくりのための活動（自治会、地域福祉会活動などを含む）」が48.5%と最も多く、次いで「防犯や防災など生活安全の活動」が21.2%、「文化・スポーツなど生涯学習活動」が19.7%などとなっています。

(3) 活動の参加頻度

※問22で「1. 参加した」と答えた方におたずねします。

問22-2 あなたはその活動にどの程度の頻度で参加していましたか。(○は1つだけ)

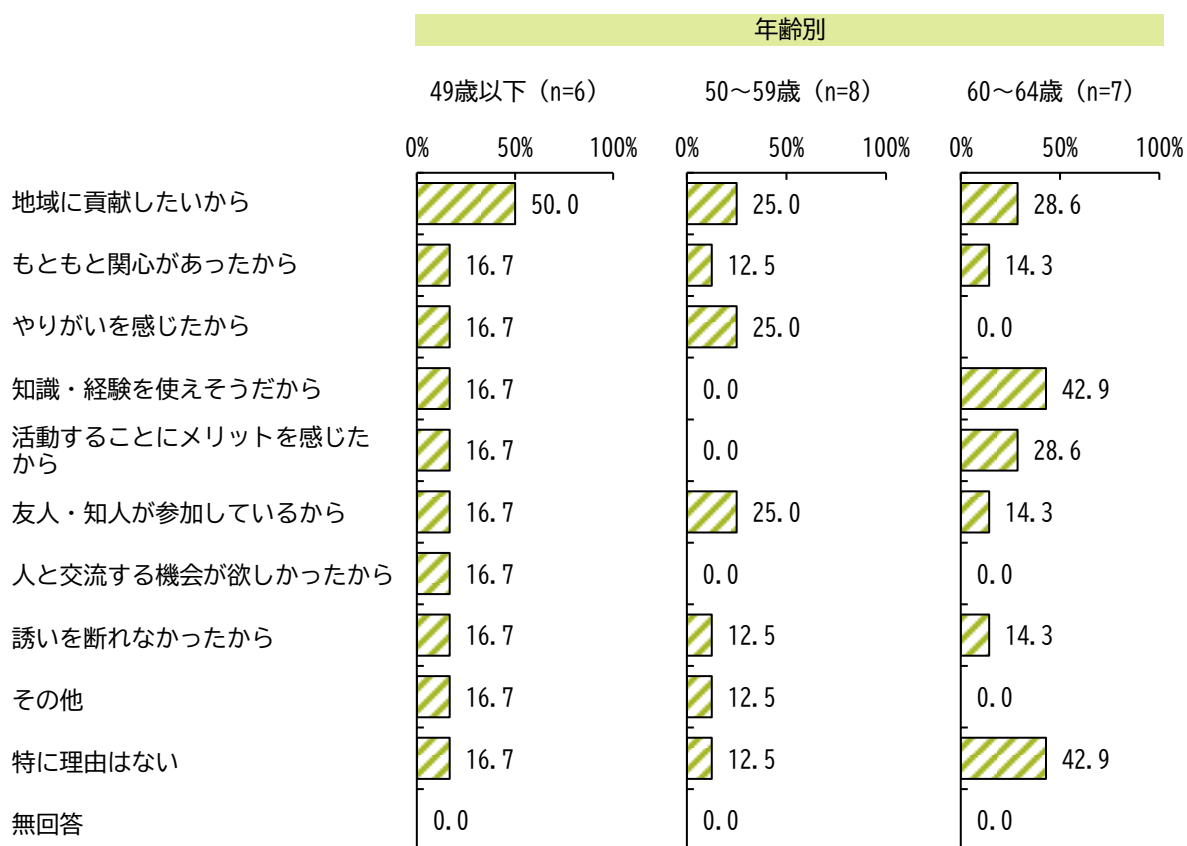
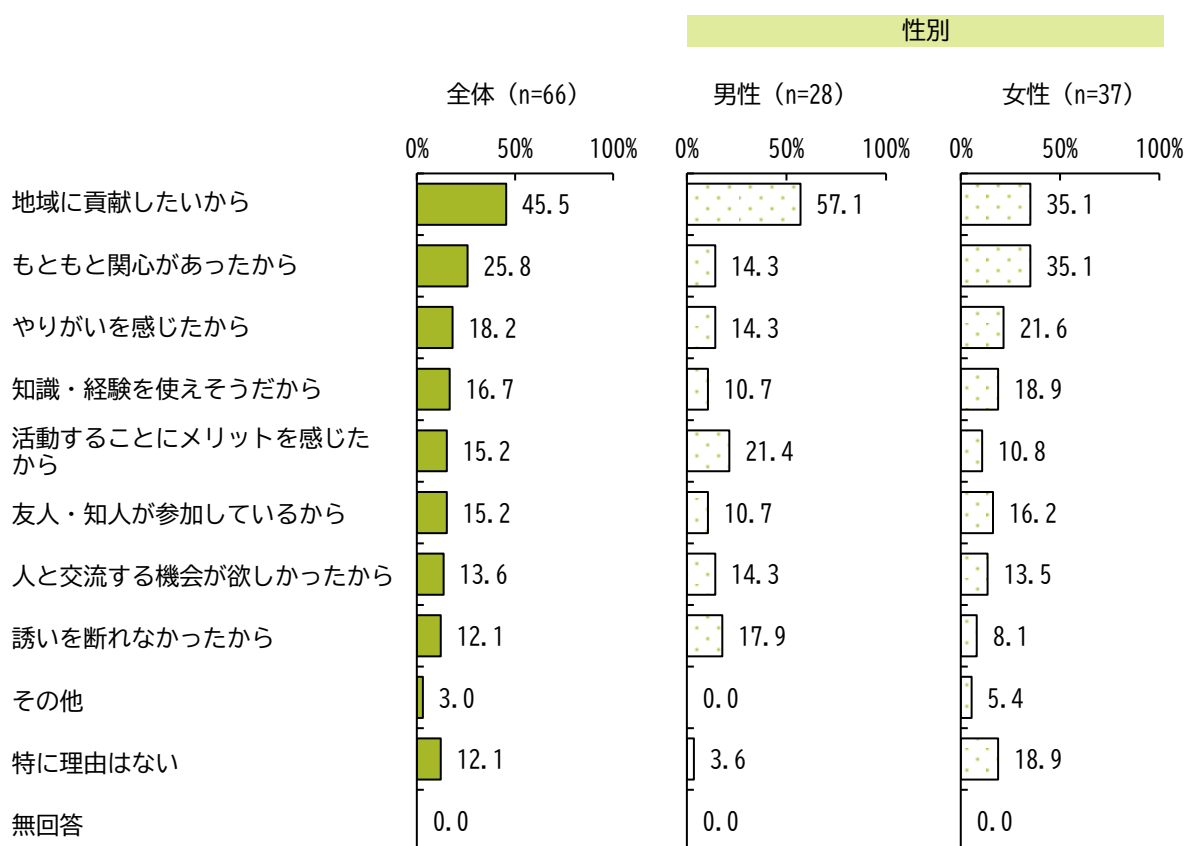


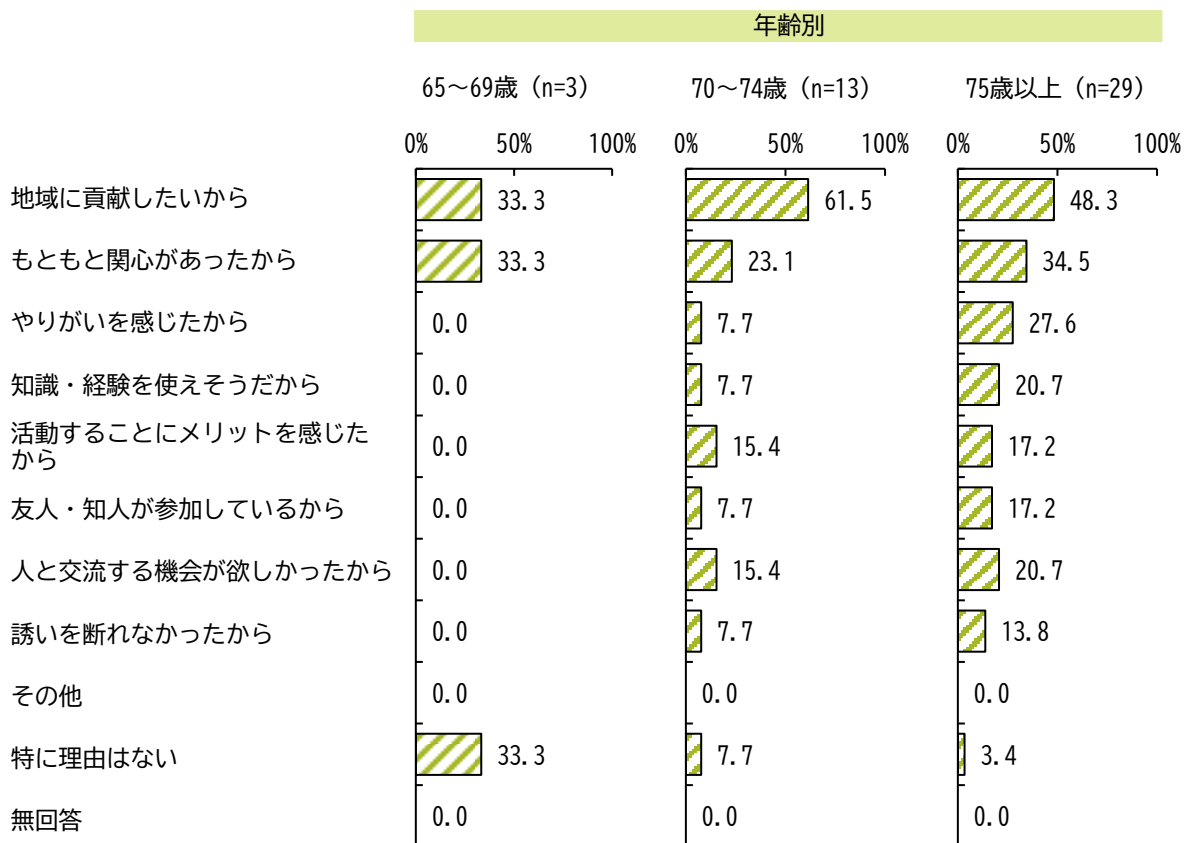
活動の参加頻度では、「随時」が50.0%と最も多く、次いで「月に1回」が18.2%、「月に2～3回」が16.7%などとなっています。

(4) 活動に参加した理由

※問22で「1. 参加した」と答えた方におたずねします。

問22-3 あなたがそのボランティア活動に参加した理由は何ですか。(〇はいくつでも)



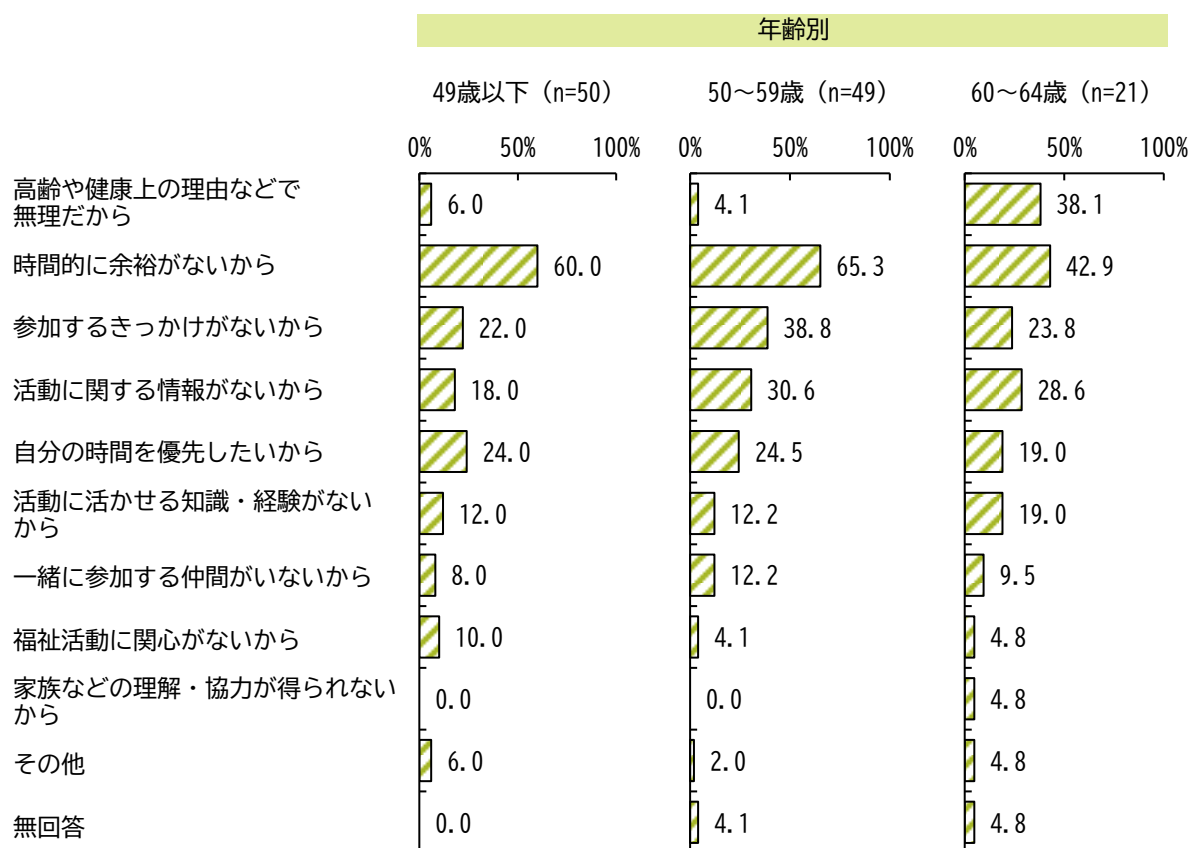
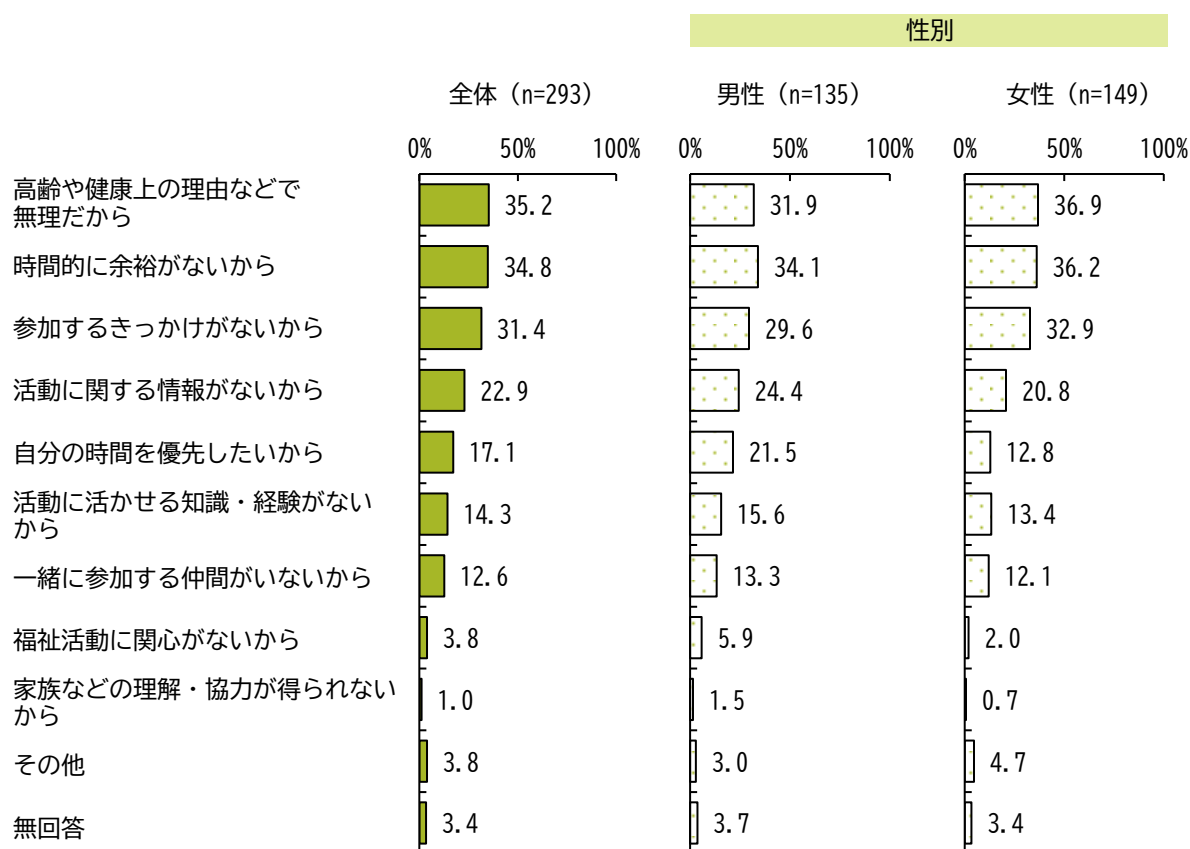


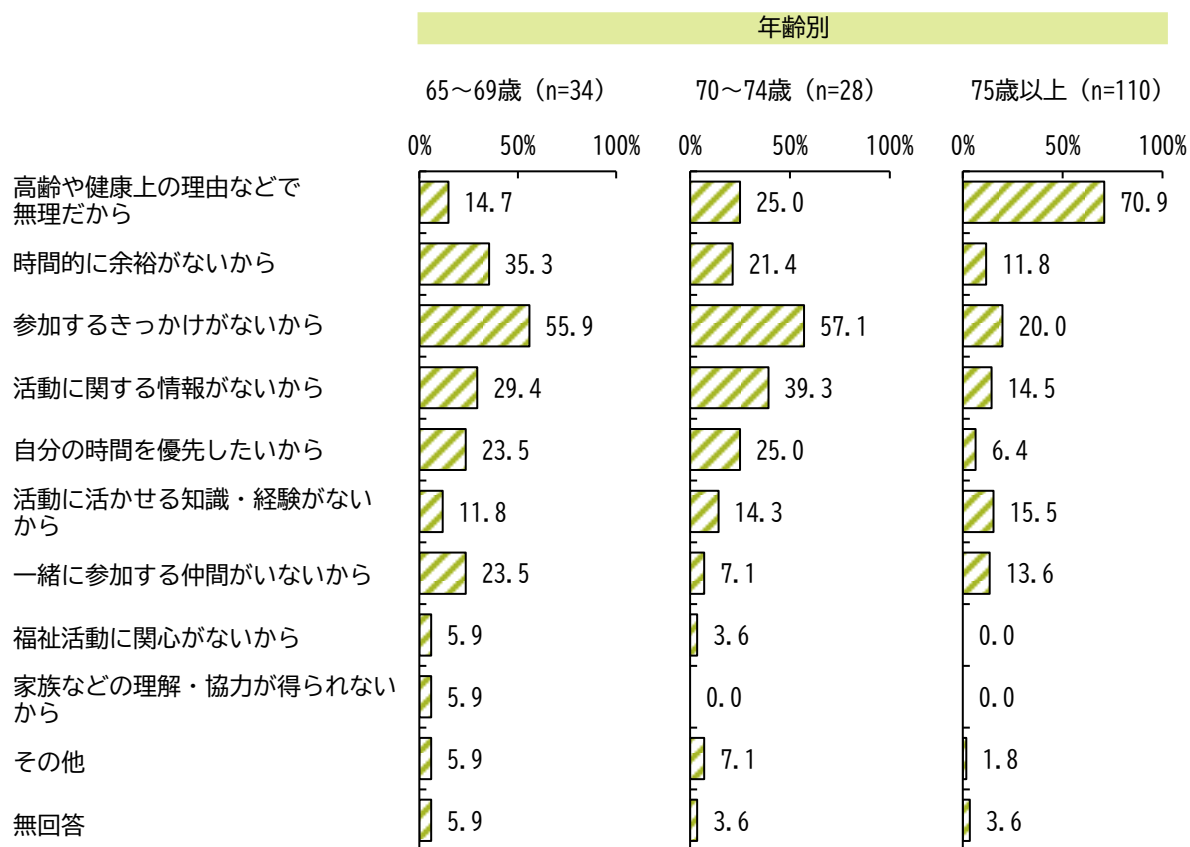
活動に参加した理由では、「地域に貢献したいから」が45.5%と最も多く、次いで「もともと関心があったから」が25.8%、「やりがいを感じたから」が18.2%などとなっています。

(5) 活動に参加していない理由

※問22で「2. 参加していない」と答えた方におたずねします。

問22-4 参加していないのはなぜですか。(〇はいくつでも)





活動に参加していない理由では、「高齢や健康上の理由などで無理だから」が35.2%と最も多く、次いで「時間的に余裕がないから」が34.8%、「参加するきっかけがないから」が31.4%などとなっています。

性別でみると、“男性”は「時間的に余裕がないから」が34.1%と最も多くなっています。

年齢別でみると、“49歳以下”、“50～59歳”、“60～64歳”は「時間的に余裕がないから」が最も多くなっています。“65～69歳”、“70～74歳”は「参加するきっかけがないから」が最も多くなっています。

(6) 参加したい地域活動やボランティア活動

問23 今後、どのような福祉に関わる地域活動やボランティア活動などに参加したいかを自由にご記入ください。

自由意見	性別	年齢
特にない。	男性	49歳以下
仕事の中で、高齢者と接しているので、特にありません。	男性	49歳以下
災害時の支援活動。	男性	49歳以下
特になし。	男性	49歳以下
学習支援。	男性	49歳以下
まずはどのような地域活動やボランティア活動があり、何が足りないのかを周知するところから始めないと、何ができるのか分からない。	男性	49歳以下
障がい者への支援や高齢者への支援で手が必要な時。	男性	49歳以下
自身の周囲の災害復興程度。助け合いなら良いが一方向的に助ける気はない。	男性	49歳以下
特になし。	男性	49歳以下
ボランティアは出来ませんが、活動費などのための募金をしたいと思っています。	男性	50～59歳
特になし。	男性	50～59歳
防災や防犯などの生活安全の活動。	男性	50～59歳
思い浮かばない、オレンジマラソンの誘導に参加した事があるが、きっかけがないと参加しようと思えない（運転手から罵声をあびた）。	男性	50～59歳
今はさまざまな活動参加を考えていない。	男性	50～59歳
何があるか不明。	男性	50～59歳
例えば、神社の木の手入や皆さんが利用する場所の整備。	男性	50～59歳
選択肢が分からないため不明。	男性	50～59歳
介護を受ける側になったときのために、役立つような活動に参加したい。	男性	50～59歳
リサイクルなどの環境活動。	男性	60～64歳
体調が回復するまで、何も考えられない。	男性	60～64歳
災害時のボランティア。	男性	60～64歳
障害者の支援。	男性	60～64歳
できることをできる範囲でできるだけ。	男性	60～64歳
特にない。	男性	60～64歳
話し相手になってくれる人。	男性	65～69歳
清掃活動。	男性	65～69歳
参加したいと思いますが体力的に無理だと思っています。	男性	65～69歳
災害などの活動。	男性	65～69歳
参加したいが身体が不自由。	男性	65～69歳

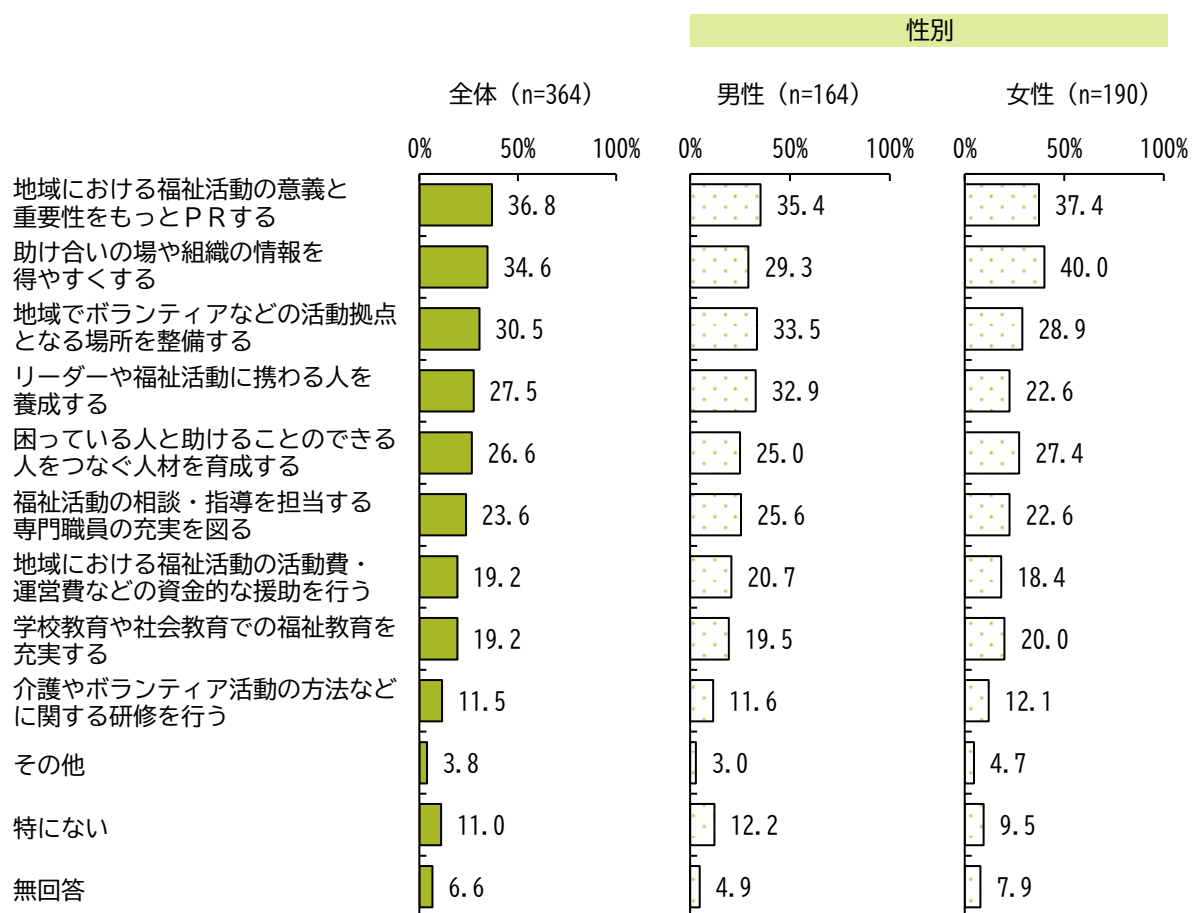
自由意見	性別	年齢
以前、ボランティア活動をしていたのでリタイア後に考える。	男性	65～69歳
買い物の送迎など。	男性	65～69歳
一人暮らしの老人の見守り。	男性	70～74歳
周辺地域の環境整備や清掃、及び防犯活動。	男性	70～74歳
問22-4の回答で答えた理由で、地域活動には参加可能なのか計りかねている。	男性	70～74歳
簡単な清掃くらい。	男性	70～74歳
今のままで良い。	男性	70～74歳
現在契約仕事をしているので日曜日で出来る事。	男性	70～74歳
特に思いあたらない。	男性	70～74歳
健康上の問題で参加できません。	男性	70～74歳
地域の清掃活動。	男性	75歳以上
参加は難しいです。	男性	75歳以上
特にない。	男性	75歳以上
参加したくない。	男性	75歳以上
年齢的に無理。	男性	75歳以上
特にない。	男性	75歳以上
特になし。	男性	75歳以上
神奈川県で高齢化率がもっとも高い地域の住民として行政のできることには限界が有ると感じる。住民主導（互助）の活動支援に行政は力を貸すような取り組み。	男性	75歳以上
家族の介護におわれ参加する余裕がない。	男性	75歳以上
元気な体の間は、今までどおりの活動を続けていきたい。	男性	75歳以上
高齢の為活動はムリ。	男性	75歳以上
体力に合わせ、自分の好きな時に住んでいる地域の範囲で行動したい。	男性	75歳以上
健康づくりの活動。	男性	75歳以上
元気でいられる体作り。	男性	75歳以上
時間やお金に余裕がないとなかなかむずかしい。	女性	49歳以下
近所の高齢者の傾聴、ゴミ出し（子育て世代も含む）。	女性	49歳以下
幼稚園の仕事をしてみたい。	女性	49歳以下
乳児や幼児などに関わる事。	女性	49歳以下
災害時に協力出来たらとは思っています。	女性	49歳以下
具体的に考えていない。	女性	50～59歳
近所は一人暮らしの高齢者が多いです。一生懸命生活するための食料買い出しゴミ出し等やっておられるので見かければ手をかす、ということを日頃やっています。それを続けていきます。	女性	50～59歳
手話教室等（講義）。	女性	50～59歳

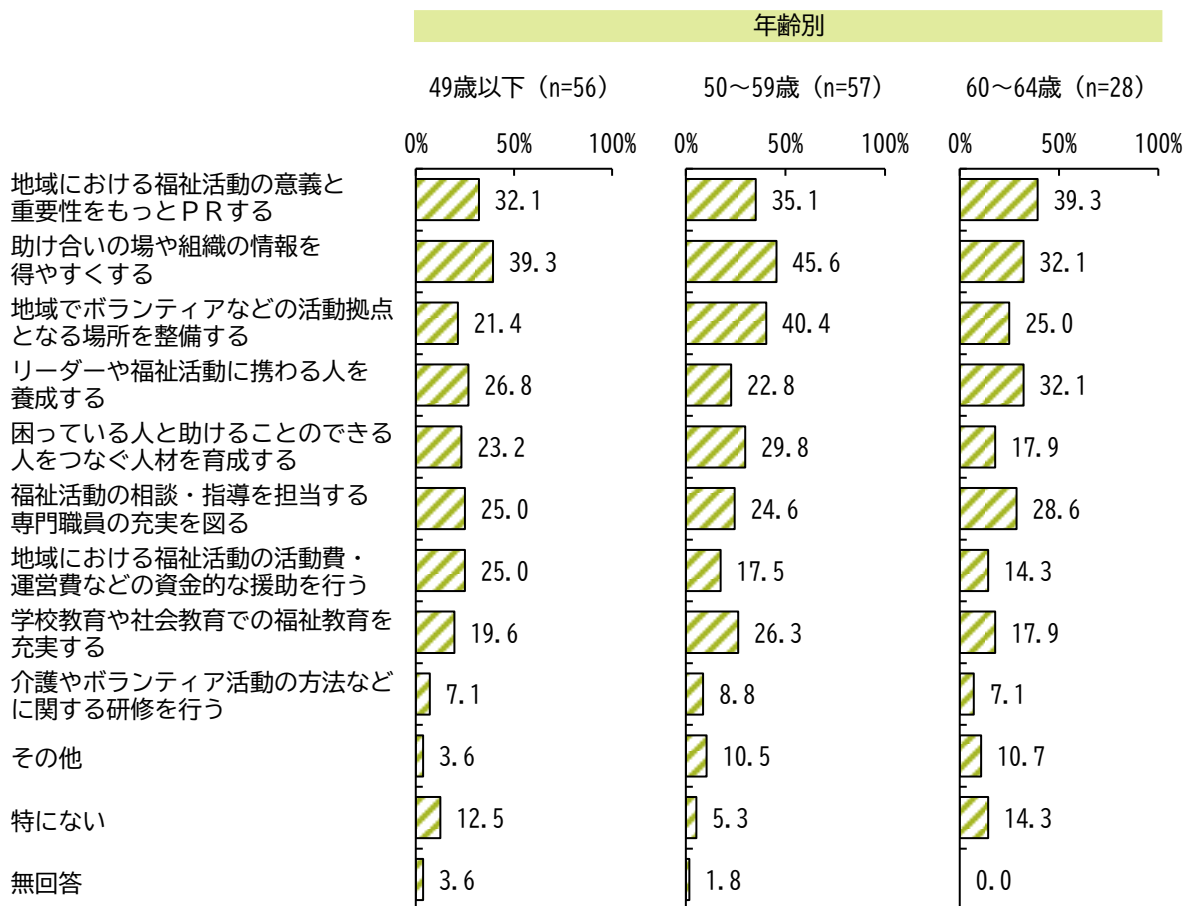
自由意見	性別	年齢
時間ができたら傾聴ボランティアに参加してみたいです。	女性	50～59歳
みんな生きていくのに精一杯なので余裕が出来る様に賃金アップや税金の減額を先にやるべき。	女性	50～59歳
スポーツや子育て支援等。	女性	50～59歳
家族との時間を優先しているので、今のところは何も考えていない。	女性	50～59歳
ゴミ捨てに関係した回収など。	女性	50～59歳
ごみひろい。	女性	50～59歳
どのような活動があるのか知らないので答えようがない。	女性	50～59歳
問17の回答。	女性	50～59歳
子育てを支援する活動や海岸、公園、道路のゴミ拾い等の環境美化活動。	女性	50～59歳
家族に障害者がいる為、時間的に余裕がない。	女性	50～59歳
交流会などに参加しお話をしてみたい。	女性	50～59歳
障害者（児）の避難訓練。	女性	50～59歳
猫が好きなので、猫に関する事。	女性	50～59歳
絵本読み聞かせ。登下校見守り、声かけ。	女性	60～64歳
自分にできる範囲の奉仕活動を自分なりに行おうと思っています。会に参加するだけでなく、一人一人が考えて行動すればいいと思っています。	女性	60～64歳
軽作業なら、参加できるかもしれない。	女性	60～64歳
高齢者、子供の見守り、空き家の管理など。	女性	60～64歳
仕事をしているので時間がない。近所の方の手伝いはしたいと思っている。	女性	65～69歳
保育園や小学校の読みきかせボランティアに参加したいが、そこまで行く移動手段がないのでそこが解決できれば参加したい。	女性	65～69歳
前に長い事ボランティアに参加していたが、今は体力的に自信がないのでゆっくり暮したい。	女性	65～69歳
ひとりぐらしの高齢者を支える活動。	女性	65～69歳
やっと時間もでき何か町の人役にすることがあればと思っています。	女性	70～74歳
今までの経験ややりがいを感じられる活動。高齢者は様々な知識をおもちです。	女性	70～74歳
どの様な活動をしているかわからないので回答出来ません。	女性	70～74歳
障がいを持っている人の手伝い。電球のとりかえや買い物。	女性	70～74歳
認知症にならない為の知識を得る。高齢者の増える現在、健康で過ごす為に、人と話す場所。筋力をつける事で健康でいられる。湯河原は公園に運動器具があっても利用していない。	女性	70～74歳
健康寿命に関する取組。	女性	70～74歳
高齢に付きなし。	女性	75歳以上
時間の余裕が出来、一人きりになった時に地域の人と活動をしていきたいと思っている。	女性	75歳以上
聴かれたら元看護師の経験上少しだけのアドバイス。	女性	75歳以上
自分が住んでいる地域がお互いに顔が見え、心のかよい合う、楽しい自治会となるよう区会に加入したり、区会の行事に進んで参加したい。	女性	75歳以上

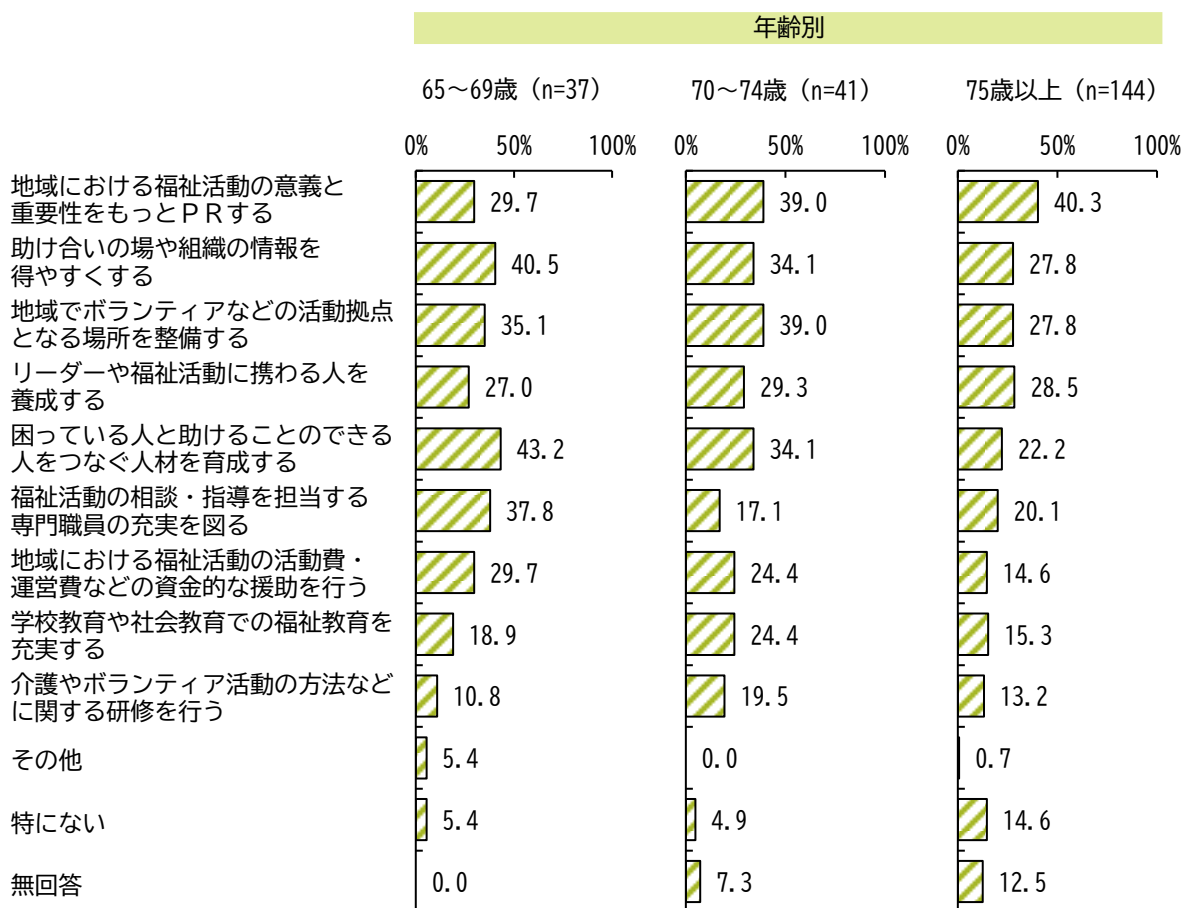
自由意見	性別	年齢
なし。	女性	75歳以上
身体、精神の不自由な方に対する傾聴ボランティア、activity活動。	女性	75歳以上
近所の清掃ぐらい（足が悪いので遠くへは行けないから）。	女性	75歳以上
参加できません。	女性	75歳以上
現在76才ですが、健康です。もっと高齢の方でちょっとした事をお手伝い出来ればと思います。	女性	75歳以上
特にはない。	女性	75歳以上
高齢であると共に持病（ガン）がある為おのずと参加は無理。	女性	75歳以上
高齢者の福祉サービスなどについて。声かけして見る事。	女性	75歳以上
老人施設にて、心にうるおいを持ってもらう様自分がやれる事楽しみを歩けない人に、笑いを届けてあげたい。	女性	75歳以上
高齢、障害者の為参加が出来ない。	女性	75歳以上
特になし。	女性	75歳以上
道路の清掃。	女性	75歳以上
今は特にわかりません。	女性	75歳以上
自営業ですと、お店の事で余裕がない。	女性	75歳以上
どのような活動が自分に合っているのかそれがわかりません。	女性	75歳以上
組合活動については参加したいと思うが、現在の組合の状況が把握できていない。	無回答	50～59歳
過去の仕事に関する事項ならば参加したい。	無回答	75歳以上

(7) 地域における支え合い、助け合い活動を活発化するために重要だと思うこと

問24 今後、地域における支え合い、助け合い活動を活発化することが重要になってきます。そのためには、どのようなことが重要だと思いますか。(〇はいくつでも)







地域における支え合い、助け合い活動を活発化するために重要だと思うことでは、「地域における福祉活動の意義と重要性をもっとPRする」が36.8%と最も多く、次いで「助け合いの場や組織の情報を得やすくする」が34.6%、「地域でボランティアなどの活動拠点となる場所を整備する」が30.5%などとなっています。

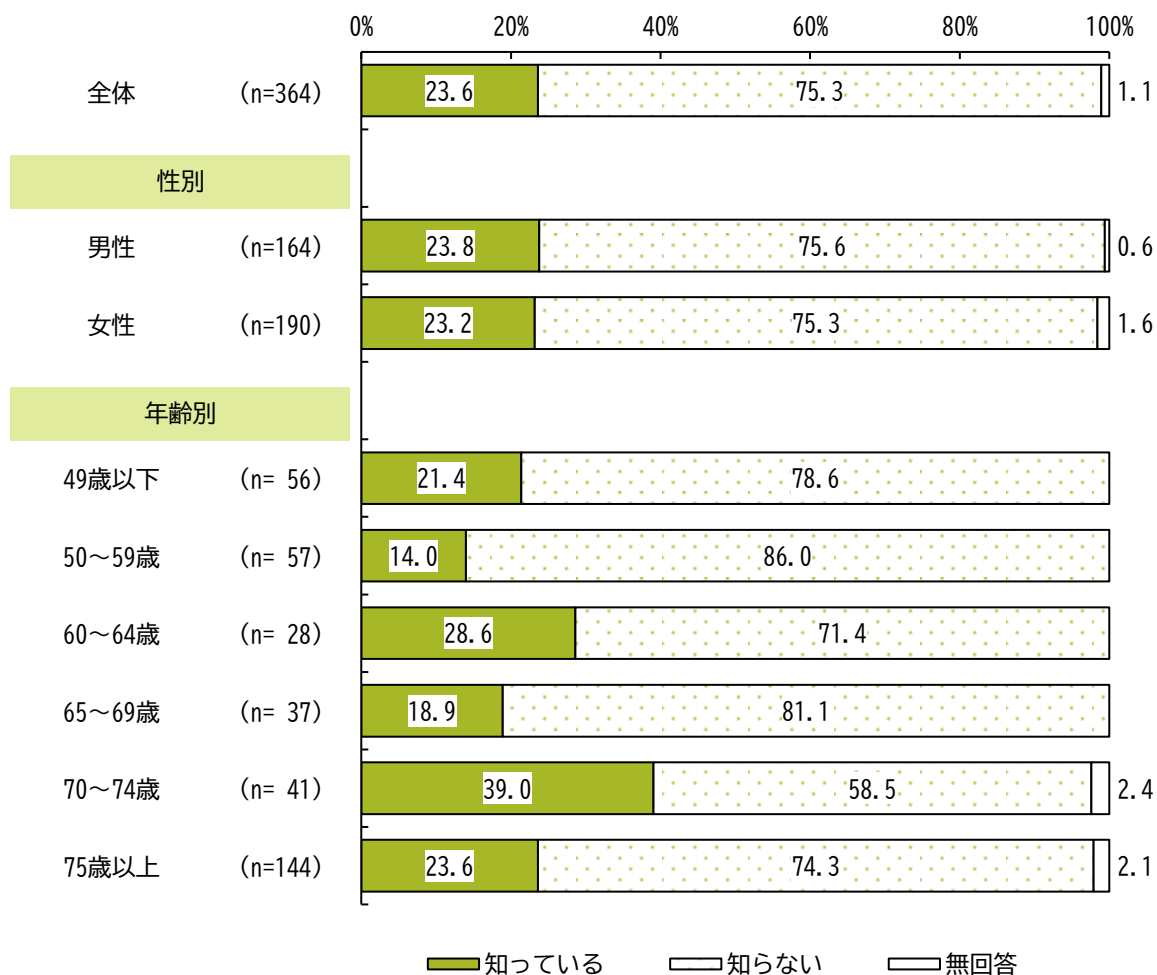
性別でみると、“女性”は「助け合いの場や組織の情報を得やすくする」が40.0%と最も多くなっています。

年齢別でみると、“49歳以下”、“50～59歳”は「助け合いの場や組織の情報を得やすくする」が最も多くなっています。“65～69歳”は「困っている人と助けることのできる人をつなぐ人材を育成する」が43.2%と最も多くなっています。

9 民生委員・児童委員の活動について

(1) 地域の「民生委員・児童委員」の認知

問25 あなたは、あなたの地域の「民生委員・児童委員」がどなたかご存じですか。
(○は1つだけ)



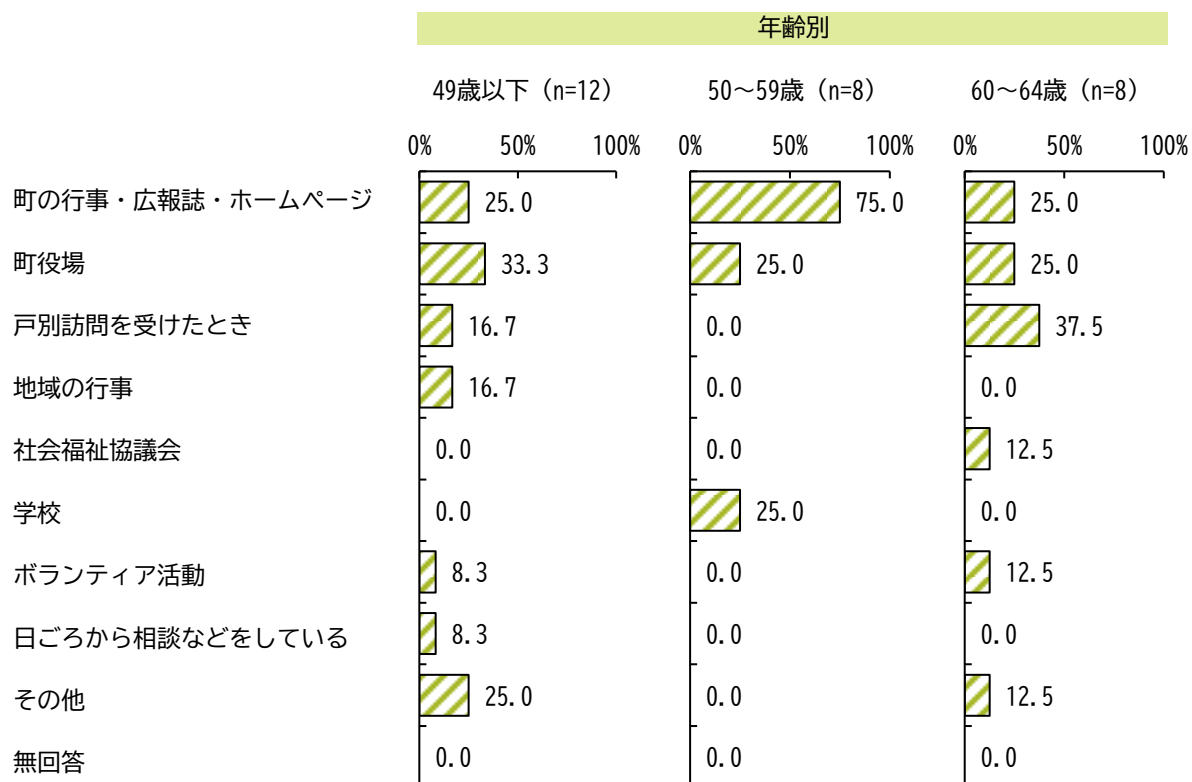
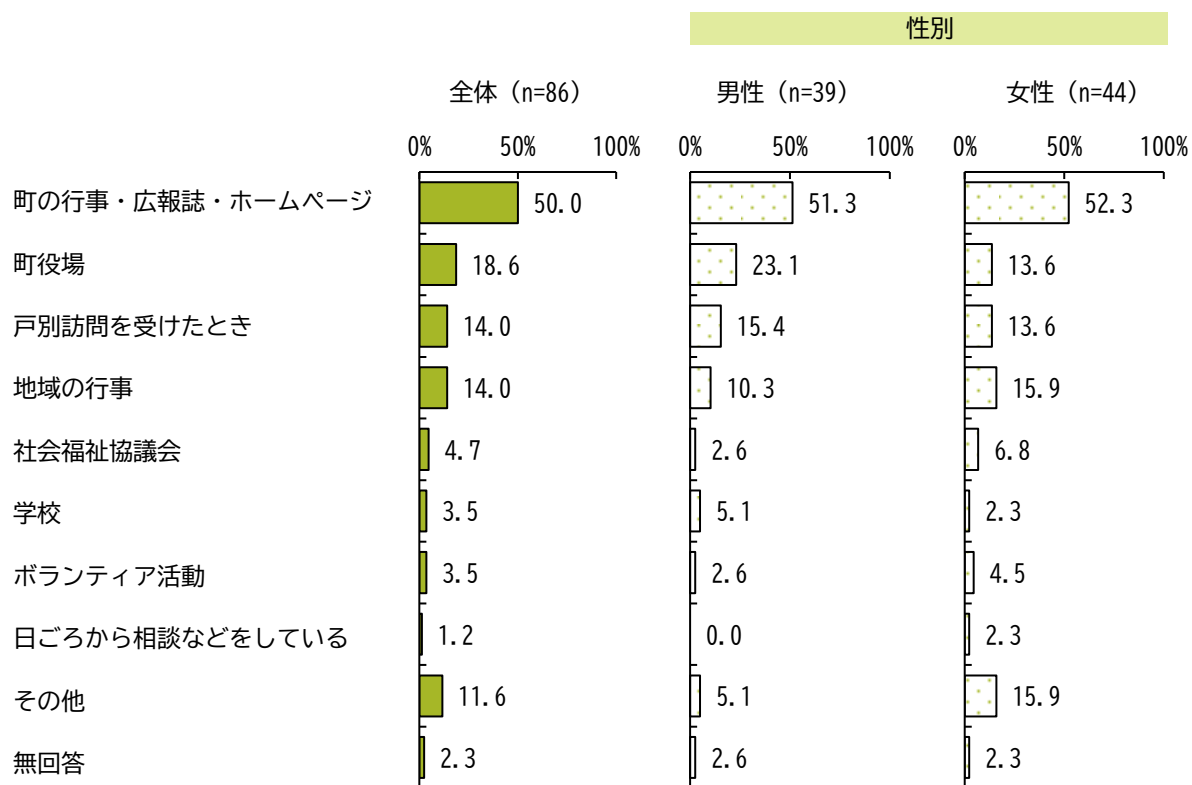
地域の「民生委員・児童委員」の認知では、「知っている」が23.6%、「知らない」が75.3%となっています。

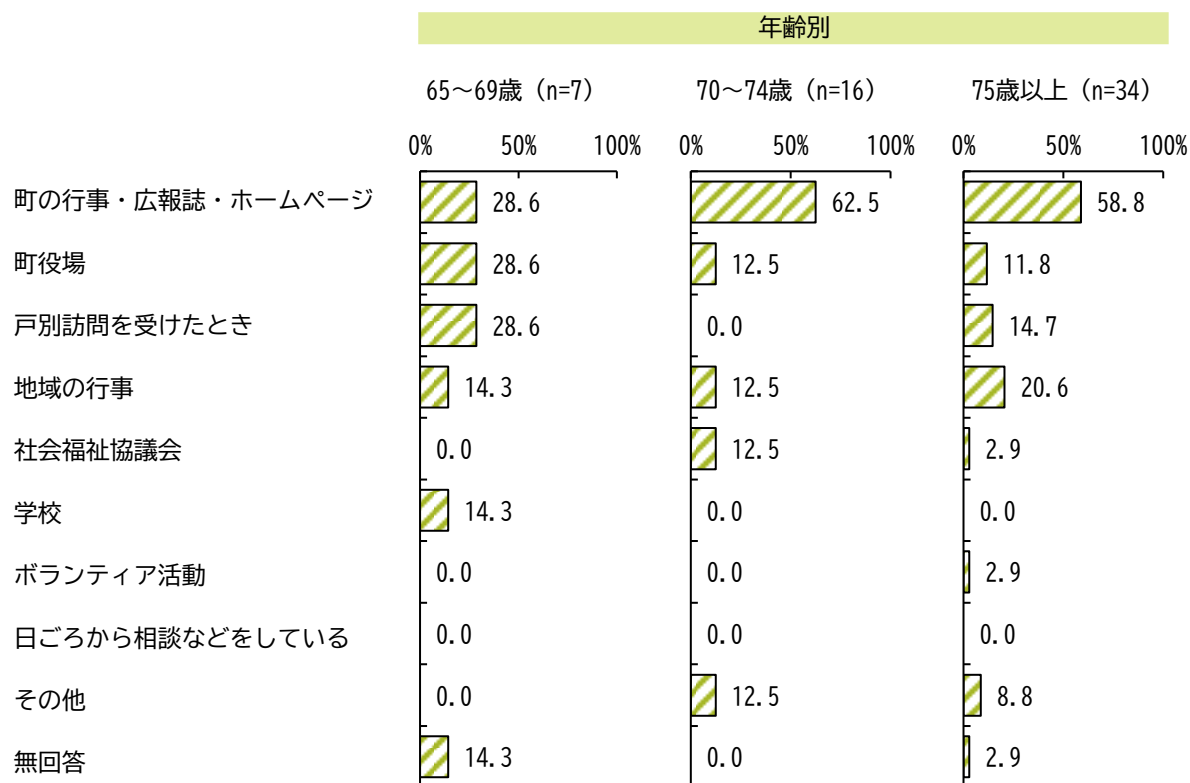
(2)「民生委員・児童委員」を知った方法

※問25で「1. 知っている」と答えた方におたずねします。

問25-1 あなたは地域の「民生委員・児童委員」をどこで知りましたか。

(○はいくつでも)



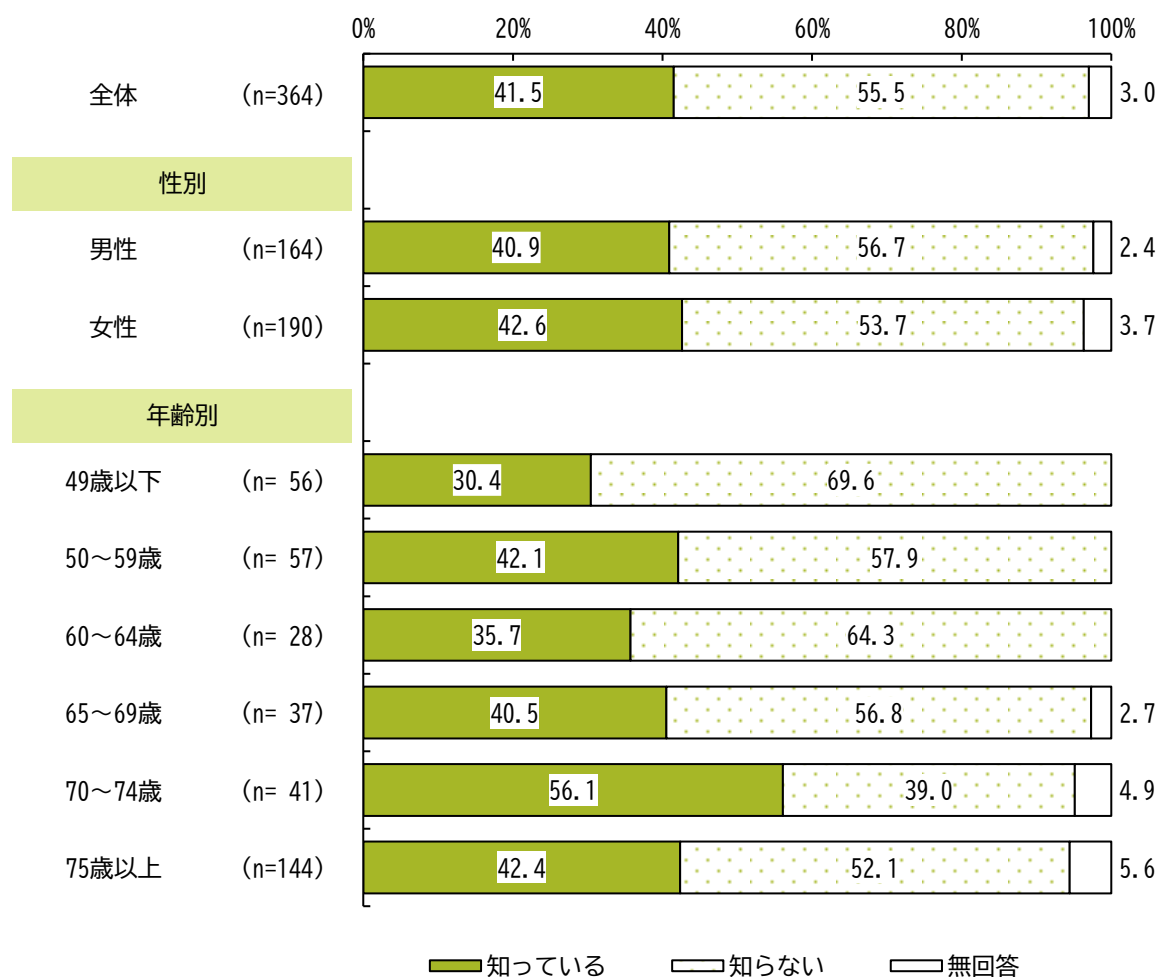


「民生委員・児童委員」を知った方法では、「町の行事・広報誌・ホームページ」が50.0%と最も多く、次いで「町役場」が18.6%、「戸別訪問を受けたとき」と「地域の行事」が14.0%などとなっています。

年齢別でみると、“49歳以下”は「町役場」が33.3%と最も多くなっています。

(3)「民生委員・児童委員」の活動内容の認知

問26 あなたは、「民生委員・児童委員」の活動内容をご存じですか。(○は1つだけ)



「民生委員・児童委員」の活動内容の認知では、「知っている」が41.5%、「知らない」が55.5%となっています。

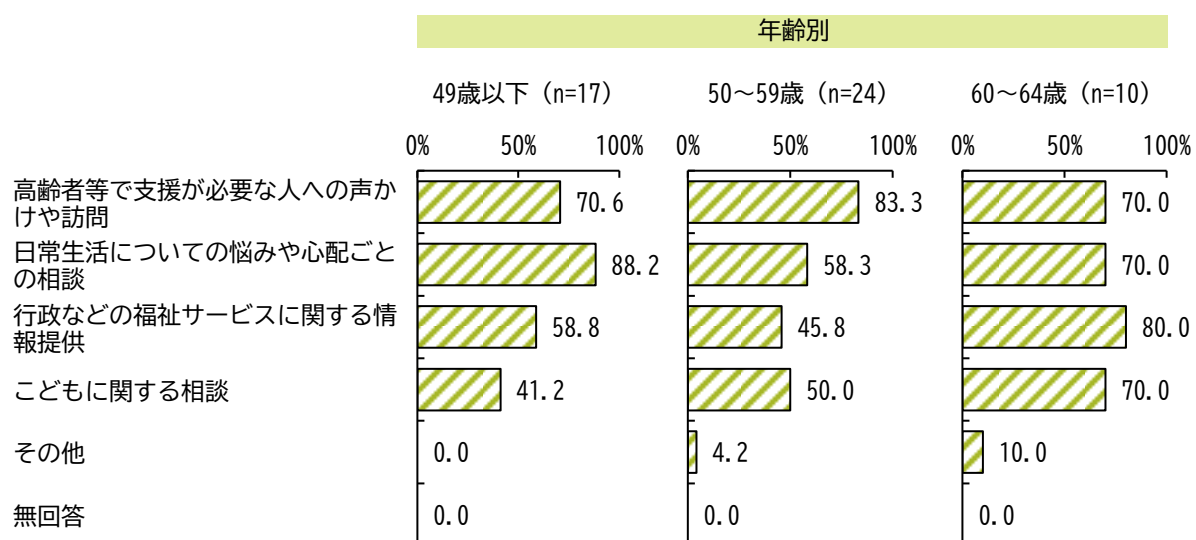
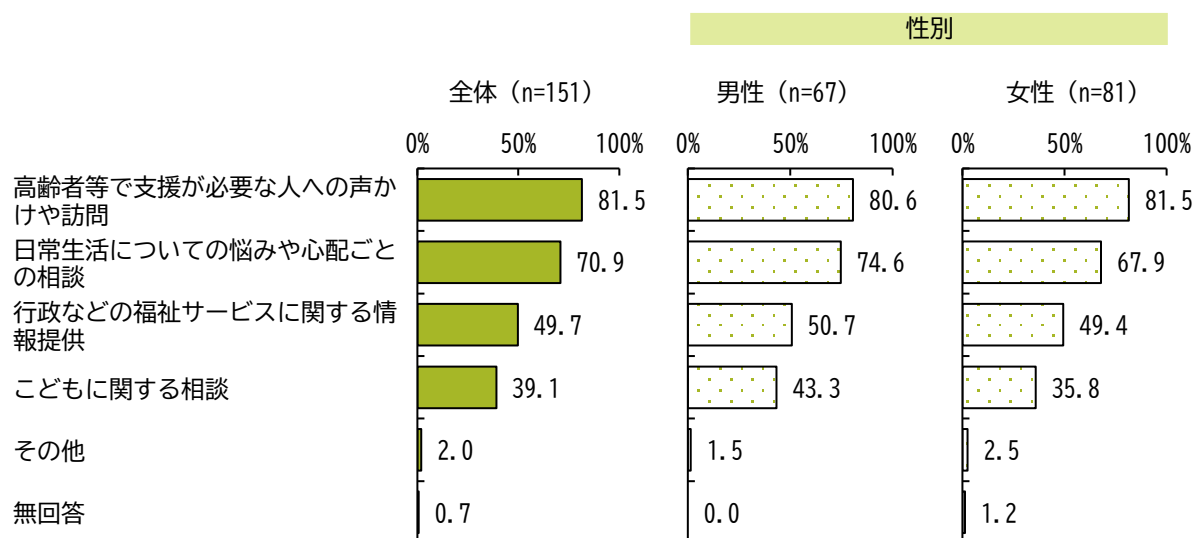
年齢別でみると、“70～74歳”は「知っている」のほうが「知らない」よりも多くなっています。

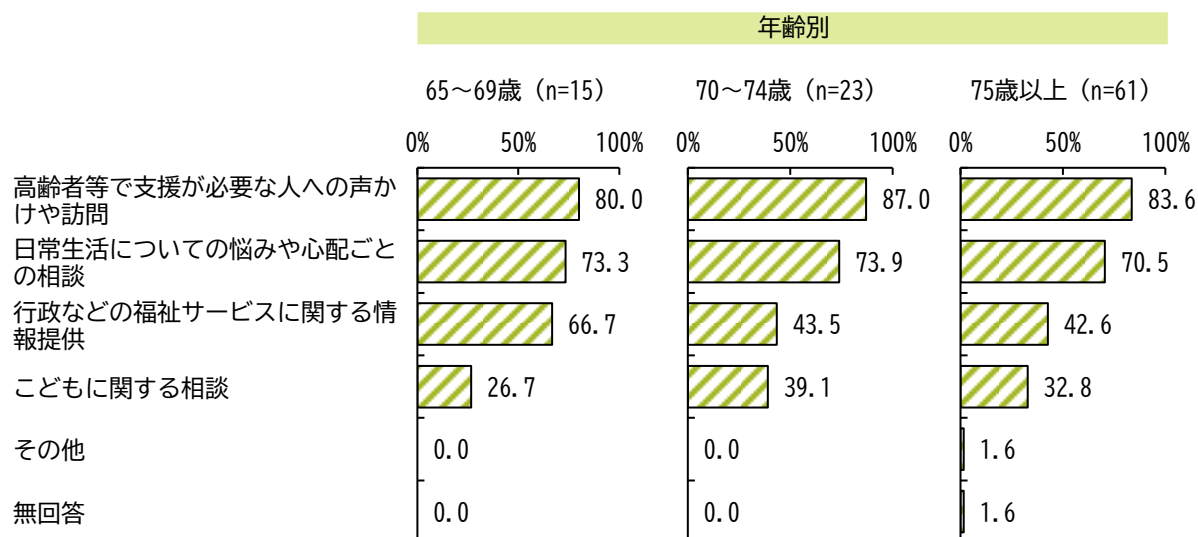
(4) 知っている民生委員・児童委員の活動

※問26で「1. 知っている」と答えた方におたずねします。

問26-1 あなたが知っている地域福祉に関する民生委員・児童委員の活動はどれですか。

(○はいくつでも)





知っている民生委員・児童委員の活動では、「高齢者等で支援が必要な人への声かけや訪問」が81.5%と最も多く、次いで「日常生活についての悩みや心配ごとの相談」が70.9%、「行政などの福祉サービスに関する情報提供」が49.7%などとなっています。

年齢別でみると、“49歳以下”は「日常生活についての悩みや心配ごとの相談」が88.2%と最も多くなっています。“60～64歳”は「行政などの福祉サービスに関する情報提供」が80.0%と最も多くなっています。

10 地域における災害時の対策について

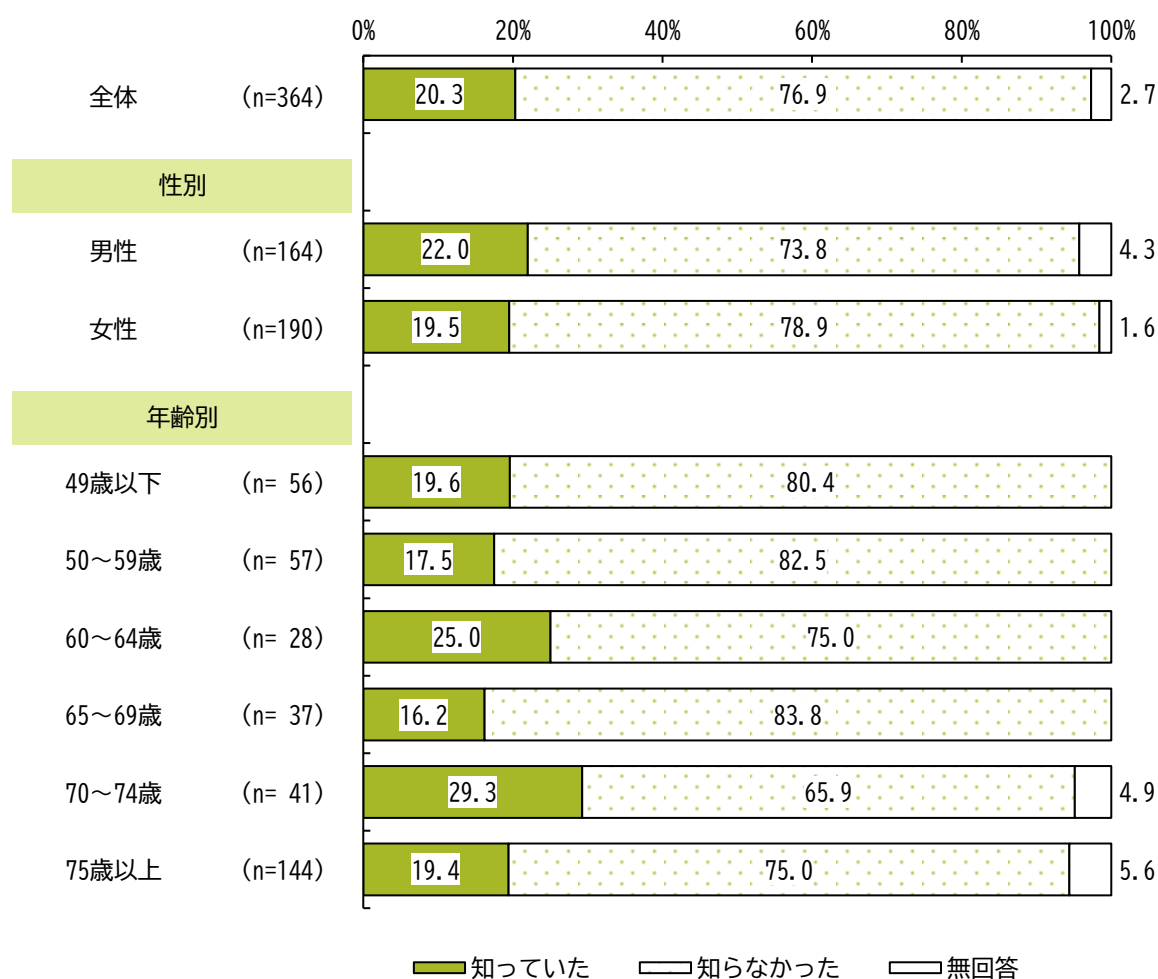
(1) 「要配慮者」に対する支援制度の認知

※ 湯河原町では、災害が発生した場合に支援が必要な、ひとり暮らしの高齢者や重度障がい者などの「要配慮者」を対象に、名簿に登録する同意を得た上で「避難行動要支援者名簿」(住所、氏名、性別、生年月日等)を作成しています。

この名簿は、災害に備え、民生委員・児童委員、自主防災会などの地域支援者が共有することで、地域の中で援護が必要な方を支援できるようにしています。

問27 あなたは、上記のような「要配慮者」に対する支援制度をご存じでしたか。

(○は1つだけ)



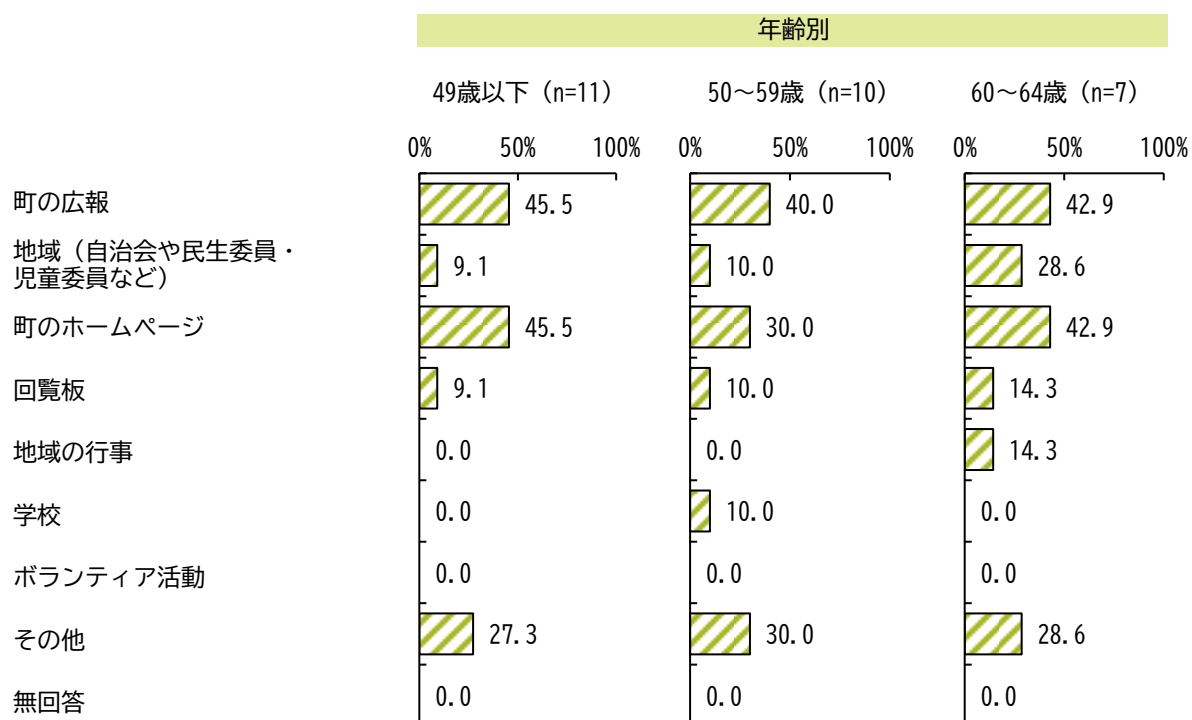
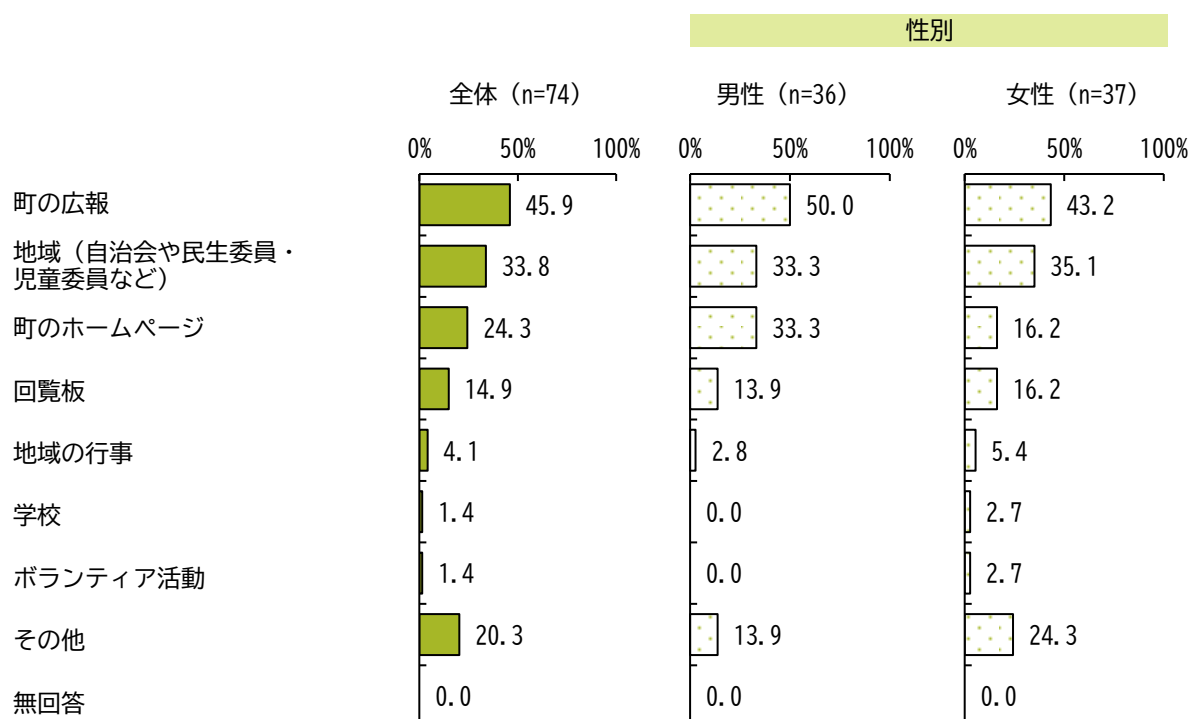
「要配慮者」に対する支援制度の認知では、「知っていた」が20.3%、「知らなかった」が76.9%となっています。

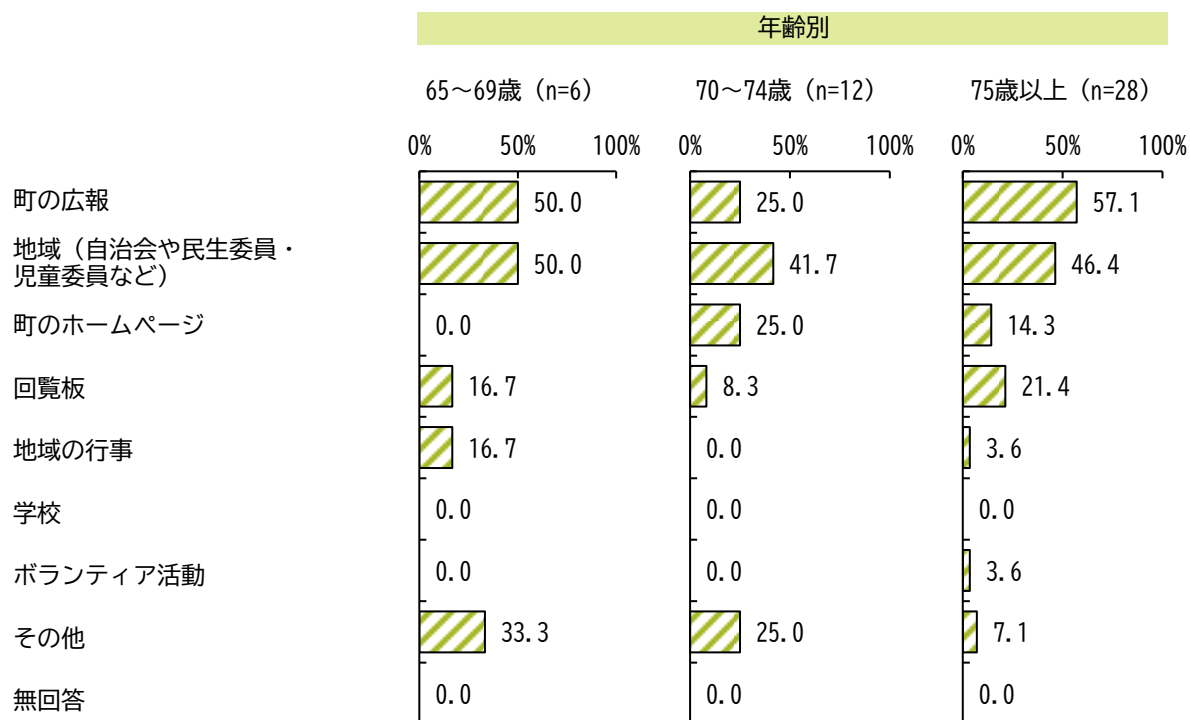
(2)「要配慮者」に対する支援制度を知った方法

※問27で「1. 知っていた」と答えた方におたずねします。

問27-1 あなたは地域の「要配慮者」に対する支援制度をどこで知りましたか。

(○はいくつでも)





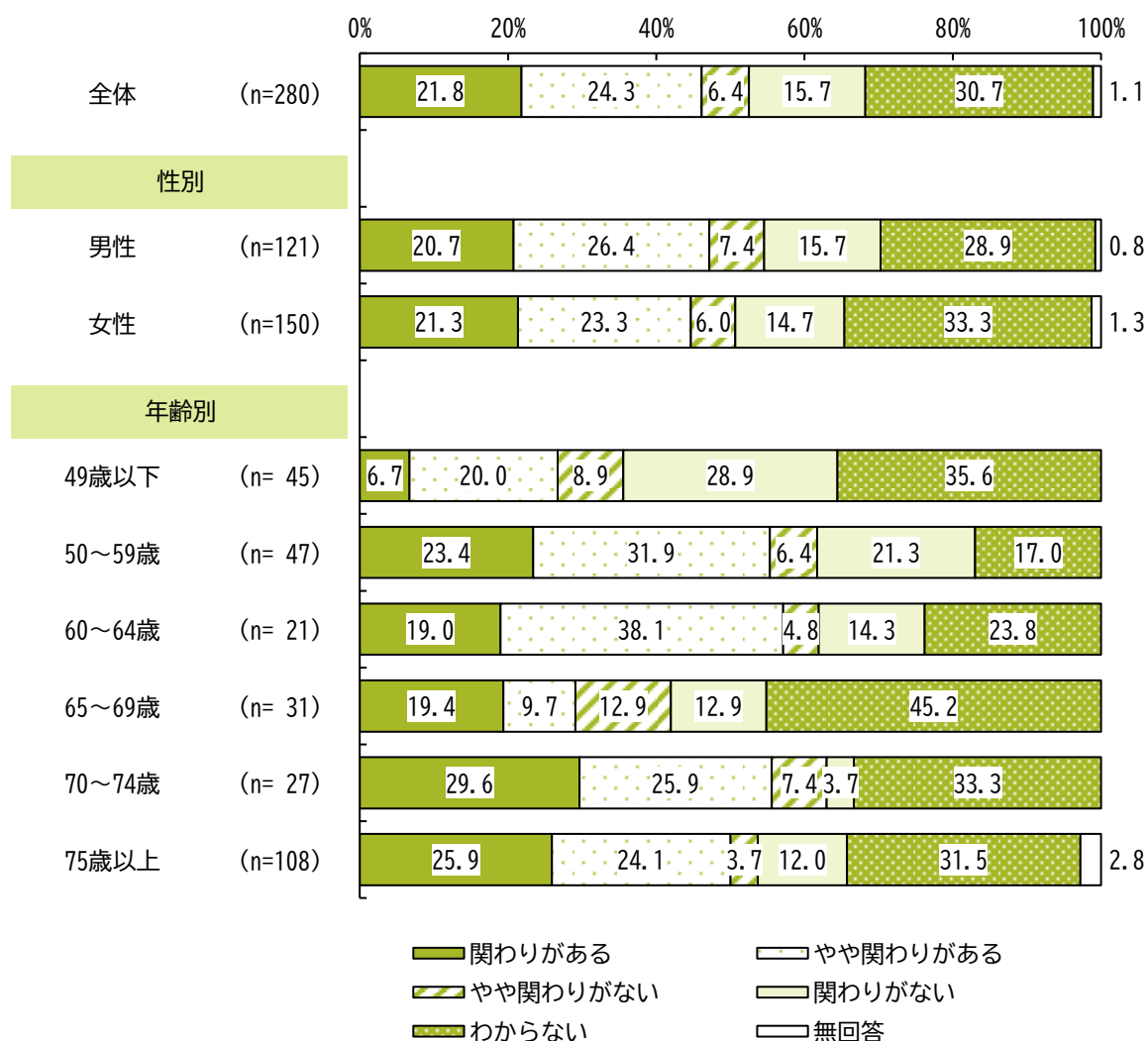
「要配慮者」に対する支援制度を知った方法では、「町の広報」が45.9%と最も多く、次いで「地域（自治会や民生委員・児童委員など）」が33.8%、「町のホームページ」が24.3%などとなっています。

年齢別でみると、“70～74歳”は「地域（自治会や民生委員・児童委員など）」が41.7%と最も多くなっています。

(3)「要配慮者」に対する支援制度の関わり

※問27で「2. 知らなかった」と答えた方におたずねします。

問27-2 あなたは自分自身やあなたの身近な人にとって「要配慮者」に対する支援制度は関わりのあるものだと感じますか。(○は1つだけ)

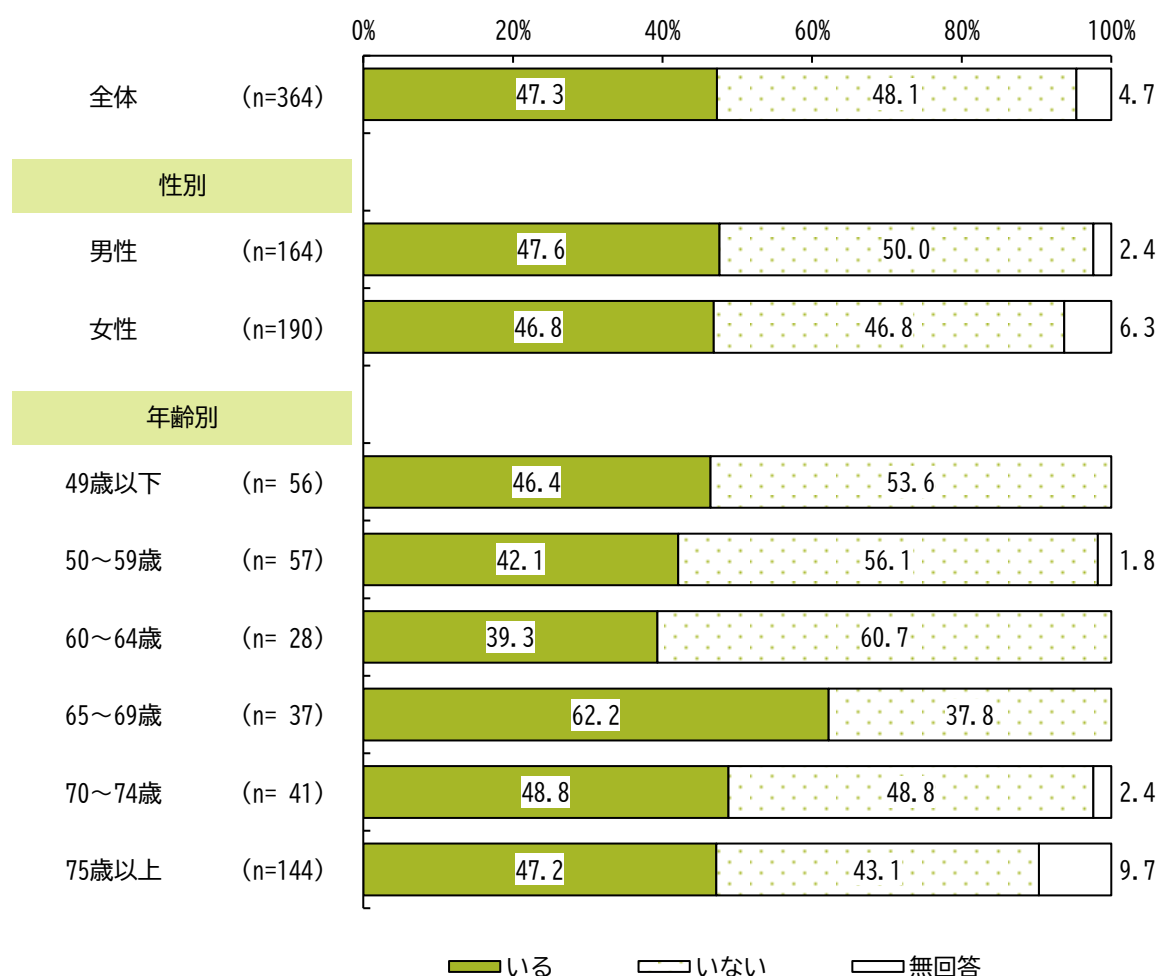


「要配慮者」に対する支援制度の関わりでは、「わからない」が30.7%と最も多く、次いで「やや関わりがある」が24.3%、「関わりがある」が21.8%などとなっています。

年齢別でみると、“50～59歳”、“60～64歳”は「やや関わりがある」が最も多くなっています。

(4) 災害時に同居家族以外に近所で頼れる人の有無

問28 あなたには、災害時に同居家族以外に近所で頼れる人はいますか。(○は1つだけ)

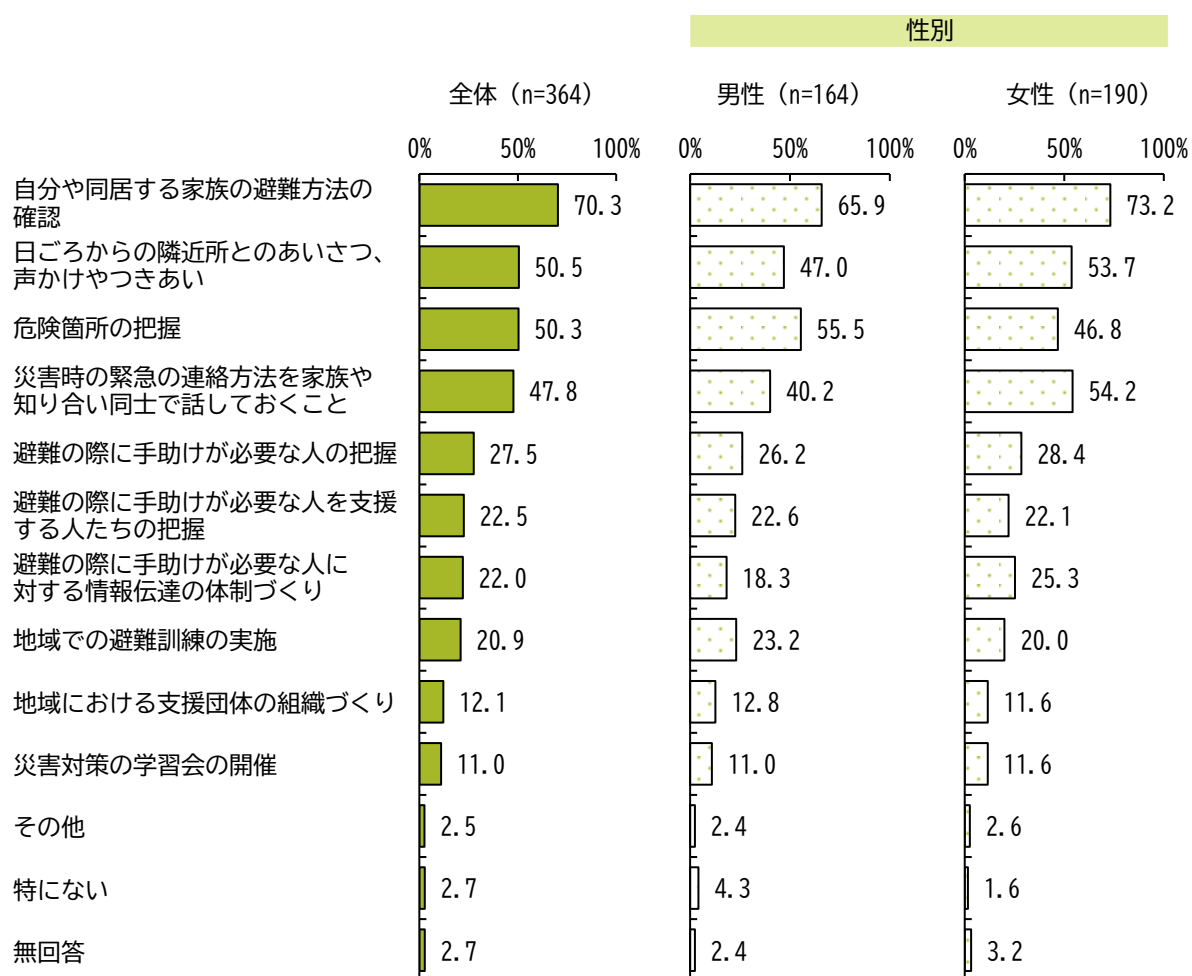


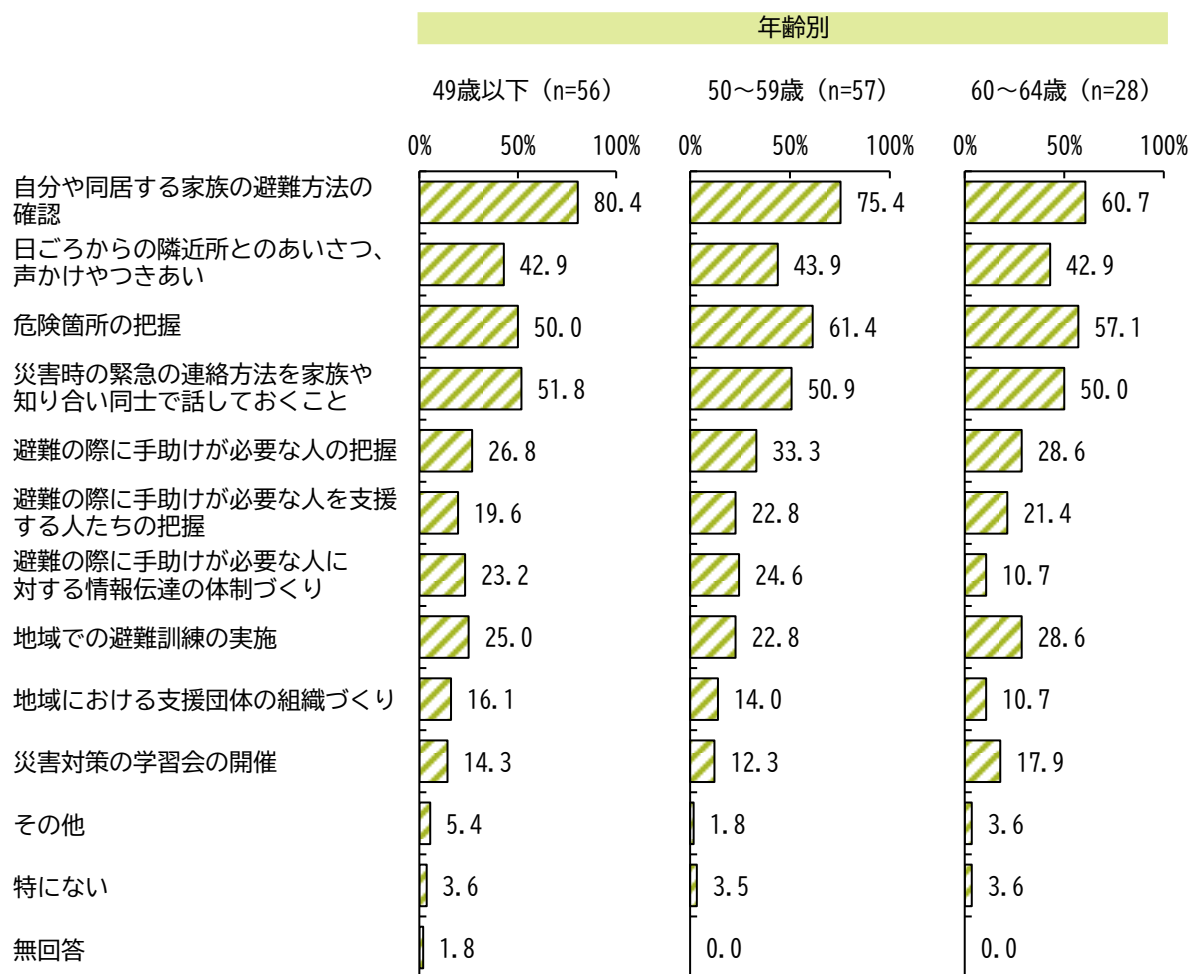
災害時に同居家族以外に近所で頼れる人の有無では、「いる」が47.3%、「いない」が48.1%となっています。

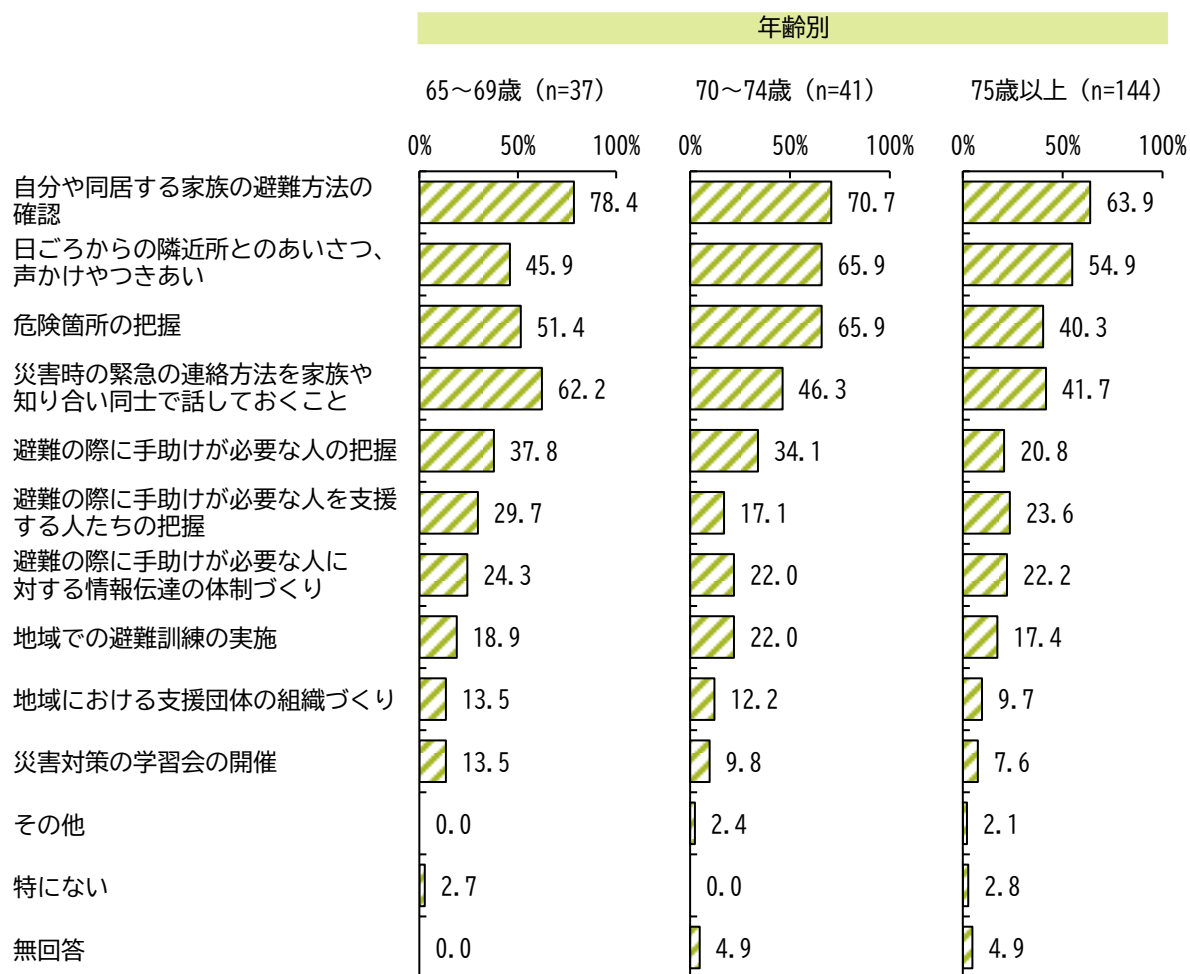
年齢別でみると、“65～69歳”、“75歳以上”は「いる」のほうが「いない」よりも多くなっています。

(5) 災害発生時の備えとして重要だと思うこと

問29 地震や台風などの災害発生時の備えとして、どのようなことが重要だと思いますか。
(〇はいくつでも)





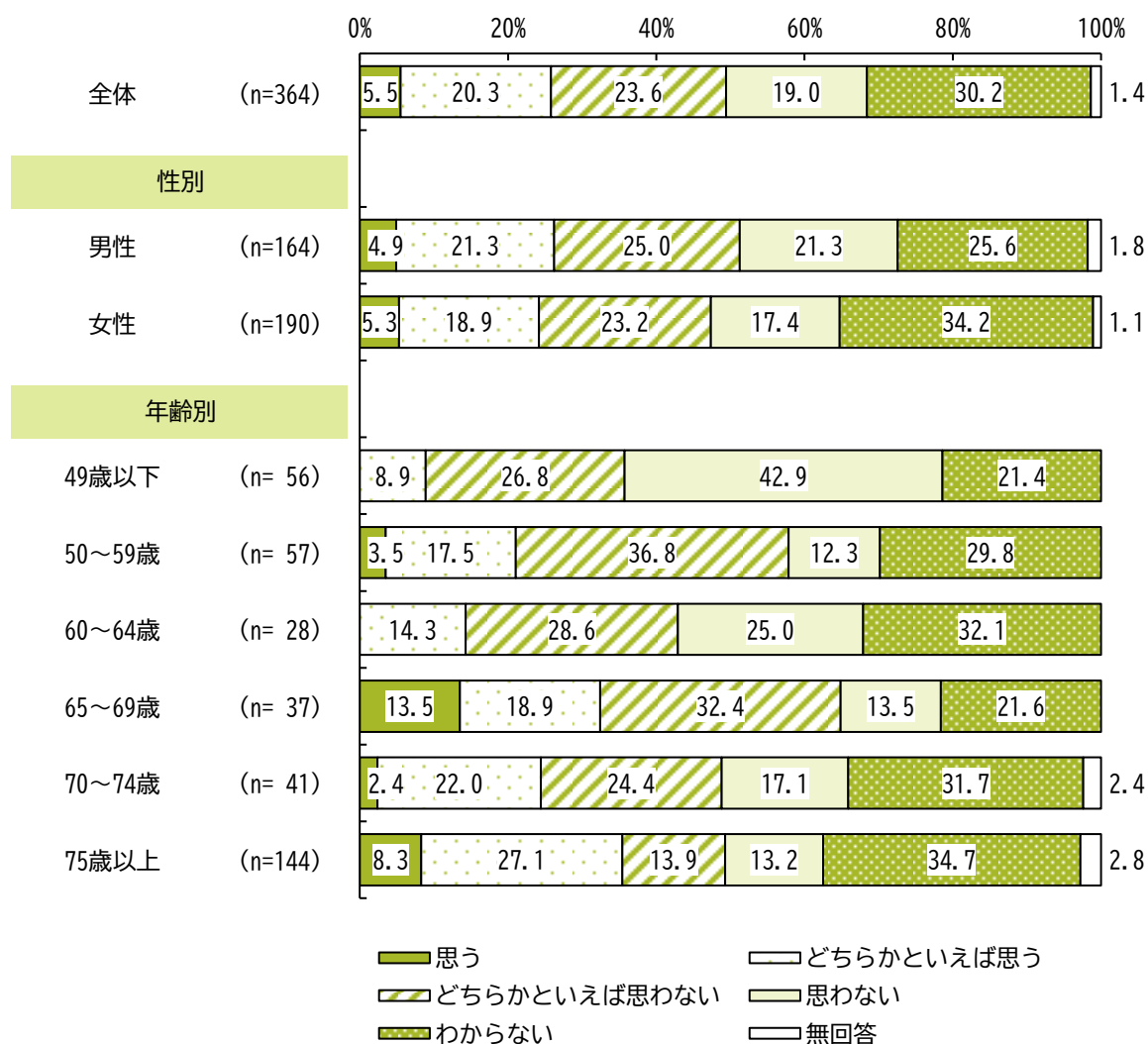


災害発生時の備えとして重要だと思うことでは、「自分や同居する家族の避難方法の確認」が70.3%と最も多く、次いで「日ごろからの隣近所とのあいさつ、声かけやつきあい」が50.5%、「危険箇所の把握」が50.3%などとなっています。

11 再犯防止について

(1) 犯罪をした人の立ち直りへの協力意向

問30 あなたは、犯罪をした人の立ち直りに協力したいと思いますか。(○は1つだけ)



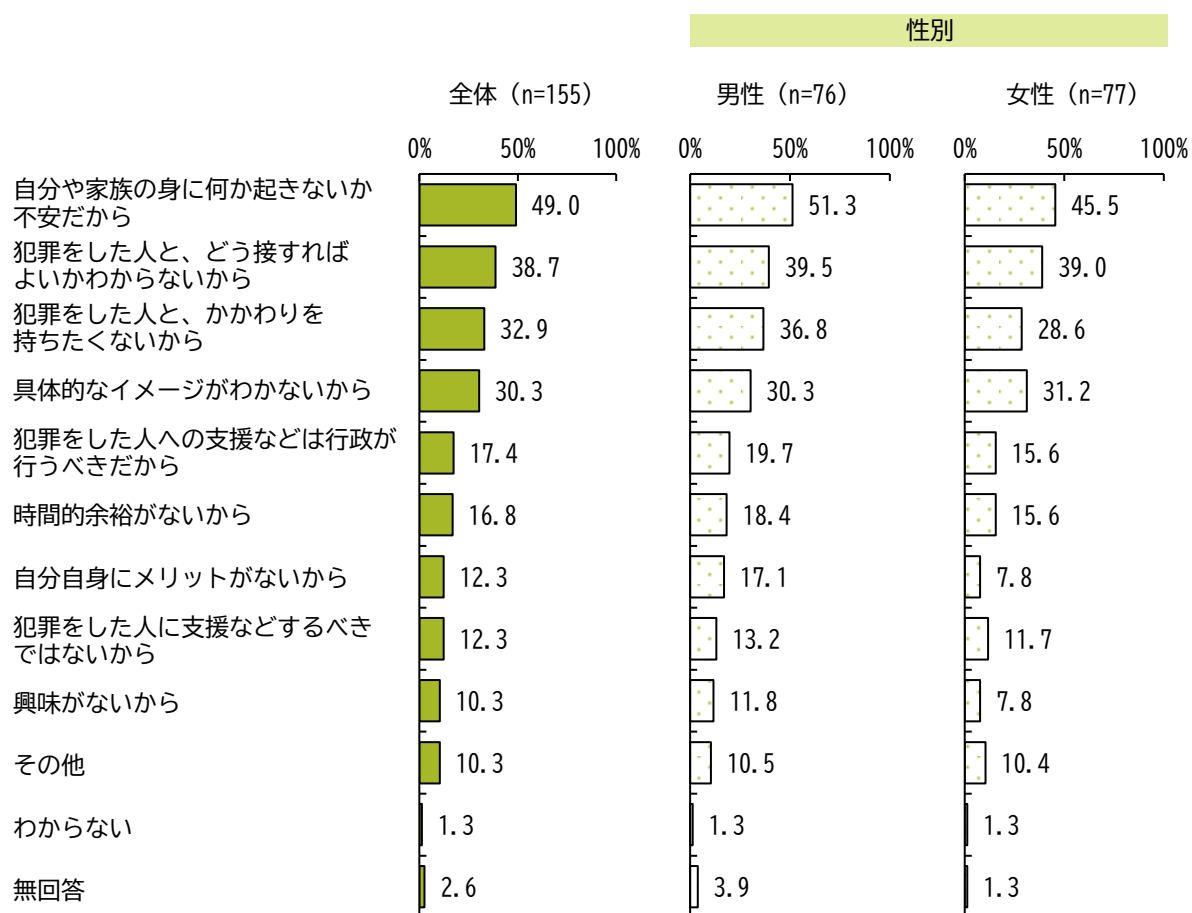
犯罪をした人の立ち直りへの協力意向では、「わからない」が30.2%と最も多く、次いで「どちらかといえば思わない」が23.6%、「どちらかといえば思う」が20.3%などとなっています。

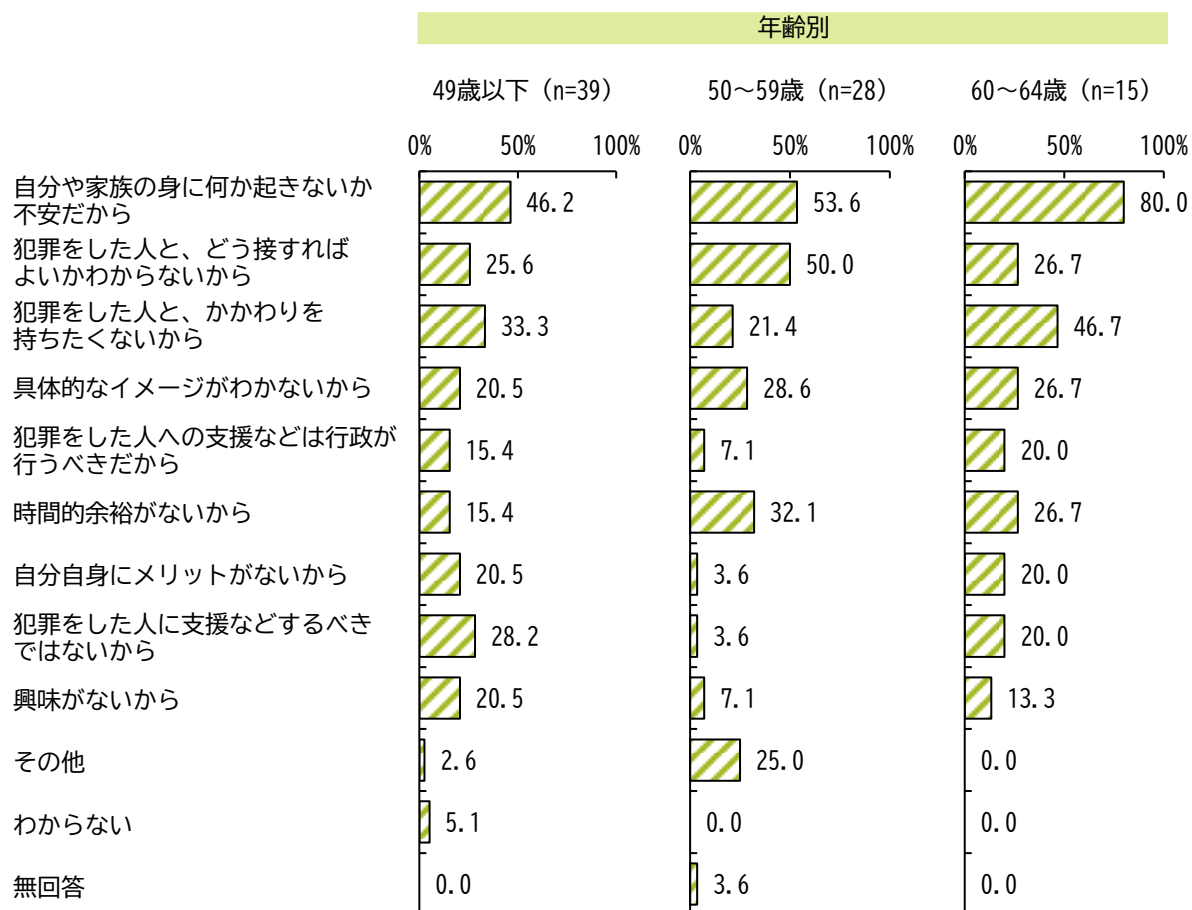
年齢別でみると、“49歳以下”は「思わない」が42.9%と最も多くなっています。“50～59歳”、“65～69歳”は「どちらかといえば思わない」が最も多くなっています。

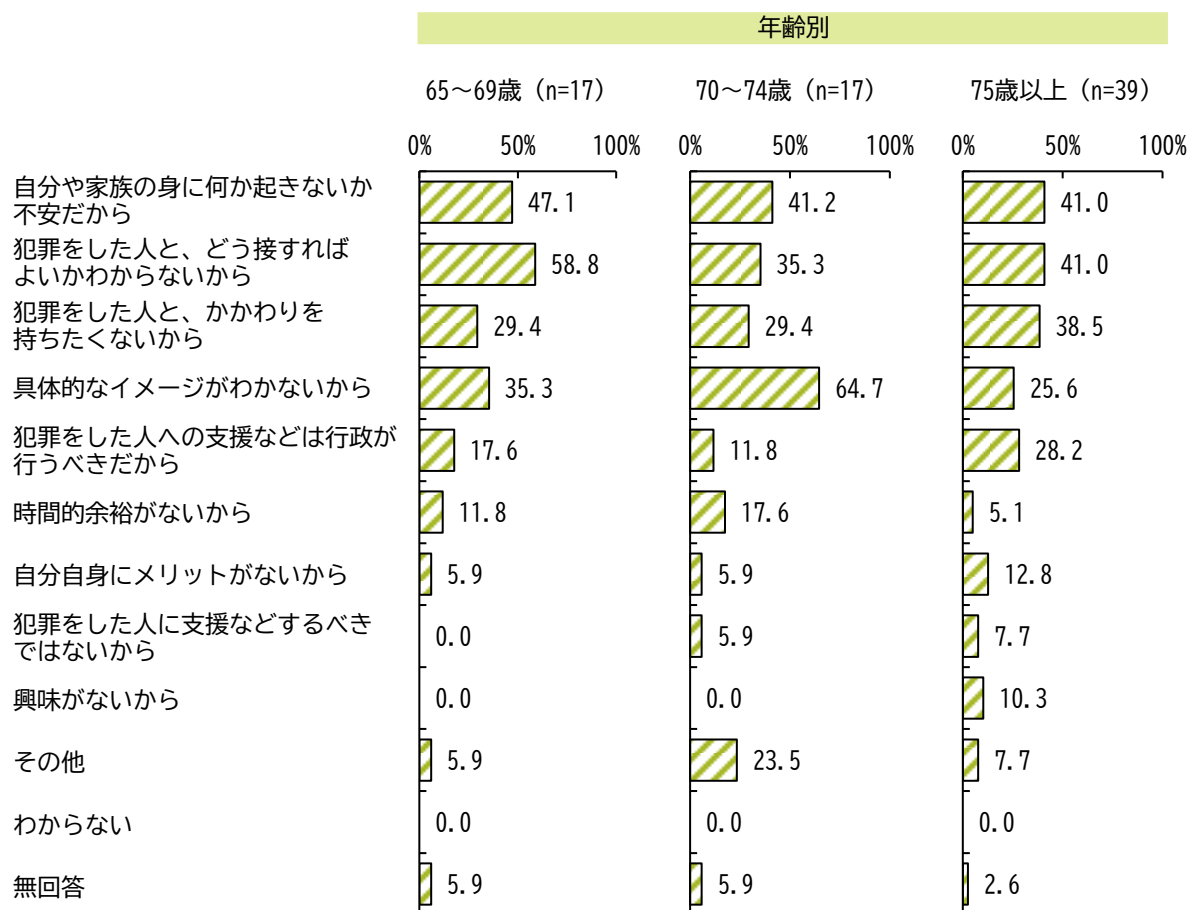
(2) 協力したいと思わない理由

※問30で「3. どちらかといえば思わない」「4. 思わない」と答えた方におたずねします。

問30-1 協力したいと思わない理由を教えてください。(〇はいくつでも)





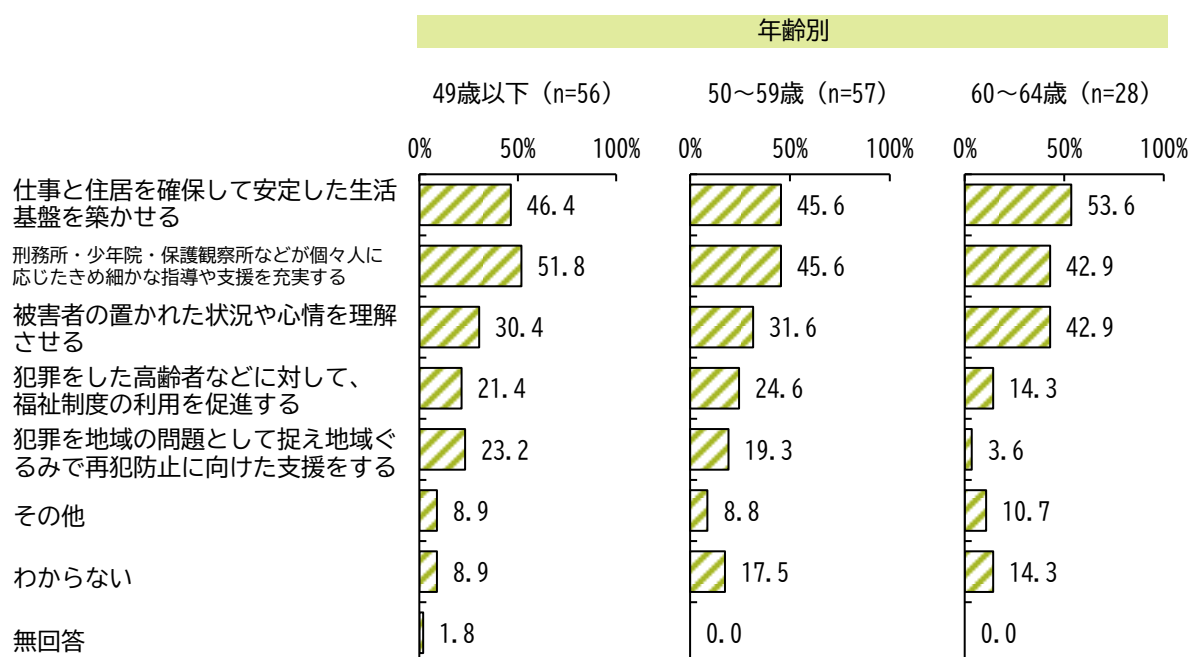
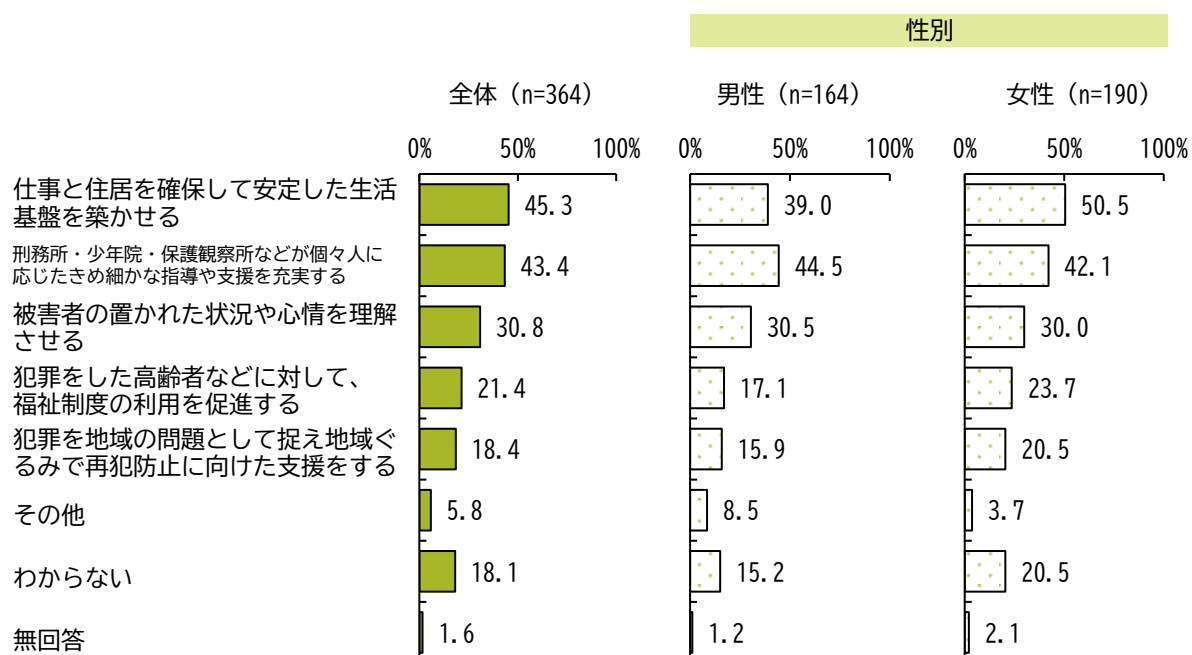


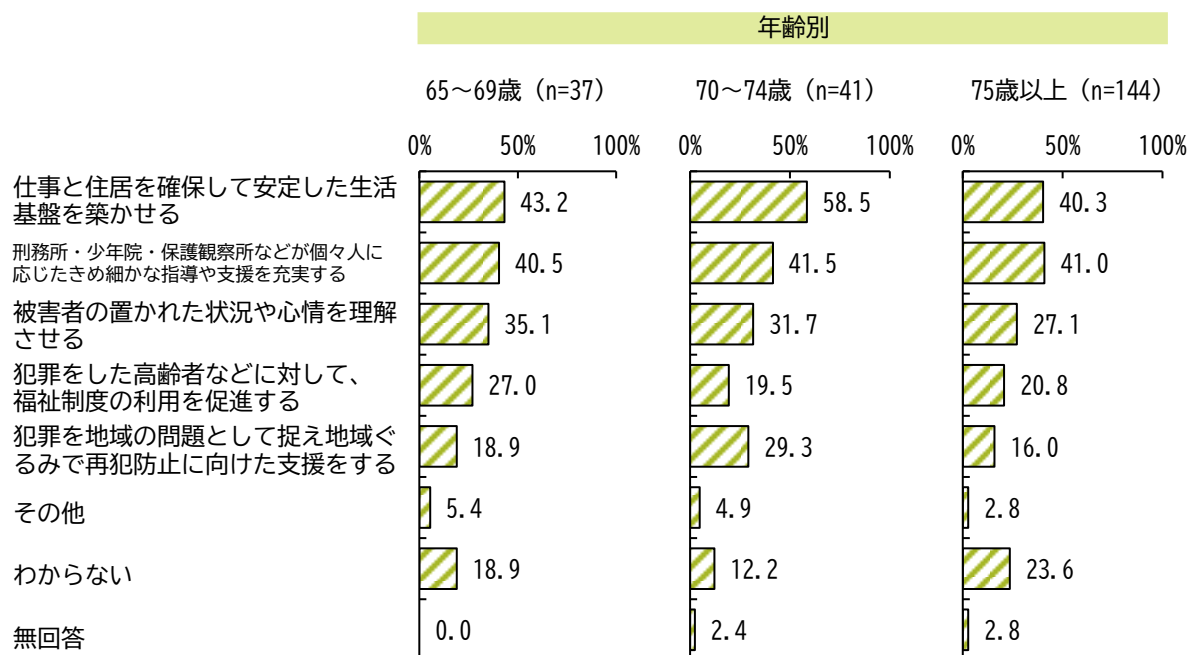
協力したいと思わない理由では、「自分や家族の身に何か起きないか不安だから」が49.0%と最も多く、次いで「犯罪をした人と、どう接すればよいかわからないから」が38.7%、「犯罪をした人と、かかわりを持ちたくないから」が32.9%などとなっています。

年齢別でみると、“65～69歳”は「犯罪をした人と、どう接すればよいかわからないから」が58.8%と最も多くなっています。“70～74歳”は「具体的なイメージがわからないから」が64.7%と最も多くなっています。

(3) 再犯防止のために必要だと思うこと

問31 あなたは、再犯防止のためには、具体的にどのようなことが必要だと思いますか。
(〇はいくつでも)





再犯防止のために必要だと思うことでは、「仕事と住居を確保して安定した生活基盤を築かせる」が45.3%と最も多く、次いで「刑務所・少年院・保護観察所などが個々人に応じたきめ細かな指導や支援を充実する」が43.4%、「被害者の置かれた状況や心情を理解させる」が30.8%などとなっています。

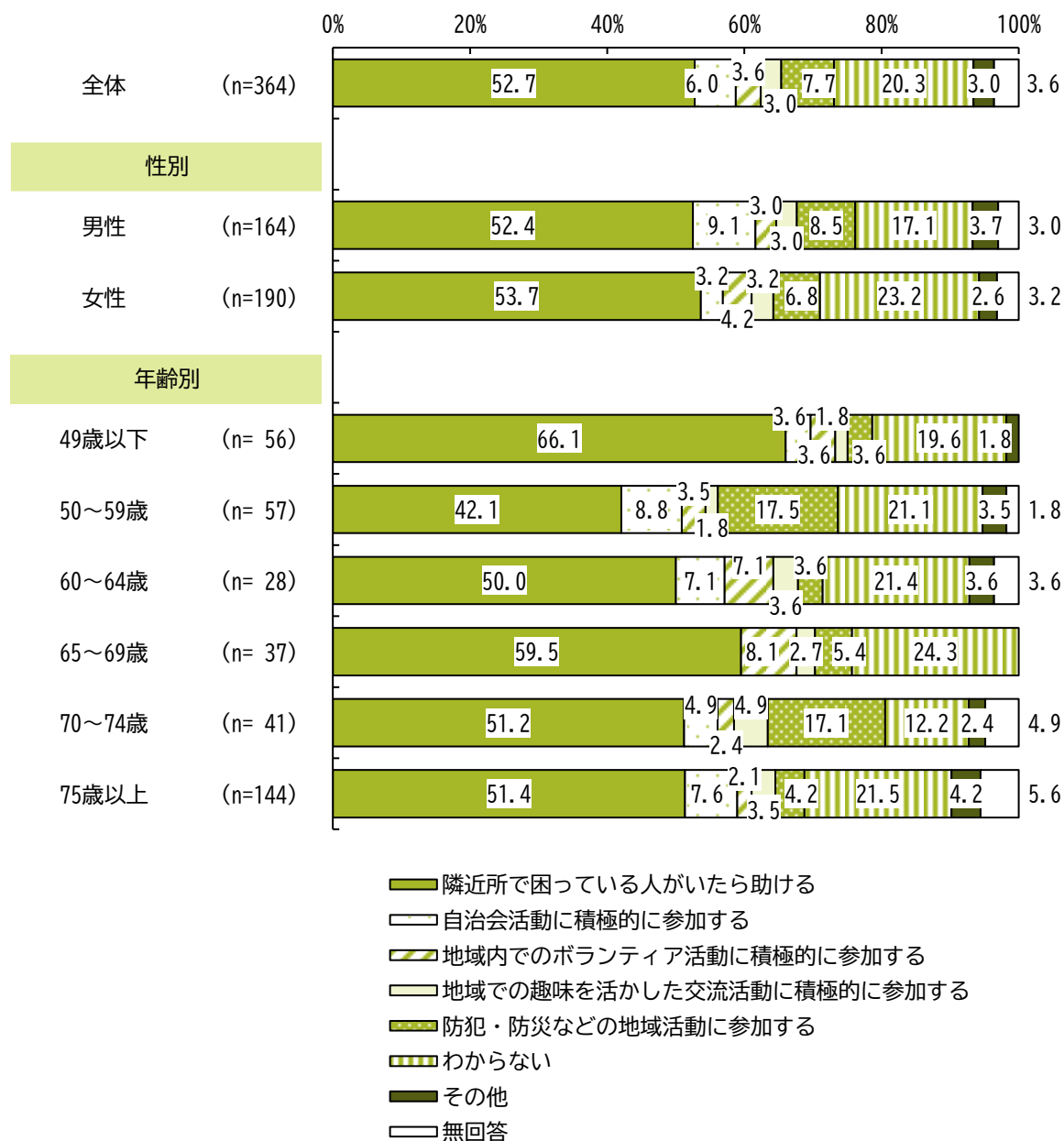
性別でみると、“男性”は「刑務所・少年院・保護観察所などが個々人に応じたきめ細かな指導や支援を充実する」が44.5%と最も多くなっています。

年齢別でみると、“49歳以下”、“75歳以上”は「刑務所・少年院・保護観察所などが個々人に応じたきめ細かな指導や支援を充実する」が最も多くなっています。

12 今後の地域福祉の取組について

(1) とともに助け合い、支え合う地域づくりを推進するためにできそうなこと

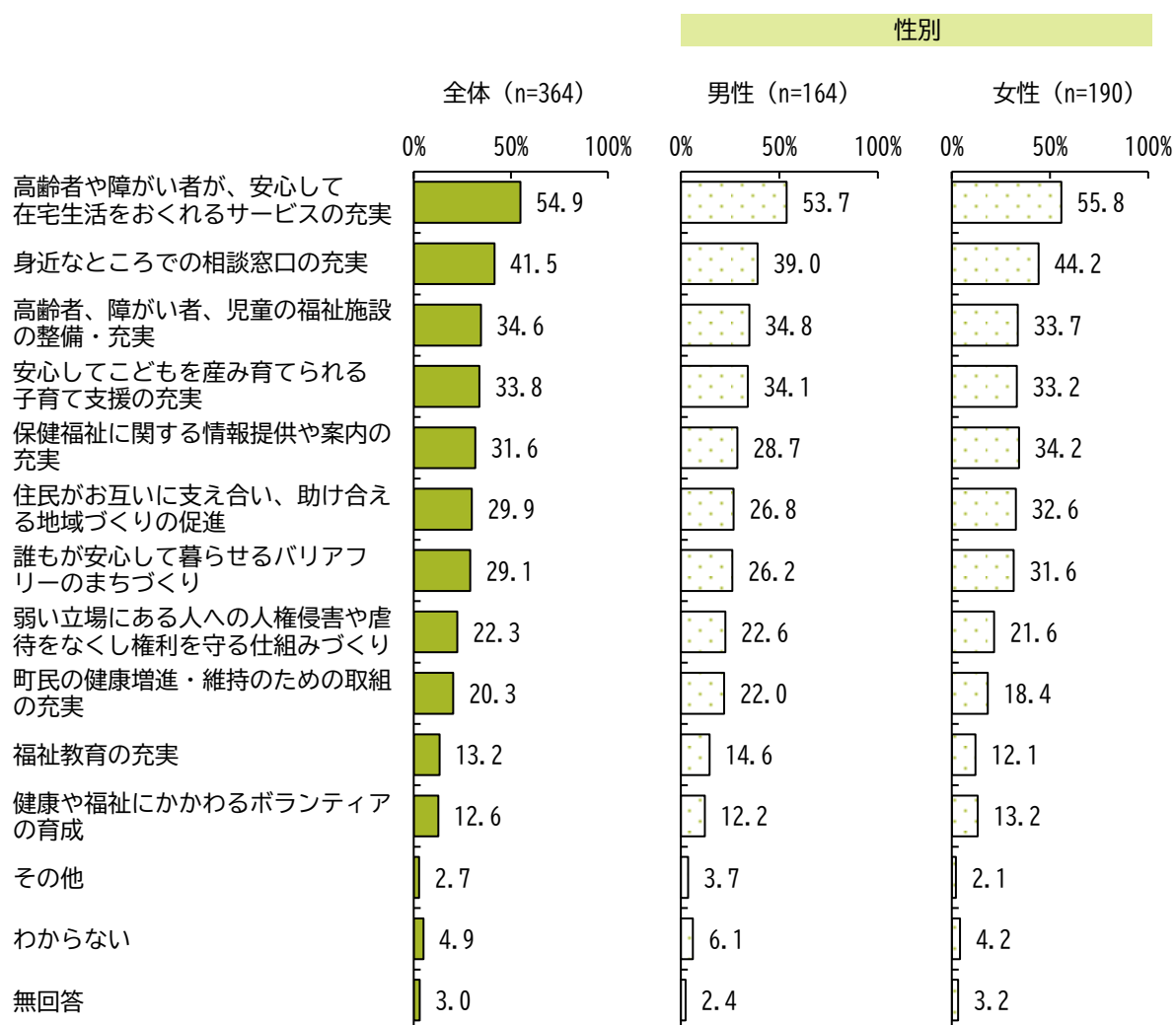
問32 とともに助け合い、支え合う地域づくりを推進するために、あなたご自身ができそうなことは何だとお考えですか。(〇は1つだけ)

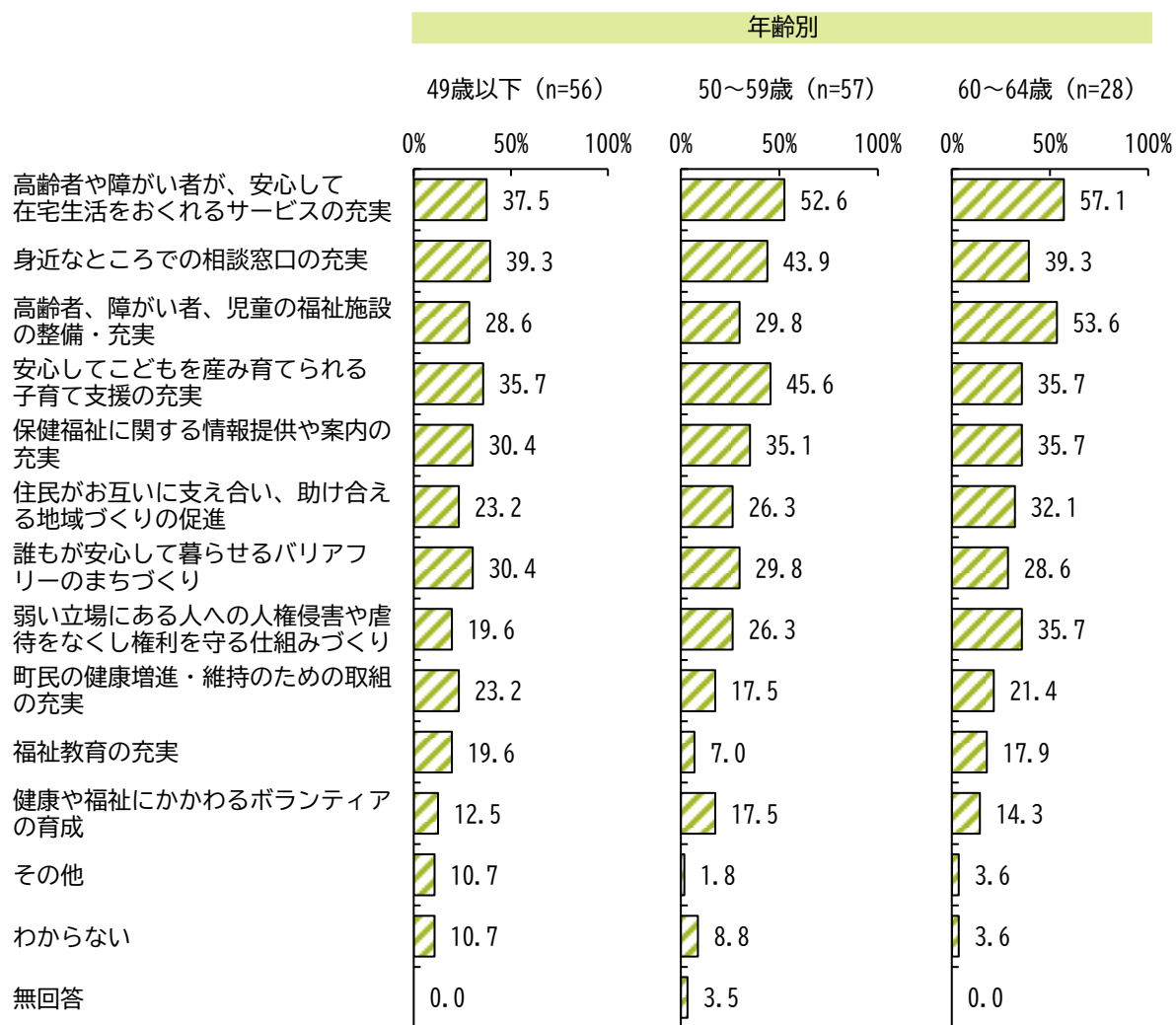


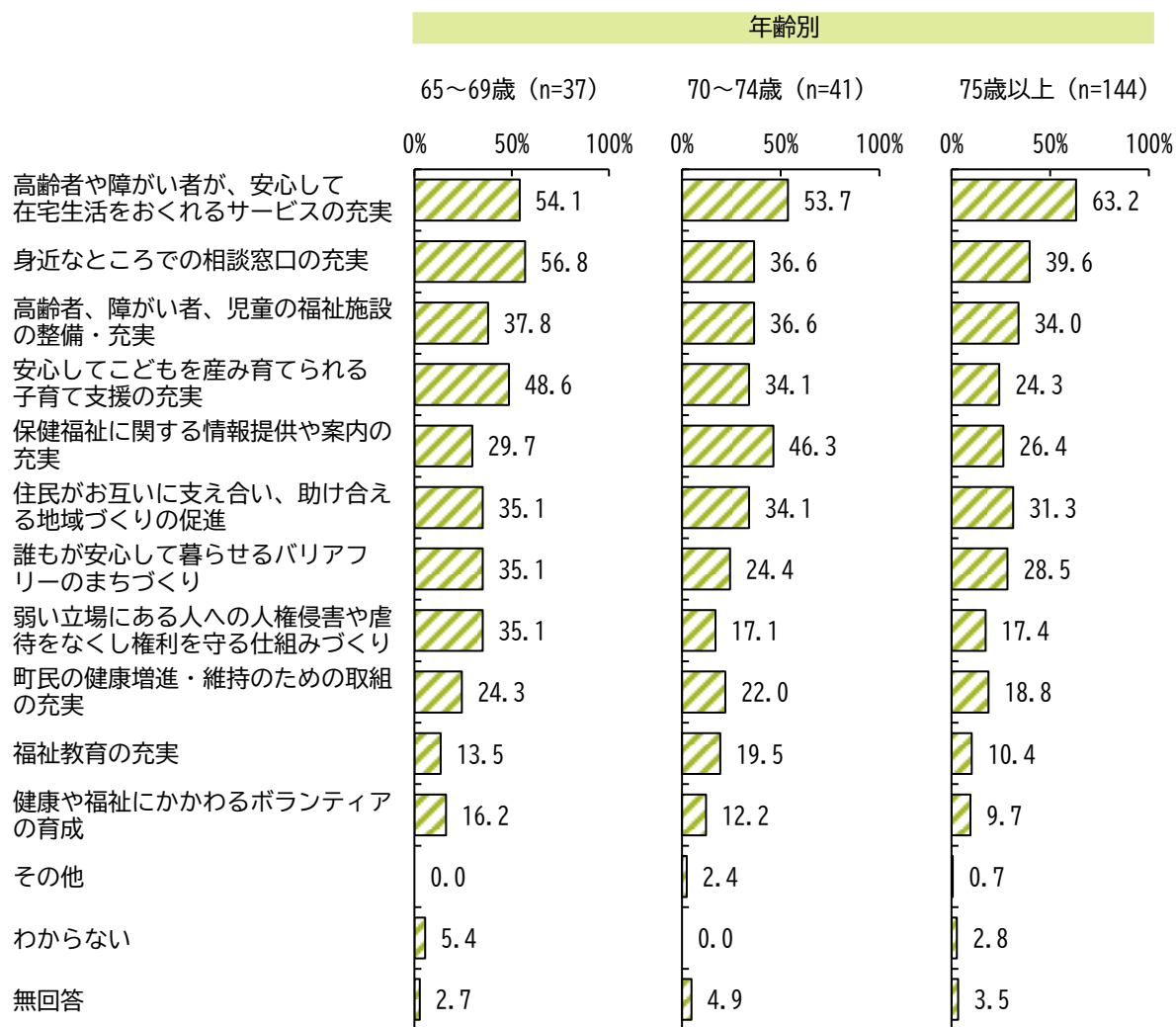
とともに助け合い、支え合う地域づくりを推進するためにできそうなことでは、「隣近所で困っている人がいたら助ける」が52.7%と最も多く、次いで「わからない」が20.3%、「防犯・防災などの地域活動に参加する」が7.7%などとなっています。

(2) 湯河原町が福祉のまちづくりを充実していく上で優先して充実すべき施策

問33 今後、湯河原町が福祉のまちづくりを充実していく上で取り組むべき施策として、どれを優先して充実すべきだと思いますか。(〇はいくつでも)







湯河原町が福祉のまちづくりを充実していく上で優先して充実すべき施策では、「高齢者や障がい者が、安心して在宅生活をおくれるサービスの充実」が54.9%と最も多く、次いで「身近なところでの相談窓口の充実」が41.5%、「高齢者、障がい者、児童の福祉施設の整備・充実」が34.6%などとなっています。

年齢別でみると、“49歳以下”、“65～69歳”は「身近なところでの相談窓口の充実」が最も多くなっています。

(3) まちづくりのために日ごろ感じていること・考えていること

問34 誰もが安心して健康で暮らせるまちづくりを進めていくために、日ごろよりあなたが感じていること・考えていることなどを自由にご記入ください。

自由意見	性別	年齢
健康保険料や医療費がかかるので、生活が厳しい人達が無償で生活できるような財源を見つけて欲しいです。	男性	49歳以下
無駄な税金を使わないで欲しい。熱海のように街を活性化させるように努力して欲しい。	男性	49歳以下
余裕のある生活ができていれば安心して暮せると思う。	男性	49歳以下
防災などのスピーカーが設置されているが、聞こえない場所が多いので、別の手段で通知するサービスが必要かと考えます（スマホなどですか）。	男性	49歳以下
税が高いために、税を払うためだけに働いています。質問に対して答えるひまがないので控えさせて頂きます。	男性	49歳以下
インフラの整備。高齢者の多い町だからこそ、免許返納後の困らない移動の確保、充実。ユニバーサルデザインと言っているが、結局、健常者が楽な物になりがち。何ファーストが大事か考える。町役場の方々が率先して、コミュニケーションや、礼儀を学んだ方が良くと思います。	男性	49歳以下
健康で暮らしていくためには多少スパルタでも指導しなければならないこともある。介護保険に関して言わせてもらえば介護保険法に記されている能力の維持向上の努力義務が形骸化してしまっている。「めんどくさい」「楽したい」といった思いは理解出来るが、財政やこれからのまちづくりに必要なのは人口増加だけでなく福祉が必要な人の減少であると考えている。	男性	49歳以下
警察官によるパトロールを増やしていただき、町の中の安全、防犯体制を強化してもらいたいです。	男性	50～59歳
町1つとしてはムリがあると思うので真鶴と協力して進めてほしい。	男性	50～59歳
交通便の利用のしやすさ。	男性	50～59歳
子育て支援も重要だと思うが、他の地域でも行っていて有効な施策なのかと感じる。人が減少していく事を見越した施策を議論して行ってほしい。	男性	50～59歳
高齢者が多い町なので、高齢者を助け支える。若者が増える取り組みをしてほしい。	男性	50～59歳
犯罪が発生しても犯人が捕まる話を聞かない。防犯カメラの増設も考えて欲しい。	男性	50～59歳
行政が提供するサービスで人を集めて行うようなものは今までと変わらないのでアピールの方法、アプローチなどを的を絞って行えないかと思う。	男性	50～59歳
ただでさえ高齢化が進んでいるのに有料老人ホームを誘致しすぎてもはや立ち行かなくなっている。有料老人ホームは自社で介護士の雇用育成をしてもらって地域の負担にならないようにしてもらいたい。地元の介護士を奪うのではなく他所から調達してほしい。もちろん雇用は必要だが地域の高齢者施設の人材を食われてしまっは困る。	男性	50～59歳
子供から高齢者までが無理なく参画できる福祉活動の仕組み作りや、山間部など住民が少ないところで住む独り暮らしの高齢者には、町の中心部で住める制度（町営）を整備するとともに、独り暮らしになってしまう前に、自宅の処分や中心部への移動を促す仕組み作りがあればと考えます。配慮が必要な方が分散していると対応する方の負担が増えることになりますので。	男性	50～59歳
人口の減少、企業の定年延長、若者の町外への就職等により、ボランティアとして活動できる人が益々減ってくると考える。これまでの隣組を基本とした活動では行き詰まる。隣組を挟まずに、町民と役場が直接やりとりするかたちに、変えていったほうが良い。	男性	50～59歳

自由意見	性別	年齢
プライバシーを守りつつ、見守り訪問など行う。	男性	60～64歳
古い考え方の改善と若い世代の増人が強く必要だと感じる。	男性	60～64歳
コンパクトなまちづくりを実施し、インフラ整備を充実させる。福祉局部だけでなく、町全体で取り組むべき。	男性	60～64歳
地域や隣近所との付き合い。	男性	60～64歳
町民体育館で月に2回水曜日シニアバスケットボールチームを運営しています。町からの支援無し。メンバー男性15名女性5名。平均年齢50歳。年に2回他県からシニアチームを呼んで大会を開催し交流を深めています。要望は、エアコン代金が高額なので熱中症に気をつけながら扇風機で我慢しています。せめて体育館の照明代金は無料にして補助して欲しい。ヘルシープラザの照明代金は無料。何故。以前にも町に要望したが無視された。再検討をお願いします。	男性	60～64歳
安全で安心できるまちづくりを。	男性	60～64歳
低所得者、高齢者に対する、ガス、電気料金の補助金。	男性	60～64歳
災害時、湯河原町は陸の孤島となる。	男性	65～69歳
年代別の仕事に働く職種がかぎられている。	男性	65～69歳
過去の事にとらわれず、新しい事に取り組んでほしい。若い人がもっと意見を言える場所（場面）を作してほしい。人口も減少し、高齢化となっているが、昔の様にとはいかないが、盛り上げが足りない。各市町村もいろいろな事にとり組んで、盛り上げようと工夫していると思います。	男性	65～69歳
湯河原町では、仕事、特に若者が働ける企業や職種がないので若者が地元に住居つかない。	男性	65～69歳
湯河原暮らしのガイド等、自治会へ加入者への配布をさせているようだが、自治会未加入者も町民税等支払っている湯河原町民のはずだが配布はされない。他の行政区では、全戸に配布されている。不公平だし、おかしいと思う。また、このアンケートについても、内容について知っていることが前提のアンケートとなっているように見受けられる。選択肢があるにしても、質問内容の説明不足により戸惑う。検証した方がよいと思う。	男性	65～69歳
役場職員が働きやすさ、環境作りから更なる町作りに繋げている。年功序列の排除、コンプライアンス違反の徹底を図り人材を育成してほしい。	男性	65～69歳
現在は夫婦二人暮らしですが、一人になった時が不安です。高齢者の一人暮らしや福祉施設について詳しく教えてもらいたい。	男性	70～74歳
免許証返納がスムーズに行われるように、町営バスの運行を細かめに行う（観光資源にもなる）。景色の良い所や散歩コースに自由に行けてウォーキングを盛んに行うことで、顔見知りを増やし、健康増進に。すれ違う人にあいさつをする習慣を作る。	男性	70～74歳
住み易い町で気候も良く、1年程前にこちらに移動して徐々に知り合いも増えておりますが、時間の余裕も出来つつあり、地域に貢献出来れば、と考えております。距離感も必要なので、テンポラリー、イージーアクセス可能な仕組みがあれば良いと思います。	男性	70～74歳
何よりも財源を拡充する事が必要では。	男性	70～74歳
病院の誘致。ペインクリニック、眼科、耳鼻科など専門医がいない（少ない）ので。	男性	70～74歳
気軽に相談出来る体制作りを行い、広報してほしい（あそこに行けば何でも聞いてくれるというような拠点を）。	男性	70～74歳
車の運転マナーの無さ、曲がる時にウインカーを出さない、横断歩道で止まらない、湯河原町には警察官は居ないのか。	男性	70～74歳

自由意見	性別	年齢
思いやり持つようにする事。	男性	70～74歳
独り身でかつ身寄りが遠方なので、将来援助の必要性を感じたときにどうすべきか心配です。	男性	70～74歳
詐欺の被害にあうことなどないように日頃から隣近所の人と話し合う関係を築いていく。	男性	70～74歳
外国人の増加（観光目的と思われる人、外国人）。20年以上在住しているが、非常に目立つ。対策が必要となるのでは。	男性	75歳以上
地域の相談窓口の充実。	男性	75歳以上
福祉計画の内容充実をお願いします。	男性	75歳以上
高齢者の福祉施設への容易に（安く）入居が出来る様に。	男性	75歳以上
町の広報が届いていない人がいると思われる。伝達手段の確立、拡充が望まれる。	男性	75歳以上
多目的広場の充実。少人数でも集まれる居場所作り。	男性	75歳以上
長生き出来て、皆様と健康で元気で楽しくすごしたいです。	男性	75歳以上
誰もが悩みや気になる事をすぐに相談できる窓口を作るように環境づくりを作してほしい。	男性	75歳以上
これ迄自分や家族が元気に過ごして来たので、福祉に対する関心が薄かった事は確かです。いつ何時に事故に逢うか、病気になるか分からない生身の人間ですから、皆が福祉に心を向けて、支え合う社会が必要だと思います。	男性	75歳以上
民生委員など町の方だけ1人まわってこない。	男性	75歳以上
町の福祉や行政に関する情報や案内が少ない。	男性	75歳以上
財政状況がきびしい中、町政が地域福祉に振り分けられる資金には限度が有ると思う。重点項目を町として洗い出しそちらに力を注ぎ、外は互助共助にまかせるべく、町が補助金を出してはどうか。他感じることはこの町に生まれ育った住民と移住してきた人々との溝。	男性	75歳以上
地域の福祉に関する一体感の構築。	男性	75歳以上
海浜公園の遊歩道に雑草が生い茂っており景観が悪くなく、また、観光客が多くなっていますので対応をお願いいたします。	男性	75歳以上
バス等のルートが少なく、年長者は不便です。	男性	75歳以上
縦割り組織から横断的組織の窓口創設。悩み事、困った事を夫々の担当課に案内するのでは無く「何でも相談窓口」を創設して、窓口としての内容を確認してから詳細な説明をして窓口担当者が担当課に直接説明して引き継ぐようにする。	男性	75歳以上
本人が難病の為ボランティア活動に参加できない。	男性	75歳以上
何をするにしても健康でないと。食事と体操を進めてほしい。	男性	75歳以上
自分の事は自分で出来る状態ではあるが、杖使用。体力なし。お役に立てそうな体ではありません。役場に行くのも苦勞しています。	男性	75歳以上
湯河原町は免許返納後の車に代わるものが少ない気がします。なので運転に不安を感じつつも車を手放せないという現状があると思います。なので三輪電動自転車やシニアカーなどのお試しレンタルや実際に免許を返納した人を招いてのお話し会などがあるといい気がしました。事実バスは、本数も少なく車に代わる代替え手段にはなりません。三輪電動シニアカーを介護保険でレンタルして車に代わる脚を見つけました。	男性	75歳以上
誰もがというのは無理だと思う。ちょっとしたことでキレル人もそこにいると思うから。誰もが、思いやりを持って、ワガママに行動しなければ、うまくい	女性	49歳以下

自由意見	性別	年齢
くと思う。幼少期から高齢者まで、教養が必要。必要な人程、学習、講演会に不参加。思いやりを伝染させたい。		
困ったときに助け合える環境が大切だと思います。	女性	49歳以下
高齢者の方の車の運転が本当にあぶない。息子がひかれそうになったり、逆走してきたり。でも本人は気づいていない。笑ってすませる。なら、高齢者が、車がなくても移動、生活出来るようにしたらいいと思う。そうすると妊婦さんとか、子供を育てている人も、車を使わなくてもよくなると思うし、接点も増えてくると思う。あと近くに産科(産婦人科)が無いのはどうかと思っている。そうすると、若い人は入ってこないし、高齢者が増えるだけ。子供を産めない地域に、若い人は入ってこない。	女性	49歳以下
町の福祉課や社会福祉協議会の取り組み、地域包括支援センターの業務範囲に関して、関心を持つ人や関係者しか知らないことが現実である。もっとわかりやすく業務内容を周知し、町民を受け入れる体制を整えるべき。また、福祉に関する相談をしても相談を受ける職員が知識不足であったり、福祉相談に対する対応力の低さが目立つ。資格を持つ職員であっても、ただ資格を持っているというだけで、適切な対応が出来ていない方も多いと感じる。職員・専門職の育成は積極的に行うべき。現代は、各種広報紙やLINE等で福祉に関する周知を図っていても皆自分ごととして捉える人は少ない。時代、地域に沿った福祉政策を期待したい。	女性	49歳以下
以前、町役場へ子どもに関する分からないことを聞きに伺った際に「そう言ったものはないですね」と適当にあしらわれ再度、他の方にお声掛けしお伺いするときちゃんと対応して調べて下さりその制度が存在することが分かったと言う経験があります。また窓口できちんとした説明をできる方とそうでない方の差があり何度か足を運ばなければならないといったこともありました。こういったことから職員の皆さん一人一人がその部署での仕事内容や役割の把握をしっかりとって頂きたいです。	女性	49歳以下
バスの本数がなくなったことにより外出しにくく感じる方も一定数いるかもしれないので、その分の交通手段が充実してもいいのではないかと思います。	女性	49歳以下
健康維持増進できるような知識、教育の場を提供することが大事なことだと思います。ついで、体調不良な時に相談したり速やかに受診できるような環境作りが大事ではないでしょうか。災害時の防災無線が聞こえないことへの懸念があります。ただでさえ高齢者は難聴な人が多く、SNSも活用できない人がいるため、大雨などで情報が遮断された時の対応をどうするのか考えていただきたく思います。	女性	49歳以下
関係があまり無いのかもしれませんが、幕山公園が年間を通してキレイではなくなったのはどうしてですか。ここ数年梅のシーズン以外草はボーボーで散歩もできません。少しさみしいです。高齢者が運動や散歩ができる海やエスポット周辺をもっと良くしてほしいです。	女性	50～59歳
救急車両の通る道の確保(小田原、熱海への道が渋滞していると時間がかかる為)。1人暮らし、高齢者世帯の救急連絡方法。生活保護は本当に必要な人のみにしてほしい(私たちの税金を使わないで)。	女性	50～59歳
自治会程度の範囲の中での、交流を活発にさせ、住民がお互いに助け合える状況になれる事が良いのではと考えます。私の故郷では、会館事業というのが活発に行われておりこの様な仕組みが湯河原でも行えたらなと感じております。	女性	50～59歳
運動不足なのでご当地体操など(ゆたぽんをつかって)を考えて小さい子供からお年寄りまで腿上げとか入れていつまでも歩けるように健康で暮らせるようにしてはどうですか。	女性	50～59歳
その立場にならないと理解することは難しい。安心して生活できる環境。手助けが必要と思っていても理解できる人がいないと情報が得られない状況。	女性	50～59歳

自由意見	性別	年齢
何事もスマホ対応になっており高齢者（私もですが）生きづらいだろうなと思います。セルフレジしかり飲食店にしても、人がいるのになど。みんなが安心して外に出ていける町である事を望むし自分自身も協力、努力はしないといけませんと思います。	女性	50～59歳
福祉とは関係ないですが、五郎神社上の急カーブに接している私道から一旦停止せずに通行する地元の方以外の車が増えています。安全面を考えて、町で対策をしていただけないでしょうか。	女性	50～59歳
本人のみ有効の出かける用事を免除と間違えて母に頼んでも字幕になるのが申告の本人署名としての自分の母が代理人カード欄うかると怖いです。	女性	50～59歳
障害を持っている児童に対しては保護者への支援が必要（居場所や相談相手）。高齢者に対しては特に単身者に対しての支援が必要。いつも思っているが単身の身内がいらない高齢者が入院や手術をする際の保証人はどうしているのかと思う。関係ないですけど駅下の50階段がボコボコで雨の日は雨が階段に溜まるため靴がびしょびしょになる。駅をきれいにしても意味がない。早く階段を整備してほしい。	女性	50～59歳
シルバーカーに乗っている方や、杖を使って歩いている方をよく見かけますが、歩道がなく、その方達のすぐ横を車が通り、危険だなと感じます。安全な歩道の整備が必要だと考えます。	女性	50～59歳
高齢の方が徒歩で大きなリュックを背負い買物した荷物を休み、休み又、徒歩で帰っていく。バスやタクシーを使う余裕もなく、生活するのにいっぱい、いっぱいなのだろう。暑さの中、熱中症で倒れなければならないと思う事が多々ある。同じ町民なのに。時間的に仕事中の為心が痛む。	女性	50～59歳
近所の方との交流をもちお互いが知っている情報を交換できるようにしている（地域の行事など知らないことやわからない事があるので）。広報に目を通すようにしているが住居には配送されたことがないので見逃がすことがある。	女性	50～59歳
インクルーシブを目標にするのではなく、当たり前であり、日常になればいいと思う。もっと許せる社会。寛容な社会になればいいと思う。	女性	50～59歳
私は湯河原と東京の2拠点生活なので、それからの目線で書きます。地域での防犯防災意識を強化していき、空家を減らしていけるように努めて欲しい。湯河原の自然や温泉を積極的に宣伝していき、落ち着いた雰囲気や暮らしやすさをアピールして、ガヤガヤした熱海や箱根とは区別していけると永住も別荘も魅力が増していけると思う。湯河原はポテンシャルが高いからもっと海沿いに道の駅とか気軽に寄れる場所を増やして欲しい。駅前の通りがシャッターが閉まっていて感じが悪い、廃墟ビルとかさびれた感じ。後は高齢の母（要介護4。字書けないし役場には行けない）が施設に入ったが、転入手続きがくだらなくて呆れた。娘の私が母のマイナンバーカードを持って役所に行って手続きするのに、更に代筆者が書く委任状が必要と言われ再度施設長にお願いして改めて後日役場に行った。こんなものが何故必要ですか。代筆者が役場に同伴もせず身分証明書も要らない委任状に何の意味があるか不明です。娘が書く委任状で十分ではないですか。介護のことで家族は疲弊していて1番こう言う手続きが疲れる。町民の事を考えているなら改革しないといけないのは、役場の余計な要求ごとだと思います。窓口でも言いましたが、仕事を一生懸命やるのは良いのですが、本当の仕事は無駄を省き既存の仕事がそれで良いのか考えて改革していくのが仕事だと思います。デジタル化は程遠いと感じました。	女性	50～59歳
町内放送が聞こえない。さるの被害が改善されない。	女性	60～64歳
介護保険のみなおしをお願いしたい。年金で今後払え続ける事が出来るか心配になる。あまりにも高すぎてビックリするばかりです。元々湯河原の住民ではなく、移住でえらびましたが。	女性	60～64歳
一人一人が意識を高く持ち、協力していく事が大切。町は、これができるような活動をお願いします。	女性	60～64歳

自由意見	性別	年齢
一人では体を動かさない人のために、広場などで、ラジオ体操とか健康体操とか、自由に参加できる様にするとか。	女性	60～64歳
眼科、皮膚科、耳鼻科が1件ずつしかなく、小児科もなくなる可能性を聞き、医療に不安がある。	女性	65～69歳
小さなコミュニティから基本を作り、徐々に広げて固めて行く。	女性	65～69歳
今現在、物価が高くなり、生活して行くのにとても大変なのです。65才を過ぎて働く所もなく不自由にしています。給付金とか少しでも援助とかあると助かります。	女性	65～69歳
道路の整備。車道と歩道の区別。分かりやすい（歩きやすい）道路作りをして下さい。	女性	65～69歳
道路が、整備されていない所が目立つので、きちんと管理してほしい。	女性	65～69歳
いずれ行く道と考えれば人ごとではないと思うし、自分がしたようにされと思うので、困っている人がいたら助けたい。	女性	65～69歳
高齢者の健康増進のためにヘルシープラザ等で、フィットネスなどの講座が開かれているが、10回分一括払いで欠席しても戻らないし、途中から講座をうけても金額が一緒なのは使いにくい。一括払いより少し高くても良いから1回ずつ使えるスポット方式も併用すればもっと利用しやすい。熱海ではやっている。指定管理者の都合で、住民は不利益になっている。高齢者にも予定があり、毎行ける人ばかりではない。来年度からでも検討してほしい。健康マージャンは卓数を8卓にして、1日通しでやれば、希望者を回せる。半日ずつにして枠がうまらないよりよいと思う。	女性	65～69歳
個人々々が楽しいなと思える町。自由で明るい町。そんな町がいいなと思います。	女性	65～69歳
近所や身近な方への挨拶や声かけ。	女性	65～69歳
町内の医療機関を増やしてほしい。専門医が少ない。高齢になると他の市、県へ行くのは大変である。より良いデイサービスを（ケアマネ）当事者が選ぶのは難しい。福祉課でもアドバイスは（相談）聞いてほしい。	女性	65～69歳
ボランティアで何かしたいと言う友人がいますが、なかなか見つけれられない様です。情報の伝達や参加のしやすさ、わかりやすさ、等求めます。健康で暮らせるまちづくりとは、歩道のデコボコをなおす。町中にベンチを置く（高齢者の意見ですが）。ひと休みしたい人はいると思います。	女性	65～69歳
町民に向けての町役場の活動の充実。	女性	65～69歳
隣り組、近所の方とあいさつ等。どんな方が住んでいるのか把握する。	女性	70～74歳
町での充実の底上げは、各地区（区会）の活動をサポートする必要があると思う。	女性	70～74歳
自分を大切に、そして住んでいるまわりの人を大切に（年令に関係なく、自分からあいさつする）。湯河原はまばゆい緑豊かな町で山あり、海あり、温泉あり、そして都会にも近くありがたく思っています。住民がおだやかで人と競わず、争わずすばらしいと思います。	女性	70～74歳
むずかしい事ではなく、困っている人を見たら手をさしのべる姿勢をいつも持っていたいです。	女性	70～74歳
自身の健康については気になるころですが、まちづくりとなると難しい。	女性	70～74歳
施設が古いため使用しづらい場所がある。道路がデコボコだったり、石垣がくずれそうな箇所があるにもかかわらず点検整備されていない。計画的にチェック（要項作成を求めます）すべきです。事故がおきてからでは遅いです。	女性	70～74歳
人同士のつながりを大切にする。	女性	70～74歳

自由意見	性別	年齢
健康でいる為には、良い睡眠、バランスの摂れた食生活、適度な運動が大切とされているので子供の時から知っていたなら日々を意識して過ごせると思えます。自然の中での活動で心も成長できると思えます。知らない事を知り、行動できたら人生生きがいを感じるのでは。私達高齢夫婦、P P Kで介護されない、介護しないように祈るばかりです。	女性	70～74歳
高齢者という言葉でひとくりにされフレイルという言葉におどされて。その年になってみなければ判らない事だらけ。家事に時間はかかるしすぐ疲れる。でもこれは普通でしょう。カレンダーに1ヶ所友達とランチの赤丸があればがんばれるのだから窓口の皆様の明るい笑顔がやさしい対応よろしくお祈いします。	女性	70～74歳
みんな同じだと思いますが、一人になったらどうしよう。歩けなくなったらどうしよう。今できる事は、体に合った運動をすることかなと、思っています。プールに行ったり、体操をしたりしています。運転はしばらくしていませんが、またしなくてははいけないのかなあと思うこのごろです。	女性	70～74歳
湯河原町は安心して健康に暮らせる町だと感じます。外から来た人間として、日々感じています。町が悪い方向に行かない事を願っています。感謝。	女性	75歳以上
自分の事は自分で。主人にきた郵便なのですが、事情があり私が書きました。	女性	75歳以上
買物不便さの解消。バスや他の手段（高齢者用）。受診時のタクシー代金軽減を議会で検討して（県外でも）。この結果を公表してほしい。	女性	75歳以上
猿が出たりカラスがゴミを荒らしたりが多くなって来ています。	女性	75歳以上
自分の住んでいる区会に加入出来る様に広報を充実し互いに隣近所が顔を知り、挨拶をし合う事が防災、防犯につながると思いますので、まず気軽に区会に加入して、地域を知る事で自分の住んでいる町づくりにつながっていくと思います。互いに顔の見える、明るく、安心な地域作りを望みます。	女性	75歳以上
第一に自身の健康、フレイルにならない様頑張りすぎず努力すること。趣味を持ち生活を楽しめる様仲間づくりをする事。	女性	75歳以上
散歩時、サルの出現を心配しながら歩いている（早朝、夕方）。非常時の有線放送が聞き取りにくい。	女性	75歳以上
道路整備を充実させてほしい（高齢者が歩きやすいこと）。	女性	75歳以上
高齢者ドライバーのマナーの悪さ（一時停止、信号無視等）。歩行者の横断のマナーの悪さ。横断歩道のない所での斜め横断。免許証返納後のバス料金等を安く提供出来ればと思います。又、バスの運転手の育成で、本数を増やしてもらえたらと思います。	女性	75歳以上
自分が目いっぱい、助けてあげたいけど。むずかしいです。	女性	75歳以上
健康な体でないため、どの（質問）にも思う様に、出来なくて、残念です。	女性	75歳以上
なるべく迷惑をかけない様に心掛けています。	女性	75歳以上
町会議員の皆様、町役場の皆様に全て委任させて頂いていますので安心して暮しております。因みに私、東京からの移住者です。	女性	75歳以上
私は、要介護支援1の独り暮らしをしています。町で、健康や様々なイベントを開催してくださっても、交通の足（バス）が少なく、中々、参加できず、結局は、とり残されています。利用しやすい一般的なバスの運行も福祉の大切な第1歩と考えて、その充実を願っています。	女性	75歳以上
コロナ以後バスが、まったくない時間があります（ただ、土、日、祭日は1回ある）。そのため不便で、受診する時は、タクシーを利用しているのです。せめて、1回だけ午前9時台にさせていただきたく思っています。	女性	75歳以上
アンケート結果を充実、完成させる。	女性	75歳以上

自由意見	性別	年齢
自分の考えや思いが町の業務の中で予算として取り組めるのかが解りません。現実と理想の違いとは。	女性	75歳以上
健康の為、朝歩いているが猿やいのししがいて散歩コースが限られている。	女性	75歳以上
まずは自分が健康でいること。	女性	75歳以上
問に該当しない記入でしようが、湯河原住民人口も減り続けています。議員定数を削減したらという話もあちこちで聞きます。町民の声をもっと身近に。選挙前にペコペコ頭を下げる必要はありません。もっと湯河原を元気にして。議員だけが元気では駄目です。	女性	75歳以上
高齢の為自分の事で手一杯なので申し訳ないと思っていますができるだけ迷惑をかけず一人暮らしが続けられればと思っています。	女性	75歳以上
当たらず、障らず、隣、近所が無関心なこと。深入りもしない様に心がけている事。	女性	75歳以上
交通機関がうすい。不自由。タクシー高い。老人はせめて今の半額くらいでもよいのでは。	女性	75歳以上
人と人との助け合える取組を充実してほしい。	女性	75歳以上
町情報が余り良くわかりません。	女性	75歳以上
ソフト面での、制度の充実や意識改革も必要不可欠だとは思いますが、湯河原町はハード面での「福祉のまちづくり」が高齢者や障がい者・子育て世帯にとって充実しているとは言い難いと思います。例えばですが、1点目は、歩道のデコボコ（杖をついて歩きづらい。車椅子やベビーカーでの歩行が困難）。2点目は、町施設の老朽化や不便さ（エレベーターがなかったり、トイレが和式だったり）。3点目は、役場の庁舎の老朽化、わかりにくさ、不便さ（建物が古く大きな地震に耐えられると思えない。駐車場が狭い。どこに何課があるのか本当にわかりにくい。迷路みたいで案内板もわかりにくい。目的の課に行ったあと、帰りの出口がわからなくなった事がある。）などが挙げられると思います。財源がなかったり、難しいとは思いますが、一考していただければと思い記載しました。よろしくお願いします。	その他	60～64歳
基本はご近所様との挨拶など日常の関わりが大切だと思うが、時間的なゆとりがない。逆にこれは参加しようというものが年一回はあるとよい。運動会、防災訓練、お祭り等。	無回答	50～59歳
道の舗装。デコボコだと歩きづらいです。足、腰が丈夫ではないので歩いていてもこわいので遅くなります。	無回答	65～69歳

Ⅲ 調査票

「湯河原町地域福祉計画」をつくるための町民アンケート調査 ご協力をお願い

町民の皆様には日ごろから福祉行政にご協力いただき、ありがとうございます。

湯河原町は、高齢者、障がい児者など、地域で支援を必要としている方を地域全体で支え、誰もが住み慣れた地域でその人らしい自立した生活が送ることができ、また、複雑・多様化した地域福祉ニーズに応えるため、令和9年度から令和13年度までの「湯河原町地域福祉計画」を策定します。

この町民アンケートは、18歳以上の町民1,000人を無作為に抽出し、町民の皆様が日常、どのように福祉と関わりを持ち、福祉に関心を持たれ、町として取り組むべき課題をどのようにお考えなのかをお聞きし、この計画に取り入れていくことを目的に実施するものです。

なお、本調査の結果は、統計的に処理をし、この計画の策定に限り使用しますので、その他の目的で使用することは一切ございません。趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和8年7月

湯河原町長 内 藤 喜 文

ご記入にあたってのお願い

*調査票には、お名前やご住所をご記入する必要はございません。

*ご記入は、ご本人にお願いいたします。ご本人のご記入が難しい場合は、ご家族などがご本人のお考えをお聴きの上、代理でご記入いただいてもかまいません。

*お答えは、あてはまる回答の番号に○をつけてください。また、自由記述での設問や、「その他」を回答した場合には、具体的にその内容をご記入ください。

*本調査の結果は、統計的に処理をし、この計画の策定に限り使用しますので、その他の目的で使用することは一切ございません。

*ご記入いただいた調査票は、7月21日(火)までに、同封の封筒に入れて、切手を貼らずに投函してください。ご協力くださいますようお願い申し上げます。

スマートフォン・携帯電話をご利用の方

- 1 右記の「QRコード」を読み取ると、回答画面が開きます。
- 2 各質問に対し、順に回答してください。
- 3 URL https://src3.webcas.net/form/pub/src1/r8_yugawara_chiiki

QRコード



【調査に関するお問い合わせ先】湯河原町社会福祉課 電話 0465-63-2111

あなた自身のことについておたずねします

問1 あなたの性別は、どちらですか。(○は1つだけ)

- | | | |
|-------|-------|--------|
| 1. 男性 | 2. 女性 | 3. その他 |
|-------|-------|--------|

問2 あなたの年齢は次のどれに該当しますか。(○は1つだけ)

- | | | |
|-----------|-----------|-----------|
| 1. 19歳以下 | 2. 20～29歳 | 3. 30～39歳 |
| 4. 40～49歳 | 5. 50～59歳 | 6. 60～64歳 |
| 7. 65～69歳 | 8. 70～74歳 | 9. 75歳以上 |

問3 あなたが現在同居されている家族の構成は、次のどれにあたりますか。なお、2世帯住宅の場合は「同居」としてお考えください。(○は1つだけ)

- | | |
|------------|----------------|
| 1. ひとり暮らし | 2. 夫婦のみ |
| 3. 親と子の2世代 | 4. 祖父母と親と子の3世代 |
| 5. その他 (|) |

問4 あなた自身、またはあなたが同居している家族の中に、次のような方はいますか。(○はいくつでも)

- | | |
|------------|---------------------|
| 1. 妊産婦 | 2. 乳幼児 (小学校入学前のこども) |
| 3. 小学生 | 4. 中学生・高校生 |
| 5. 65歳以上の方 | 6. 介護を必要とする方 |
| 7. 障がいのある方 | 8. いずれもない |

問5 あなたのお住まいになっている区会 (自治会) は、次のどれにあたりますか。(○は1つだけ)

- | | |
|----------|-----------|
| 1. 奥湯河原区 | 2. 温泉場区 |
| 3. 宮上区 | 4. 宮下区 |
| 5. 城堀区 | 6. 門川区 |
| 7. 鍛冶屋区 | 8. 中央区 |
| 9. 吉浜区 | 10. 川堀区 |
| 11. 福浦区 | 12. その他 (|
| |) |

問6 あなたの主な職業は、次のどれにあたりますか。(○は1つだけ)

- | | | |
|--------------|----------|----------|
| 1. 会社員・公務員など | 2. 自営業 | 3. 農林漁業 |
| 4. パート・アルバイト | 5. 学生 | 6. 主夫・主婦 |
| 7. 無職 | 8. その他 (|) |

福祉についておたずねします

問7 あなたは福祉に関心がありますか。(○は1つだけ)

- | | |
|-------------|------------|
| 1. とても関心がある | 2. やや関心がある |
| 3. あまり関心がない | 4. 全く関心がない |

問8 湯河原町では、障がいなどのある人もない人も、その人らしくいきいきと生活していけるように取り組んできました。あなたは、このような取組に対する住民の理解は、深まっていると思いますか。(○は1つだけ)

- | | | |
|------------|-------------|---------------|
| 1. 深まっている | 2. まあ深まっている | 3. あまり深まっていない |
| 4. 深まっていない | 5. わからない | |

福祉の情報についておたずねします

問9 身の回りには様々な地域や福祉の情報があると思いますが、あなたはそれらの情報をどこから入手していますか。(○はいくつでも)

- | | |
|--------------------------|--------------------------|
| 1. 町や社会福祉協議会の広報誌・くらしのガイド | 2. 町や社会福祉協議会のホームページ |
| 3. 県の保健所 | 4. 福祉サービスの事業所やその職員 |
| 5. 民生委員・児童委員 | 6. 家族・親戚 |
| 7. 友人 | 8. 隣近所の方 |
| 9. 自治会の役員、回覧板 | 10. 職場 |
| 11. 新聞・雑誌・テレビ・ラジオ | 12. 地方情報誌(タウンニュース、ポストなど) |
| 13. その他() | 14. 特にない |

問10 あなたは、福祉や健康についてどのような情報を知りたいと考えていますか。(○はいくつでも)

- | |
|-------------------------------|
| 1. 健康づくりについて |
| 2. 子育てについて |
| 3. 高齢者や障がい者のサービスについて |
| 4. 福祉や健康のサービス利用方法について |
| 5. 介護保険について |
| 6. 介護保険や福祉関係業者のサービス提供内容について |
| 7. ボランティア活動やNPOなどの町民活動について |
| 8. 生きがいづくりの学習機会(講座や教室)について |
| 9. 高齢者や障がい者が生活しやすい住宅や福祉機器について |
| 10. その他() |
| 11. 特にない |

日ごろの悩みや不安についておたずねします

問11 あなたは日ごろ、どのような悩みや不安を感じていますか。(○はいくつでも)

- | | |
|---------------------------------|----------------------------------|
| 1. 自分の健康のこと | 2. 家族の健康のこと |
| 3. 自分や家族の生活上の問題
(進学、就職、結婚など) | 4. 育児に関すること |
| 5. 家族の介護に関すること | 6. ご近所との人間関係 |
| 7. 職場や学校などでの人間関係 | 8. 収入(家計)など経済的なこと |
| 9. 地域の生活環境のこと
(ゴミ、防犯、騒音など) | 10. 差別や虐待に関すること |
| 11. 地震・火事など災害のこと | 12. L G B T Qやパートナーシップに
関すること |
| 13. その他 () | 14. 特にない |

問12 悩みや不安があったとき、主に誰に相談しますか。(○はいくつでも)

- | | |
|-------------|-------------------------------|
| 1. 家族 | 2. 親類 |
| 3. 近所の人 | 4. 友人・知人 |
| 5. 職場の人 | 6. 学校の先生 |
| 7. 病院や薬局 | 8. 民生委員・児童委員 |
| 9. 社会福祉協議会 | 10. 福祉サービス事業所(ヘルパー、ケアマネジャーなど) |
| 11. 町役場 | 12. 地域包括支援センター |
| 13. その他 () | |
| 14. 相談しない | |

※問12で「14. 相談しない」と答えた方におたずねします。

→問12-1 あなたが悩みを相談しない理由として、以下のうちどれがあてはまりますか。
(○はいくつでも)

- | | |
|----------------------|----------------------|
| 1. 知られることが恥ずかしい | 2. 近所の人にも関わりのある悩みが多い |
| 3. 相談するのに気が引けてしまう | 4. 相談しても解決しないと思う |
| 5. どのように相談して良いかわからない | 6. 自分で解決すべきだと思う |
| 7. 適切な相談相手がいない | 8. その他 () |
| 9. 特に理由はない | |

地域におけるふだんの生活についておたずねします

問13 日ごろの生活において、「地域で助け合う」ということを意識した場合、あなたの考える「地域」とは、次のどの範囲ですか。(○は1つだけ)

- | | | |
|-----------|----------------|----------------|
| 1. 隣近所 | 2. 自治会の範囲くらい | 3. 小中学校の学区域くらい |
| 4. 湯河原町全域 | 5. もっと広い地域 () | |

問14 あなたは、ふだん近所の人とどの程度つきあいをされていますか。(○は1つだけ)

- 1. 困っているとき(病気、悩み、事故など)に、相談をしたり、助け合ったりするなど、親しくおつきあいしているお宅がある
- 2. たまに立ち話をする程度
- 3. 会えばあいさつはするが、それ以上の話はしない
- 4. つきあいがほとんどない

※問14で「3. 会えばあいさつはするが、それ以上の話はしない」「4. つきあいがほとんどない」と答えた方におたずねします。

→問14-1 つきあいがほとんどないのはなぜですか。(○は1つだけ)

- 1. あまり知らないから
- 2. かかわる機会や時間がないから
- 3. 家族にまかせているから
- 4. 特に必要を感じないから
- 5. わずらわしいから
- 6. 時間をさくのが惜しいから
- 7. 人とのつきあいが苦手だから
- 8. つきあいをしたいがどうしたらよいかわからない
- 9. その他()

問15 あなたは、日ごろの生活でご近所や自治会など地域の方からの協力が必要なことがありますか。(○は1つだけ)

- 1. ある
- 2. ない

※問15で「1. ある」と答えた方におたずねします。

→問15-1 具体的にはどのようなことですか。(○はいくつでも)

- 1. 安否確認の声かけ
- 2. 話し相手や相談相手
- 3. ゴミ出し
- 4. 外出時の付添い・介助
- 5. 買い物や家事の手伝い
- 6. 短時間のこどもの預かり
- 7. こどもの遊び相手
- 8. こどもの登下校時の見守り
- 9. 災害時の手助け
- 10. その他()

※すべての方におたずねします。

問16 地域での人との関わりについて、お考えに近いものをお選びください。(○は1つだけ)

- 1. 心から打ち解け合える関係を築きたい
- 2. 隣近所の人とはつきあいを大切にしたい
- 3. 地域を良くする活動をみんなで協力し合って行いたい
- 4. 時間に余裕のある人ややる気のある人が地域に関わればよい
- 5. 他人の協力は期待していない(自分のことは自分です)
- 6. 地域の人や隣近所の人とは関わりを持ちたくない
- 7. 興味がない
- 8. その他()

問17 高齢者や障がい者・子どもなどがいる世帯に対して、あなたが協力できることは何ですか。(○はいくつでも)

- | | |
|----------------|-----------------|
| 1. 安否確認の声かけ | 2. 話し相手や相談相手 |
| 3. ゴミ出し | 4. 外出時の付添い・介助 |
| 5. 買い物や家事の手伝い | 6. 短時間のこどもの預かり |
| 7. こどもの遊び相手 | 8. こどもの登下校時の見守り |
| 9. 災害時の手助け | 10. その他 () |
| 11. 協力できることはない | |

居場所についておたずねします

問18 次の項目にあてはまると思うことはありますか。(○はいくつでも)

- | |
|------------------------------|
| 1. 自分には人とのつきあいが無いと感じることがある |
| 2. 自分は取り残されていると感じることがある |
| 3. 自分は他の人たちから孤立していると感じることがある |
| 4. どれにもあてはまらない |

問19 親友といえる友人がいますか。(○は1つだけ)

- | | |
|-------|--------|
| 1. はい | 2. いいえ |
|-------|--------|

問20 次の場所は、今のあなたにとって居場所(ほっとできる場所、居心地のいい場所など)になっていますか。(○はいくつでも)

- | | |
|---|--|
| 1. 自分の部屋 | |
| 2. 家庭(実家や親族の家を含む) | |
| 3. 学校(卒業した学校を含む) | |
| 4. 職場(過去の職場を含む) | |
| 5. 地域(図書館や公民館や公園など、現在住んでいる場所やそこにある建物など) | |
| 具体的に () | |
| 6. インターネット空間(SNS、YouTubeやオンラインゲームなど) | |
| 7. その他 () | |
| 8. 居場所はない | |

成年後見制度についておたずねします

問21 成年後見制度を知っていますか。(○は1つだけ)

- | | | |
|-----------------|----------------|---------|
| 1. 制度の内容まで知っている | 2. 制度の名前は知っている | 3. 知らない |
|-----------------|----------------|---------|

※問21で「1. 制度の内容まで知っている」、「2. 制度の名前は知っている」と答えた方におたずねします。

→問21-1 成年後見制度を知ってもらうためには、何が必要と考えていますか。
(○はいくつでも)

- | |
|--------------------------|
| 1. 成年後見制度に関する広報活動 |
| 2. 成年後見制度に関する研修会、講座などの実施 |
| 3. その他 () |

※問21で「1. 制度の内容まで知っている」、「2. 制度の名前は知っている」と答えた方におたずねします。

→問21-2 ご自身やご家族などが成年後見制度を利用することについてどのように思いますか。(○は1つだけ)

- | |
|-----------------------|
| 1. 制度を積極的に利用したい |
| 2. 制度の利用が必要でもためらいを感じる |
| 3. わからない |

※問21で「1. 制度の内容まで知っている」、「2. 制度の名前は知っている」と答えた方におたずねします。

→問21-3 身近な人について成年後見制度を利用すべきかどうか悩んだ際に、あなたが相談する先はどこですか。(○はいくつでも)

- | | |
|-------------------|---------------|
| 1. 家族 | 2. 町役場 |
| 3. 社会福祉協議会 | 4. 地域包括支援センター |
| 5. 弁護士や司法書士、税理士など | 6. 民生委員・児童委員 |
| 7. 自治会・自治会役員 | 8. その他 () |

地域の福祉活動やボランティア活動についておたずねします

問22 あなたはこの1年間に何らかのボランティア活動に参加しましたか。(○は1つだけ)

※福祉に限らず、まちづくり全体の分野で考えてください。

1. 参加した → 問22-1へ 2. 参加していない → 問22-4へ

※問22で「1. 参加した」と答えた方におたずねします。

問22-1 どんな分野の活動に参加しましたか。(○はいくつでも)

- | | |
|----------------------------------|------------|
| 1. 健康づくりの活動 | 2. 高齢者への支援 |
| 3. 障がい者(児)への支援 | 4. 子育て支援 |
| 5. 青少年健全育成活動(こども会活動などを含む) | |
| 6. 文化・スポーツなど生涯学習活動 | |
| 7. 地域づくりのための活動(自治会、地域福祉会活動などを含む) | |
| 8. 防犯や防災など生活安全の活動 | |
| 9. リサイクルなど環境活動 | |
| 10. 災害援助活動 | |
| 11. その他 () | |

※問22で「1. 参加した」と答えた方におたずねします。

問22-2 あなたはその活動にどの程度の頻度で参加していましたか。(○は1つだけ)

- | | | |
|-----------|-------|-----------|
| 1. ほとんど毎日 | 2. 毎週 | 3. 月に2～3回 |
| 4. 月に1回 | 5. 随時 | |

※問22で「1. 参加した」と答えた方におたずねします。

問22-3 あなたがそのボランティア活動に参加した理由は何ですか。(○はいくつでも)

- | | |
|----------------------|---------------------|
| 1. もともと関心があったから | 2. やりがいを感じたから |
| 3. 活動することにメリットを感じたから | 4. 知識・経験を使えそうだから |
| 5. 地域に貢献したいから | 6. 友人・知人が参加しているから |
| 7. 誘いを断れなかったから | 8. 人と交流する機会が欲しかったから |
| 9. その他 (|) 10. 特に理由はない |

※問22で「2. 参加していない」と答えた方におたずねします。

問22-4 参加していないのはなぜですか。(○はいくつでも)

- | | |
|-----------------------|----------------------|
| 1. 福祉活動に関心がないから | 2. 時間的に余裕がないから |
| 3. 自分の時間を優先したいから | 4. 活動に関する情報がないから |
| 5. 一緒に参加する仲間がいないから | 6. 参加するきっかけがないから |
| 7. 家族などの理解・協力が得られないから | 8. 活動に活かせる知識・経験がないから |
| 9. 高齢や健康上の理由などで無理だから | 10. その他 (|
| |) |

※すべての方におたずねします。

問23 今後、どのような福祉に関わる地域活動やボランティア活動などに参加したいかを自由にご記入ください。

問24 今後、地域における支え合い、助け合い活動を活発化することが重要になってきます。そのためには、どのようなことが重要だと思いますか。(○はいくつでも)

- | |
|-----------------------------------|
| 1. 地域における福祉活動の意義と重要性をもっとPRする |
| 2. 地域でボランティアなどの活動拠点となる場所を整備する |
| 3. 地域における福祉活動の活動費・運営費などの資金的な援助を行う |
| 4. リーダーや福祉活動に携わる人を養成する |
| 5. 福祉活動の相談・指導を担当する専門職員の充実を図る |
| 6. 困っている人と助けることのできる人をつなぐ人材を育成する |
| 7. 助け合いの場や組織の情報を得やすくする |
| 8. 介護やボランティア活動の方法などに関する研修を行う |
| 9. 学校教育や社会教育での福祉教育を充実する |
| 10. その他 (|
| 11. 特にな |

民生委員・児童委員の活動についておたずねします

問25 あなたは、あなたの地域の「民生委員・児童委員」がどなたかご存じですか。
(○は1つだけ)

1. 知っている

2. 知らない

※問25で「1. 知っている」と答えた方におたずねします。

→問25-1 あなたは地域の「民生委員・児童委員」をどこで知りましたか。
(○はいくつでも)

1. 戸別訪問を受けたとき

2. 日ごろから相談などを行っている

3. 町役場

4. 町の行事・広報誌・ホームページ

5. 社会福祉協議会

6. 学校

7. 地域の行事

8. ボランティア活動

9. その他 ()

※すべての方におたずねします。

問26 あなたは、「民生委員・児童委員」の活動内容をご存じですか。(○は1つだけ)

1. 知っている

2. 知らない

※問26で「1. 知っている」と答えた方におたずねします。

→問26-1 あなたが知っている地域福祉に関する民生委員・児童委員の活動はどれですか。
(○はいくつでも)

1. 日常生活についての悩みや心配ごとの相談

2. 行政などの福祉サービスに関する情報提供

3. 高齢者等で支援が必要な人への声かけや訪問

4. こどもに関する相談

5. その他 ()

地域における災害時の対策についておたずねします

* 湯河原町では、災害が発生した場合に支援が必要な、ひとり暮らしの高齢者や重度障がい者などの「要配慮者」を対象に、名簿に登録する同意を得た上で「避難行動要支援者名簿」(住所、氏名、性別、生年月日等)を作成しています。
この名簿は、災害に備え、民生委員・児童委員、自主防災会などの地域支援者が共有することで、地域の中で援護が必要な方を支援できるようにしています。

問27 あなたは、上記のような「要配慮者」に対する支援制度をご存じでしたか。
(○は1つだけ)

1. 知っていた → 問27-1へ

2. 知らなかった → 問27-2へ

→問27-1 あなたは地域の「要配慮者」に対する支援制度をどこで知りましたか。
(○はいくつでも)

- 問27-2 あなたは自分自身やあなたの身近な人にとって「要配慮者」に対する支援制度は関わりのあるものだと感じますか。(○は1つだけ)

- 問29 地震や台風などの災害発生時の備えとして、どのようなことが重要だと思いますか。
(○はいくつでも)

- 99

再犯防止についておたずねします

問30 あなたは、犯罪をした人の立ち直りに協力したいと思いますか。(○は1つだけ)

- | | |
|-----------------|---------------|
| 1. 思う | 2. どちらかといえば思う |
| 3. どちらかといえば思わない | 4. 思わない |
| 5. わからない | |

※問30で「3. どちらかといえば思わない」「4. 思わない」と答えた方におたずねします。

→問30-1 協力したいと思わない理由を教えてください。(○はいくつでも)

- | |
|-----------------------------|
| 1. 自分や家族の身に何か起きないか不安だから |
| 2. 犯罪をした人と、かわりを持ちたくないから |
| 3. 犯罪をした人と、どう接すればよいかわからないから |
| 4. 自分自身にメリットがないから |
| 5. 具体的なイメージがわからないから |
| 6. 時間的余裕がないから |
| 7. 興味がないから |
| 8. 犯罪をした人への支援などは行政が行うべきだから |
| 9. 犯罪をした人に支援などするべきではないから |
| 10. その他 () |
| 11. わからない |

※すべての方におたずねします。

問31 あなたは、再犯防止のためには、具体的にどのようなことが必要だと思いますか。(○はいくつでも)

- | |
|---|
| 1. 刑務所・少年院・保護観察所などが個々人に応じたきめ細かな指導や支援を充実する |
| 2. 仕事と住居を確保して安定した生活基盤を築かせる |
| 3. 犯罪をした高齢者などに対して、福祉制度の利用を促進する |
| 4. 被害者の置かれた状況や心情を理解させる |
| 5. 犯罪を地域の問題として捉え地域ぐるみで再犯防止に向けた支援をする |
| 6. その他 () |
| 7. わからない |

今後の地域福祉の取組についておたずねします

問32 ともに助け合い、支え合う地域づくりを推進するために、あなたご自身ができそうなことは何だとお考えですか。(○は1つだけ)

1. 隣近所で困っている人がいたら助ける
2. 自治会活動に積極的に参加する
3. 地域内でのボランティア活動に積極的に参加する
4. 地域での趣味を活かした交流活動に積極的に参加する
5. 防犯・防災などの地域活動に参加する
6. わからない
7. その他 ()

問33 今後、湯河原町が福祉のまちづくりを充実していく上で取り組むべき施策として、どれを優先して充実すべきだと思いますか。(○はいくつでも)

1. 身近なところでの相談窓口の充実
2. 保健福祉に関する情報提供や案内の充実
3. 高齢者や障がい者が、安心して在宅生活をおくれるサービスの充実
4. 町民の健康増進・維持のための取組の充実
5. 安心して子どもを産み育てられる子育て支援の充実
6. 住民がお互いに支え合い、助け合える地域づくりの促進
7. 健康や福祉にかかわるボランティアの育成
8. 福祉教育の充実
9. 弱い立場にある人への人権侵害や虐待をなくし権利を守る仕組みづくり
10. 高齢者、障がい者、児童の福祉施設の整備・充実
11. 誰もが安心して暮らせるバリアフリーのまちづくり
12. その他 ()
13. わからない

問34 誰もが安心して健康で暮らせるまちづくりを進めていくために、日ごろよりあなたが感じていること・考えていることなどを自由にご記入ください。

.....

.....

.....

質問は以上です、ご協力ありがとうございました。
同封の返信用封筒に入れ、7月21日(火)までにご投函ください。

「湯河原町地域福祉計画」をつくるための町民アンケート調査
報告書

発行 令和8年8月

編集 湯河原町 社会福祉課

〒259-0392 神奈川県足柄下郡湯河原町中央二丁目2番地1

TEL：0465-63-2111 F A X：0465-63-2940